

# Annual Report 2012

---

年 報 2012年(平成24年)度



JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital

# Annual Report 2012

---

年 報 2012年(平成24年)度

# Contents

巻頭言 —— 病院長の言葉 .....	4
---------------------	---

## トピックス

糖尿病センター 〈2012年度のトピックス〉 .....	6
～広島県下初の糖尿病センター設立～	
大動脈瘤治療の最前線 .....	8
—ステンドグラフト治療の実際—	
PTCRA 講習会開催 .....	10
市民公開講座 .....	11

## 病院の概要

病院概況 .....	14
JA広島総合病院のあゆみ .....	15

## 活動報告

呼吸器内科 .....	18
循環器内科 .....	19
腎臓内科 .....	20
糖尿病・代謝内科 .....	21
消化器内科 .....	22
小児科 .....	24
外科 .....	25
乳腺外科 .....	26
整形外科 .....	27
脳神経外科 .....	28
呼吸器外科 .....	30
心臓・血管外科 .....	31
皮膚科 .....	32
泌尿器科 .....	33
産婦人科 .....	34
眼科 .....	35
耳鼻咽喉科 .....	36
放射線治療科 .....	37
画像診断部 .....	38
麻酔科 .....	39
歯科・口腔外科 .....	40
救急・集中治療科 .....	41
緩和ケア科 .....	43
健康管理センター .....	44
形成外科 .....	46
病理研究検査科 .....	47
臨床研修医室 .....	48
看護部 .....	49
外来 .....	50
地域救命救急センター .....	51
ICU・西3階病棟 .....	52
西4階病棟 .....	53
西5階病棟 .....	54
西6階病棟 .....	55
西7階病棟 .....	56
西8階病棟 .....	57

東3階病棟	58
東4階病棟	59
東5階病棟	60
東6階病棟	61
東7階病棟	62
東8階病棟	63
手術室	64
訪問看護ステーション	65
居宅介護支援事務所	66
薬剤部	67
臨床研究検査科	68
中央放射線科	69
臨床工学科	70
リハビリテーション科	71
栄養科	72
診療情報管理科	73
医療安全管理室	74
感染防止対策室	75
地域医療連携室	76
医事課	77
総務課	78
緩和ケアチーム	79
PEGチーム	80
栄養サポートチーム (NST)	81
DMAT チーム	82
ICT	83
RST	84
心臓リハビリテーションチーム	85
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	86
災害対策ワーキングチーム	87
各種委員会	88
出張記	98

## 実績

著書・論文	104
書籍・雑誌編集	106
学会発表	107
学会での座長	119
研究会講演・発表	120
研究会座長	129
地域活動	132
その他	136
合同カンファレンス	137

## クラブ活動

バレー部	140
サッカー部	141
テニス部	142

## 資料

統計資料	144
------	-----



## 巻 頭 言

2011年3月11日に発生した東日本大震災と原発事故から、早いもので3年が過ぎました。未曾有の大惨事でしたが、被災した人々の勇気と、秩序ある行動に私達も感銘を受けました。1日も早い復興を願っています。

さて2012年4月に私が病院長に任命されてから満2年が経ちました。執行部では病院長補佐の泌尿器科の小深田先生には昨年からは病院長代行に就任して頂き、副院長は麻酔科の中尾先生と消化器内科の徳毛先生という強力メンバーで病院運営にあたっています。そして何よりも大切な病院の財産は、病院に勤務している総勢1,000名を超えるスタッフです。今年は1月1日付けで病院の電子カルテのシステムを入れ替えました。これは容易な作業ではありませんでしたが、全職員による周到な準備のもと大きな混乱もなく無事に乗り切ることができました。

この2年の間に病院内に新しい息吹が次々と芽生えています。2011年4月に開設された地域救命救急センターは、廿日市市のみならず大竹市、佐伯区、西区の救急をカバーし、地域の中核病院としての役割を果たしています。

2013年3月には糖尿病センターがスタートし、当センターでは現在広島県内の病院の中で最も多くの糖尿病患者さんの治療にあたっています。さらに同年4月に脊椎・脊髄センター、10月に内視鏡センターが相次いで産声をあげ、その業務が軌道に乗りつつあります。

本誌は、診療科紹介、各科最新のトピックス、学会活動実績、そして入院・外来患者数など、当院の2012年度の実績をご紹介します。大学病院、近隣の病院・医院の先生、そして学生さんや行政の方々にも一読して頂ければと存じます。

昨年カープはクライマックス・シリーズに進出、サンフレッチェは2年連続優勝と広島では明るい話題が続いています。広島総合病院も新病棟建設という大きな目標に向かって一致団結してますます発展することを願っています。

2014年3月

広島県厚生農業協同組合連合会

広島総合病院

病院長 藤本 吉範



## 糖尿病センター〈2012年度のトピックス〉 ～広島県下初の糖尿病センター設立～

当院では、糖尿病患者数が今ほど未だ多くなかった時代から、故高科成良名誉院長、石橋不可止元内科部長を中心に糖尿病の早期発見・治療・臨床研究が精力的に推進されてきました。その歴史的背景を礎に、現在は2200名を超える糖尿病患者さんが常時通院されており、県内の総合病院の中で最多と認知されています。しかし従来の診療体制は、待ち時間が長い、栄養・療養相談室が診察室から遠い、など受診者に大変な不便をかけてきました。そこでこれらの諸問題を改善し、療養のサポートをする糖尿病診療チームの職種間連携を強化するため、診療機能を一カ所に集中させた糖尿病センターを数年間の構想の末、平成25年2月4日に広島県下初の糖尿病センターを開設することができました。

限られた予算・スペース・マンパワーのもとでの改築であり、受診者の皆様に100%ご満足いただける受診環境には未だ至っていないと思われませんが、患者動

線・採血待ち時間は従来より大幅に短縮し、待合室には糖尿病療養に役立つビデオを終日放映するなど、快適性・効率性は飛躍的に向上したことは疑いありません(図1)。

その結果として、図2に示しますように糖尿病療養実践のカギを握る、管理栄養士による栄養相談・看護師(糖尿病療養指導士の資格を有する)による療養相談件数は倍増してきています。スタッフ同士が常に近い距離にいる診療環境であり、問題発生から解決へのアプローチは極めて迅速かつ綿密になったことを実感しています。

新聞・テレビでも再三取り上げられ広島県全体からも注目を集めており、今後この糖尿病センターが地域全体の皆様の糖尿病克服に名実ともさらに貢献できますよう、これからもスタッフ一同精進する決意を強くしています。

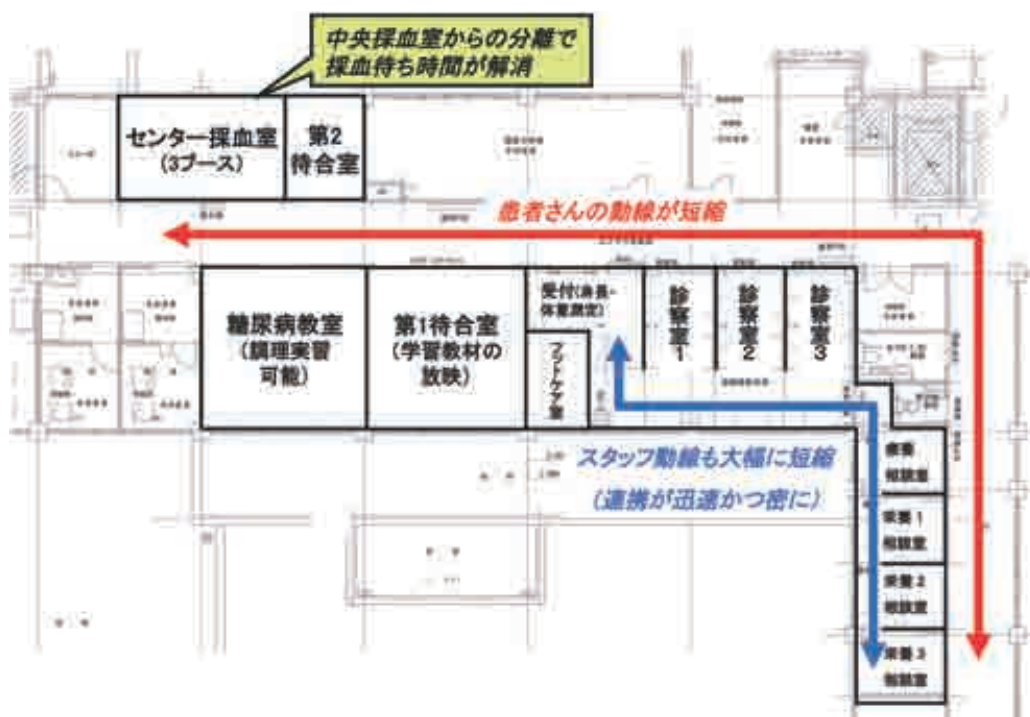


図1 糖尿病センターの全体図

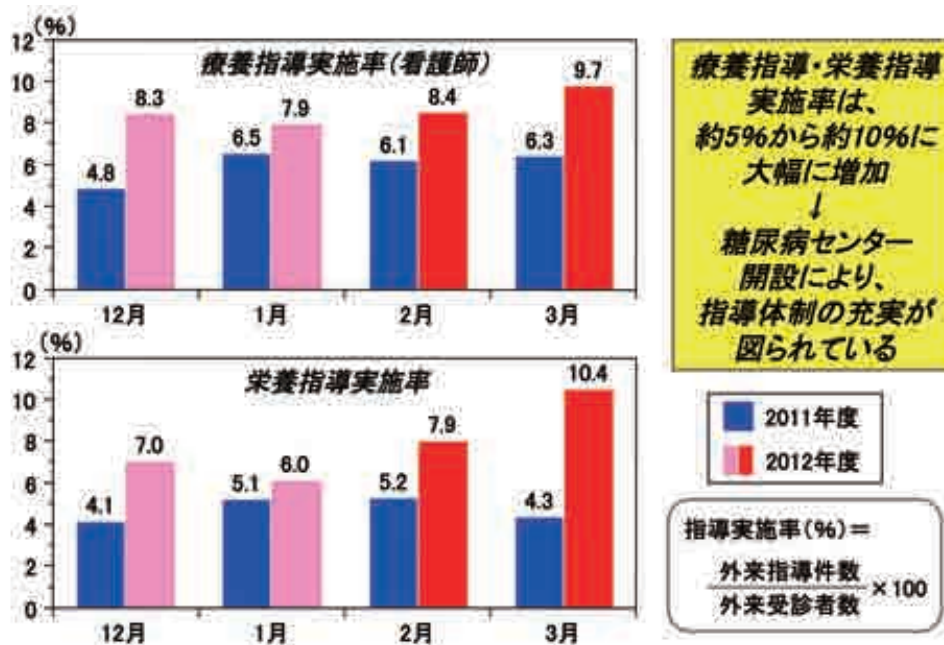


図2 糖尿病センター開設前後における療養指導（看護師）、栄養指導実施率の比較



センター採血室



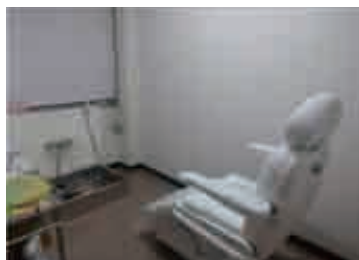
糖尿病教室



第1待合室



センター受付



フットケア室



診察室



診察室後ろ通路



相談室後ろ通路



相談室廊下側



## 大動脈瘤治療の最前線

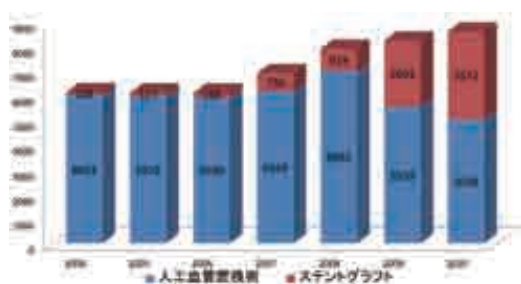
－ステントグラフト治療の実際－

心臓血管外科

### 【 はじめに 】

大動脈瘤は一定の大きさ以上になると破裂する可能性があり、破裂した場合医療の発達した現在でも救命の難しい疾患です。近年まで大動脈瘤の治療は外科的に開胸または開腹して、動脈瘤を人工血管で置換しておりました。しかし低侵襲な血管内治療であるステントグラフト内挿術が本邦でも2006年より開始されました。2010年、当院心臓血管外科は胸部および腹部ステントグラフト実施施設となり、ステントグラフト内挿術を開始しております。その最新の大動脈瘤治療、ステントグラフト内挿術を紹介します。

### 【 日本の腹部大動脈瘤手術の推移 】



### 【 ステントグラフト治療の実際 】

2006年から企業用ステントグラフトが承認されてからステントグラフト内挿術は増加の一途をたどっています。

### 【 開胸手術または開腹手術 】

開胸手術では胸骨正中または左側胸部を、開腹手術では臍を中心にして腹部を切開したうえで大動脈瘤を切り開き、代わりに人工血管を大動脈の健康な部位に縫い付けて埋め込む手術（人工血管置換術）を行います。



この術式により大動脈瘤を確実に人工血管に置換できますが、術後呼吸機能障害や腸閉塞など開胸または開腹術であるための合併症もあります。このためより低侵襲なステントグラフト内挿術が主流となりつつあります。

### 【 ステントグラフトとは 】

ステントグラフトとは、ステントといわれる金属でできたバネの部分グラフトと言われる人工血管で被覆したものです。これを血管の中に留置することにより、瘤に直接的に血圧がかからないようになり、破裂の予防を行うことができます。



胸部ステントグラフト



2006/7月認可  
Zenith

2007/1月認可  
Excluder

2008/3月認可  
PowerLink

本邦で使用可能な腹部ステントグラフト

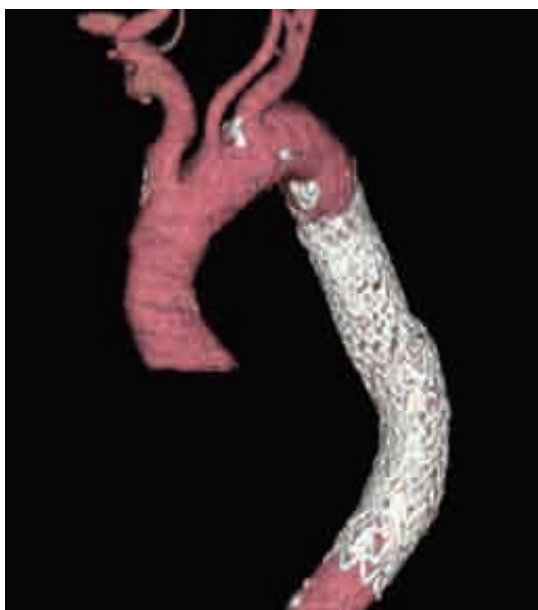


小切開手術

手術は全身麻酔下で行います。片側または両側の鼠径部に3～4cmの小切開を加えるのみで手術は可能です。

### 【 スtentグラフトの留置 】

鼠径部の小切開創からデリバリーシステムを用いて大動脈内を通過させて動脈瘤にstentグラフトを留置します。手術時間は開胸や開腹に比べてきわめて短く、胸部ではおおむね1.5時間、腹部ではおおむね2時間程度の手術です。



胸部下行大動脈瘤内に留置されたstentグラフトのCT画像



stentグラフト治療の手術風景

カテーテル室での治療と同様に、手術室でモニターを見ながら血管内治療を行います。

開腹手術	項目	stentグラフト
臍を中心に約20cm	傷	両足の付け根も5cm
3～4時間	手術時間	2時間程度
全身麻酔	麻酔	局所麻酔でも可能
1%程度	手術の危険性	1%程度
2週間	入院期間	1週間
検体	検体採取	不要

開腹人工血管置換術 vs stentグラフト内挿術

stentグラフト内挿術のほうが、患者さんの体に対してより少ない負担で治療ができます。一方長期成績に関しては本邦でのDataの蓄積が6年しかなく、現在まだ不明な部分があります。以前よりstentグラフト治療を行っている欧米での長期成績は良好です。今後、大動脈瘤治療の主流は当院でも施行可能なstentグラフト内挿術になるであろうと思われます。手術は困難といわれた大動脈瘤の患者さんを是非一度ご紹介いただければ幸いです。

## PTCRA 講習会開催

心臓血管内治療科主任部長 辻山修司

PTCRA（高速回転式冠動脈アテレクトミー：Rotablator<sup>®</sup>）は透析患者等における高度石灰化を伴う冠動脈狭窄に対して、血管内腔側の表在性の石灰化を削ることにより良好な血管拡張を得る治療手技です。当院でも PCI の内 6-10% の症例において PTCRA を施行しています。PTCRA 施行の施設基準として PCI 200 例／開心術 30 例がありますが、比較的低いハードルであり心臓血管外科を標榜している病院の循環器科では盛んに行われています。

しかしながら PTCRA の対象となる症例は上述の通り PCI 患者の一部であり、また合併症が生じた際に重篤な状態となる危険性があることより、多くの施設で限られた術者のみが施行しているのが実態です。一方で PTCRA 施行の経験症例数が少ない先生あるいはこれから PTCRA を始めようとする先生にとって理論及び手技に関する勉強をまとまって受けられる場が無いという現状があります。このため当科では Boston Scientific 要望を受けて、2012 年から当院において PTCRA 講習会を開催することとしました。

第 1 回の講習会を 2012 年 10 月 31 日に開催、2 病院から 3 名の医師に参加していただきました。まず PTCRA の理論的背景から実際の手技の手順や合併症を生じた際の対策について講義を行い、さらに質疑応答で治療法の理論的背景や burr size 選択の考え方、合併症を生じることなく手技を行うための注意点などについて勉強していただきました。その後実際に治療に用

いる治療器具を用いてガイドワイヤーの burr への通し方やその際の注意点、burr の操作方法を実体験していただきました。



その後カテ室に移動、実際の症例における手技を見学していただきました。当日は 2 例の症例に対して PTCRA を施行しましたが、1 例目は外から、2 例目は術衣を着用していただき術野により近い所で見学いただきました。手技開始前に先に講義した内容と照らし合わせながら PTCRA の適応の判断や burr size の選択、実際に手技を施行する際の具体的な注意点について解説を行いながら手技を施行しました。手技終了後は参加者からの質問を交えてディスカッションを行い、講習会を終了しました。

参加された医師の講習会に対する評価も良好であることより今後も年 2 回継続開催の予定です。同治療手技の普及の一助になればと考えています。



# 市民公開講座

## 第5回 市民公開講座

日時：平成24年6月17日（日曜日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらぴあ（大ホール）

趣旨：最近増えてきている虚血性心疾患は、狭心症や心筋梗塞など動脈硬化症によって引き起こされる病気で、生活習慣が大きく影響します。病気についての知識を深め、その治療法と予防法について知って頂く事を目的に市民公開講座を行います。

テーマ：胸が苦しい！ 広総に行けば安しんぞう！

～虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）について知りましょう～

〈演題〉

### 1. 「虚血性心疾患って何？」

循環器・呼吸器疾患センター長 藤井 隆

### 2. 「虚血性心疾患の内科的治療」

心臓血管内治療科主任部長 辻山 修司

### 3. 「虚血性心疾患の外科的治療」

心臓血管外科主任部長 川本 純

### 4. 「虚血性心疾患の予防」

リハビリテーション科 本間 智明  
栄養科 中西 弘子

〈会場風景〉



参加者：644人

参加者の感想：

- ・一連の流れが統一されていてわかりやすかった。
- ・治療から、運動や食事の話もあり、分かりやすくて良かった。
- ・とても参考になったので、一つでも実践しようと思う。

他多数の意見を頂きました。



## 第6回 市民公開講座

日時：平成25年1月27日（日曜日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

趣旨：いまや約1000万人の国民がかかっていると推定されているのが糖尿病です。放置すると様々な合併症を生ずるこの病気を理解し予防や治療を正しく実践して頂く事を目的に市民公開講座を開催します。

テーマ：糖尿病は広総にまかせんさい！

～糖尿病について正しく学びましょう～

〈演題〉

1. 「糖尿病を治療する本当の意味は何なのか？」

糖尿病センター長 石田 和史

2. 「私、糖尿病って言われたんじゃけど…」

～一緒にクイズに参加しようや～

糖尿病サポートチーム

看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療養士・

臨床検査技師・社会福祉士

3. 質疑応答

～日頃、糖尿病について疑問に感じておられることにお答えします。～

パネリスト 糖尿病代謝内科部長 浅生 貴子

糖尿病代謝内科医師 小川 寛子

〈会場風景〉



参加者：869人

参加者の感想：

- ・石田医師の講演に対しては、「モニターがあつてわかりやすかった。新たな認識ができた。」
- ・糖尿病サポートチームの講演には、「会場との対話形式で、考えさせられることで身に入った。」
- ・「楽しみながら参加できた。」
- ・質疑応答に関しては、「時間が短く、会場からの質問を増やして欲しかった。」

他多数の意見を頂きました。



■ Annual Report 2012 2012年(平成24年)度 年報 ■

---

# 病院の概要

# 病院概況

病院基本理念 私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

- 基本方針
- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
  - 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
  - 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
  - 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院		
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573		
開設年月日	1947年12月23日		
許可病床数	561床（一般）		
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 理事長 石原照彦		
病院長	藤本吉範		
土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
	計	16,792.8㎡	34,815.15㎡
診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科		

病棟別許可病床数（一般561床）

西棟		階	東棟	
内(呼吸)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳)	43床
外(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床
計	284床			277床
計561床				

指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院群輪番制病院 昭和55年2月4日</li> <li>・災害拠点病院 平成9年2月14日</li> <li>・脳死臓器提供病院 平成9年8月1日</li> <li>・救急指定病院(救急告示番号第374号) 平成23年4月14日</li> <li>・臨床研修指定病院 平成15年10月30日</li> <li>・地域医療支援病院 平成16年8月12日</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院 平成18年8月24日</li> <li>・DPC対象病院 平成21年4月1日</li> <li>・地域救命救急センター 平成23年4月1日</li> <li>・へき地医療拠点病院 平成23年9月6日</li> </ul>
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション 平成6年5月1日</li> <li>・居宅介護支援事業所 平成11年11月4日</li> </ul>
施設基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本診療料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料7:1入院基本料 平成18年5月1日</li> <li>・総合入院体制加算 平成21年4月1日</li> <li>・急性期看護補助体制加算 平成22年4月1日</li> <li>・診療録管理体制加算 平成14年4月1日</li> <li>・医師事務作業補助体制加算 平成20年11月1日</li> <li>・医療安全管理加算 平成20年4月1日</li> <li>・臨床研修病院入院診療加算 平成16年4月1日</li> <li>・療養環境加算 平成12年4月1日</li> <li>・重症患者等療養環境管理加算 平成14年4月1日</li> <li>・小児入院医学管理料4 平成20年4月1日</li> <li>・栄養サポートチーム加算 平成22年9月1日</li> <li>・感染防止対策加算 平成22年4月1日</li> <li>・救急医療管理加算 平成18年4月1日</li> <li>・患者サポート充実加算 平成24年4月1日</li> <li>・ハイリスク分娩管理加算 平成20年6月1日</li> </ul> </li> <li>■特掲診療料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・開放型病院共同指導料(20床) 平成12年6月1日</li> <li>・薬剤管理指導料 平成12年4月1日</li> <li>・がん性疼痛緩和指導管理料 平成22年4月1日</li> <li>・画像診断管理加算1 平成14年4月1日</li> <li>・無菌製剤処理加算 平成20年4月1日</li> <li>・外来化学療法加算1 平成20年4月1日</li> <li>・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 平成2年2月1日</li> <li>・体外衝撃波胆石破碎術 平成4年4月1日</li> <li>・糖尿病合併症管理料 平成20年5月1日</li> <li>・ペースメーカー移植術 平成10年4月1日</li> <li>・ // 交換術(電池交換を含む) 平成10年4月1日</li> <li>・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) 平成10年4月1日</li> <li>・経皮的冠動脈形成術 平成10年4月1日</li> <li>・麻酔管理 平成8年4月1日</li> <li>・放射線治療専任加算 平成13年5月1日</li> <li>・高エネルギー放射線治療 平成14年4月1日</li> <li>・脊髄刺激装置植込術又脊髄刺激装置交換術 平成14年6月1日</li> <li>・単純CT撮影及び単純MRI 平成18年4月1日</li> <li>・心大血管疾患リハビリテーション(I) 平成21年5月1日</li> <li>・運動器リハビリテーション(I) 平成18年4月1日</li> <li>・呼吸器リハビリテーション(I) 平成18年4月1日</li> </ul> </li> </ul>
認定	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本医療機能評価機構(区分4 Ver.6.0) 平成23年3月18日</li> <li>DMAT指定医療機関(災害派遣医療チーム) 平成18年9月24日</li> </ul>

平成25年4月1日現在

# JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
		神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター





# 呼吸器内科

## ■ スタッフ

主任部長 櫻井 穰 司 (H7年卒)

日本呼吸器学会専門医  
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医  
日本内科学会認定医  
専門分野：気管支喘息、肺癌

部長 近藤 丈 博 (H10年卒)

日本呼吸器学会専門医  
日本内科学会認定医  
専門分野：急性呼吸不全、間質性肺炎、ARDS

部長 河野 秀 和 (H11年卒)

日本呼吸器学会専門医  
日本内科学会認定医  
専門分野：呼吸器一般（肺癌、中皮腫）

医員 山岡 千 尋 (H21年卒)

専門分野：呼吸器全般

医員 若林 優 (H22年卒)

専門分野：呼吸器全般

## ■ 診療科紹介

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

### 【肺がん】

2011年度 肺がん	全体	うち新規
件数	209	76
化学療法	71	58
2012年度 肺がん	全体	うち新規
件数	181	85
化学療法	103	61

例えば初診から治療まで当院では呼吸器外科と放射線治療部と連携し最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われる。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方を診てあげることができればと思います。

### 【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院への紹介も行っています。また最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

### 【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますがまだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

### 【COPD(慢性閉塞性肺疾患)：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

### 【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

### 【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近では徐々にされる開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

# 循環器内科

## ■ 診療科の紹介

平成 25 年 3 月現在、当科は、表 1 に示すように総勢 7 名の科です。(有資格者数は、日本循環器学会専門医 4 名・日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名・日本高血圧学会高血圧専門医 1 名)。また日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。

表 1 循環器内科メンバー

氏名(卒年)	役 職	資 格
藤井 隆 (昭和 57 年)	診療部長 循環器・呼吸器疾患センター長	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医
辻山 修司 (昭和 62 年)	心臓血管内治療科主任部長	日本内科学会認定医 医学博士
前田 幸治 (平成 2 年)	主任部長	日本循環器学会専門医 日本インターベンション学会指導医
荘川 知己 (平成 6 年)	部 長	日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医
久留島秀治 (平成 10 年)	部 長	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医
佐倉 拓朗 (平成 21 年)	医 員	日本内科学会認定医
久保祐美子 (平成 22 年)	医 員	

対象とする主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、弁膜症、心筋炎、筋症、先天性心疾患、高血圧、高脂血症、不整脈(徐脈・頻脈)などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合、循環器内科医と心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針が検討され、最終的な治療方針が決定されます。これは診療上、極めて有益と考えています。また開業医の先生方との病診連携に重点を置き、この 14 年間、年 2 回の病診連携の会を開催し、その連携を深めています。また地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救命救急センターの循環器領域を担っています。

## ■ 診療実績

平成 24 年度までの 3 年間の当科の実績を表 2 に示します。平成 24 年度は、心臓カテーテル検査(診断を含): 661 例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション(PCI)症例: 262 例で、急性冠症候群症例も約 100 件含まれている。また PCI 時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置のため血管内超音波(IVUS)をほぼ全症例で使用しています。

表 2 循環器内科実績

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
年間延べ外来患者数	13,252	14,039	14,019
年間延べ入院患者数	929	1,096	1,021
急性心筋梗塞患者数	72	75	97
<b>【生理学的検査】</b>			
運動負荷試験(トレッドミル)	420	97	69
ホルター心電図	563	390	506
経胸壁心エコー図	4,562	4,851	5,157
経食道心エコー図	71	91	115
<b>【心臓カテーテル検査】</b>			
心臓カテーテル検査総数	676	714	661
緊急 PCI(急性冠症候群の治療)	79	117	94
待機的 PCI	221	159	158
PCI 総数	300	289	262
診断造影のみ	376	425	385
大動脈内バルーンパンピング	36	30	27
経皮的心肺補助装置(PCPS)	8	4	16
<b>【末梢血管カテーテル治療】</b>			
経皮的末梢血管形成術(PTA)	29	35	19
経皮的腎動脈形成術(PTRA)	8	7	5
<b>【不整脈関係】</b>			
ペースメーカー植込	35	31	34
電気生理学的検査	12	21	16
<b>【非侵襲的冠動脈検査】</b>			
心臓核医学(RI)検査	359	420	450
冠動脈 CT 件数	648	709	671

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施行しています。大動脈内バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補助装置(PCPS)を重症例に施行しています。

末梢血管に関して、重症難治性潰瘍などの下肢虚血を含む閉塞性動脈硬化症に関して心臓血管外科との協力の下、血管内治療を積極的に行っています。徐脈に関して電気生理学的検査やペースメーカーの植込(新規・植替)も施行しています。

また非侵襲的検査も多数実施しています。画像診断部と中央放射線科の協力の下に 64 列心臓 CT 検査(カテーテル検査数に匹敵する 671 例)、心臓核医学検査(450 例)を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。生理機能検査科の協力の下、5,157 件を超える心臓超音波検査や 115 例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も施行しています。

また「胸が苦しい! 広総に行けば安しんぞう!」のタイトルで市民公開講座を 6 月に開催し虚血性心疾患に対する市民への啓蒙活動を行いました。

## ■ 将来展望

地域救命救急センターが平成 23 年 4 月 1 日より開設されました。循環器領域の救急患者にも対応していく予定で、今後も適切かつ積極的な医療活動を行っていく所存です。

# 腎臓内科

## ■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)

医学博士

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

臨床研修指導医

医師 吉田 健 (2009年三重大学卒業)

日本内科学会認定内科医

医師 下田 大紀 (2009年関西医科大学卒業)

日本内科学会認定内科医

医師 眞田 亜季 (2010年大分大学卒業)

日本内科学会認定内科医

## ■診療科紹介

当院腎臓内科は2012.4.より広島大学病院より眞田医師が新たに着任し、先任の荒川医師、吉田医師、下田医師と合わせ4人体勢で診療を行っております。

当院腎臓内科は各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会専門医制度認定施設に認定されております。

現在、日本には約30万人の透析患者さんがおり、これは国民450人に1人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年1万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約1300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激な増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎

不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究で明らかにされており、近年慢性腎臓病の早期診断及び早期治療の重要性が叫ばれています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果に基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。

透析療法に関しては積極的に腹膜透析（PD）導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析（HD）、各種疾患に対するアフェリシス療法も積極的に行っています。

## ■診療実績

2012 実績

腎生検数	35 例
血液透析患者数（入院）	210 名
血液透析患者数（外来）	29 名
腹膜透析患者数	18 名

## ■教育・研修活動

当科では、研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

# 糖尿病・代謝内科

## ■スタッフ

石田 和 史 (昭和 61 年卒、主任部長) 昭和 63 年～  
浅生 貴 子 (平成14年卒、部長) 平成24年4月～  
小川 寛 子 (平成 20 年卒、平成 24 年 4 月～25 年 3 月)

## ■診療状況

症例数：定期通院外来患者数 約 2,400 名

**糖尿病** 外来定期通院患者 計約 2,200 名

(平均年齢 69 歳、平均罹病期間 18 年)

(1 型糖尿病 6%、2 型糖尿病 93%、その他 1%)

糖尿病入院患者 143 名

2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携  
パス紹介患者総数230名(うち65%が継続中)

★インスリン治療(経口血糖薬併用を含む)  
30%以下に内訳を示す

1型(SPIDDMを含む)：5回法32%、4回法  
38%、3回法20%、2回法10%

2型：4回法9%、3回法20%、2回法63%、1  
回法8%

★2型糖尿病における治療内容内訳(全患  
者に占める割合を示す、重複あり)

SU薬39%、グリニド薬8%、BG薬52%、チアゾ  
リジン22%、αG薬10%、DPP-4阻害薬27%

GLP-1受容体作動薬4%、インスリン治療  
25%、食事・運動療法のみ15%

★定期通院患者のHbA1c(NGSP値)年間平均  
値(2013年3月時点) 1型:7.89% 2型:7.38%

★定期通院患者の合併症の状況

1) 神経障害(当院オリジナルのCPTによる  
病期分類)

- ▶ 0期(なし) 26%
- ▶ 1期(知覚過敏期) 14%
- ▶ 2期(知覚概ね正常&アキレス腱反射低下) 36%
- ▶ 3期(軽度知覚鈍麻期) 13%
- ▶ 4期(中等度知覚鈍麻期) 7%
- ▶ 5期(高度知覚鈍麻期) 4%

2) 網膜症

- ▶ なし 64%
- ▶ 単純性網膜症 28%
- ▶ 増殖前網膜症 1%
- ▶ 増殖網膜症 7%

3) 腎症

- ▶ 1期 62%
- ▶ 2期 24%
- ▶ 3A期 5%
- ▶ 3B期 4%
- ▶ 4期 3%
- ▶ 5期 2%

4) 大血管障害(動脈硬化症)

- ▶ 脳血管障害 11%
- ▶ 冠動脈疾患 10%
- ▶ 閉塞性動脈硬化症 10%

**甲状腺疾患** 約 200 名(バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ)

※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

**下垂体機能低下症および副腎機能低下症** 若干名

## ■研究活動

治験

- 1) 経口血糖降下薬で効果不十分な2型糖  
尿病患者に対するインスリンリスプロ  
混合製剤-50の段階的導入法の有効性  
および安全性の検討(第IV相試験)
- 2) 腎機能障害を伴う2型糖尿病患者を  
対象としたTS-071(SGLT-2阻害薬)  
第III相試験
- 3) AS-3201の糖尿病性末梢神経障害  
患者を対象としたプラセボ対照二重  
盲検群間比較試験(第III相試験)

受託研究

- 1) 糖尿病網膜症合併高コレステロール血  
症患者を対象としたスタチンによるLDL-C  
低下療法(通常治療/強化治療)の比較研究  
(EMPATHY試験)

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査(CPT)を用  
いた糖尿病神経障害の評価・長期成  
績(治療戦略を視野に入れた病期分  
類確立とその応用)
- 2) 諸種インスリンアナログ製剤の臨床  
効果の比較研究(リスプロmix25と  
アスパルト30mixの相違、を中心に)
- 3) シスタチンCを用いた腎症評価の  
妥当性について
- 4) 混合型インスリン製剤とDPP-4阻  
害薬併用の臨床効果

# 消化器内科

## ■ スタッフ

氏名	役職	専門分野
石田 邦夫 (Kunio Ishida)	参与	肝疾患 肝炎インターフェロン 治療
徳毛 宏則 (Hironori Tokumo)	副院長 消化器内科主任部長 医療安全管理室長	肝・胆道疾患 内視鏡下処置 超音波下処置 NASH、胃瘻関連手技
小松 弘尚 (Hironao Komatsu)	内視鏡科主任部長 緩和ケア科主任部長	上部下部消化管疾患 内視鏡下処置 消化器癌治療 緩和ケア
藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto)	消化器内科主任部長 代理	膵胆道疾患の内視鏡 診断治療 膵臓胆道癌の化学療法
古土井 明 (Akira Furudo)	内視鏡科主任部長代 理	上部下部消化管疾患 内視鏡診断治療
野中 裕広 (Michihiro Nonaka)	消化器内科部長	肝胆膵領域 内視鏡的診断治療 超音波診断 超音波下処置
瀧川 英彦 (Hidehiko Takigawa)	消化器内科医員	消化器疾患全般
富永 明子 (Akiko Tominaga)	消化器内科医員	消化器疾患全般
宮森 純子 (Junko Miyamori)	消化器内科医員	消化器疾患全般

## ■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢9名となっています。すなわち、平成24年4月より富永、宮森のふたりの優秀な消化器内科医師がわれわれの仲間に加わりました。今までにも増して充実した診療を提供して参ります。一口に消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。JA広島総合病院消化器内科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

消化器内科診療では数多くの医療機器を使って診断や治療するのが大きな特徴です。日常診療で活躍する上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）、十二指腸内視鏡検査や下部消化管内視鏡（大腸カメラ）、腹部超音波検査（腹部エコー）などに加え、ダブルバルーン小腸内視鏡や超音波内視鏡装置も整備さ

れています。各分野の最新の診療状況を述べてみましょう。



〈オープンホスピタルにてお子様に内視鏡を指導中〉

食道・胃領域では、早期癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない方法で内視鏡治療での完治をはかります。下部消化管内視鏡でのポリープ切除術（EMRなど）は数多くの症例があり地域の皆様に貢献しています。また、当科は平成24年度より先進的医療技術である大腸における内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の健康保険診療可能施設として認可され多数の症例で実践しています。

肝臓領域のトピックスとして、日本のリーダー的施設である広島大学消化器代謝内科と連携してウィルス性肝炎に対してのPEGインターフェロンや核酸アナログ製剤など最新の治療も提供しています。肝臓癌に対してはさまざまな治療方法がありますが、各患者さんの病状を十分に検討した上で、当科では内科的な治療法であるラジオ波焼灼療法（RFA）、当院の肝胆膵外科と連携しての肝切除手術なども実施しています。

膵・胆道領域では、十二指腸内視鏡を使っての診

断（ERCP）や各種治療（EST や ERBD）など、症例に応じた最適な治療法を選択し実施しています。膵臓癌などの最新診断手技のひとつである超音波内視鏡を使った細胞診検査（EUS-FNAB）も活発におこなっており診断成績の向上に役だっています。近年、多数の膵臓・胆道癌症例が増えてくるに連れ、患者・ご家族に対して病態や治療への理解を深めていただいたり精神的な支えサポートの必要性を痛感するようになりました。そこで平成 24 年度より新たに「膵臓がん胆道がん教室」の開催をはじめました。全国でもまだ 8 施設程度しか始められていない試みですが、回数を重ねて成果が出てきています。

当科は以前よりこれらの診療実績が認められており、関連する各学会から認定施設として指定されています。日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本胆道学会認定施設、PEG 在宅医療研究会認定施設管理施設などです。

地域のかかりつけの先生との連携を充実させ患者さんを中心に地域で診療していくという理念を実現する方策として、平成 23 年度より RIGID Net（地域相互消化器医師ネットワーク）を地元医師会の先生方と構築いたしました。すでに 8 回の講演会や症例検討会をおこない活発に交流しています。また、院内で毎週開催しております「Cancer Board(多科連携消化器癌診療検討会)」を地域の先生方とも共有できる形を目指して「Cancer Board Open Conference(西部地区がん診療オープンカンファレンス)」を年に 2 回定期的に開催することとし、すでに 4 回開催いたしました。また、昨年度から始めた地域のかかりつけの先生方と膵臓癌の患者さんを定期的に共同診療していく地域連携パスも順調に展開しています。

広島総合病院消化器内科は、患者さん本位の診療をモットーに最先端の医療を提供し地域に貢献してまいります。

## ■ 研究活動

広島総合病院消化器内科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

## ■ 検査実績

消化器内科・内視鏡科検査処置件数（2012 年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4,252
上部消化管内視鏡処置（含 EUS）	875
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP 等）	491
小 計	5,618
下部消化管内視鏡検査	1,298
下部消化管内視鏡処置治療	658
小 計	1,956
全消化管検査処置合計	7,574
腹部超音波検査（含造影 US）	4,984
腹部超音波下処置	129
超音波関連検査処置合計	5,113
その他（造影等）	202
消化器内科検査処置合計	12,889

# 小児科

## ■ スタッフ

主任部長 中 島 千恵子

資格 小児科専門医、心の相談医、産業医、臨床研修指導医  
 専門 小児神経（てんかん）、小児内分泌（成長ホルモン）

主任部長（小児アレルギー担当） 岡 島 宏 易

資格 小児科専門医、医学博士、日本アレルギー学会指導医、日本アレルギー学会専門医、臨床研修指導医  
 専門 小児アレルギー（喘息、食物アレルギー）

部長 藤 井 寛

資格 小児科専門医、日本腎臓病学会腎臓病専門医、日本腎移植学会認定医、臨床研修指導医  
 専門 小児腎臓

医師 樋 口 公 章

資格 小児科専門医、新生児蘇生法インストラクター  
 専門 新生児

## ■ 診療科紹介

2012年3月に古井潤が退職し、東京女子医大腎臓小児科で研修していた藤井寛が部長として着任しました。2012年4月から、中島（主任部長）、岡島（主任部長、小児アレルギー担当）、藤井（部長）、樋口の4名体制で小児科医療をおこなってきました。

当科の特色は以下の3点です。

- ① 二次医療機関として、入院患者受け入れ機関であること。
- ② 小児領域専門診療が可能であること。（特に小児神経、小児アレルギー、小児腎臓）
- ③ NICUは設置していないが、院内出生の病的新生児に対し、できるだけ迅速な対応ができること。

常勤スタッフが4名のため、小児時間外救急には対応しておりませんが、重症児の救急車での搬送受け入れは救急センタースタッフと連携して行っています。

2013年3月をもって30年以上に渡り当科の医療を中心的に担ってこられた中島先生が定年をむかえられ、4月以後は嘱託医として診療されています。

## ■ 診療実績

成長ホルモン負荷試験

09年 35件、10年 23件、11年 35件、12年 27件

脳波

09年 530件、10年 517件、11年 528件、12年 540件

予防接種

09年 444件、10年 590件、11年 530件、12年 550件

シナジス接種

09年度延べ109件、10年度135件、11年度164件、12年度112件

エピペン（アドレナリン自己注射薬）処方件数

09年 4件、10年 7件、11年 6件、12年 14件

食物アレルギー傾向負荷試験

09年 外来19件、入院27件  
 10年 外来40件、入院11件  
 11年 外来44件、入院6件  
 12年 外来70件、入院7件

心エコー

09年 355件、10年 362件、11年 282件、12年 234件



# 外科

## ■ スタッフ

役 職	氏 名	資 格	専 門
診療部長 一般外科治療 センター長 肝胆膵外科主 任部長	中光 篤志	医学博士 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医 広島大学臨床教授	肝胆膵 消化器
消化管外科主 任部長 化学療法主任 部長	今村 祐司	医学博士 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 抗菌化学療法認定医 インフェクションコントロールドク ター (ICD)	消化管
肝胆膵外科主 任部長代理	佐々木 秀	医学博士 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医・ 評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認 定医 インフェクションコントロールドク ター (ICD)	肝胆膵 外科
消化管外科部 長 栄養科主任部 長 (NST) 腹部救急治療 科主任部長	香山 茂平	医学博士 日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本外科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認 定医 インフェクションコントロールドク ター (ICD)	大腸 外科
肝胆膵外科部 長	大下 彰彦	医学博士 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝臓病学会専門医 日本透析医学会専門医 日本消化器病学会専門医	肝胆膵 外科
消化管外科部 長	加納 幹浩	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認 定医	胃外科
一般外科治療 センター部長	中村 浩之	医学博士 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医	一般 外科
一般外科治療 センター副部 長	埜越 宏幸		一般 外科
一般外科治療 センター	山口 拓朗		一般 外科
一般外科治療 センター	熊田 高志		一般 外科

## ■ 診療状況

当院は H18 にがん拠点病院に指定されており、癌患者の手術件数も年々増加傾向にあります。またその地域性から急性腹症の診療数も多く、全手術件数は 980 例で、主要な疾患内訳は下図のようになっていきます。

スタッフは総勢 10 名であり、6 名が消化器外科外科学会専門医を取得しています。診療は臓器別（上部消化管、下部消化管、肝胆膵）にわかれて行われ専門性を発揮しています。

手術では、腹腔鏡手術の増加が特徴であり低侵襲手術を追及しています。特に肝臓外科（大下）は、他施設ではほとんど施行されていない腹腔鏡下肝切除術にいち早く取り組み、9 例に施行されました。食道癌に対する鏡視下手術も開始され、9 例に施行され、その他消化管癌に対しても半数以上が鏡視下手術で施行されています（胃癌 53%、大腸癌 67%）。また悪性疾患のみならず、急性腹症領域でも鏡視下手術を施行することが増えています（虫垂切除術 68.7%、胆嚢摘出術 94.5%）。

また癌治療にとって、手術との両輪である化学療法治療にも積極的に取り組んでいますが、化学療法室の設置により、安全・円滑に多くの外来化学療法が施行できるようになっています。さらに各種副作用のマネージメントが以前より格段に向上しており、快適に intensive な外来化学療法が施行できるようになっています。

論文発表・学会発表も別掲のように積極的に行われています。

## ■ 2012 年度手術症例内訳

	症例数	(腹腔鏡)		症例数	(腹腔鏡)
食 道	9	(5)	鼠経ヘルニア	117	
胃 癌	76	(40)	腹壁ヘルニア	22	
胃十二指腸良性	8		腸 閉 塞	38	(8)
結 腸 癌	119	(88)	消化管穿孔	28	(2)
直 腸 癌 (内経肛門切除)	52 (7)	(23)	肛 門 手 術	15	
大 腸 良 性	17	(1)	虫 垂 炎	83	(57)
肝 (原発肝癌) (転移性)	21 (10) (8)	(9)	人工肛門造設	24	
胆 道 悪 性	2		人工肛門閉鎖	13	
胆 道 良 性	146	(138)	バ イ パ ス	7	
膵	20		局 麻 (ポート造設など)	88	
甲 状 腺	48		そ の 他	27	(6)
			計	980	(377)

# 乳腺外科

## ■ スタッフ

主任部長 船越 真人

卒年：昭和 62 年

取得資格：日本外科学会指導医・専門医

日本乳癌学会乳腺専門医

部長 梶谷 桂子

卒年：平成 13 年

取得資格：日本外科学会専門医

日本乳癌学会乳腺専門医

医師 安井 大介

卒年：平成 11 年

取得資格：日本外科学会専門医

日本乳癌学会乳腺認定医

## ■ 診療科紹介

乳癌の診療には、画像・病理による的確な治療前診断のもと、手術・放射線治療・薬物療法による繊細な集学的治療が要求されます。

外科療法では、現在も胸筋温存乳房切除術や乳房部分切除術が標準術式として行われています。2012年度、当院では 56.6% に乳房部分切除術を施行いたしました。その切除範囲の決定には、従来からの 3D-CT・3D-MRI・4D-US に加え、本年度は CT の画像情報を US にシンクロさせる RVS(real-time virtual sonography) も用いて、より過不足ない切除範囲の決定を追求しています。

センチネルリンパ節生検は、従来から 3D-CT lymphography (3DCTLG) + 色素 + RI の 3 法を併用してまいりました。本年度は前述の RVS を追加しより正確なセンチネルリンパ節診断を探求しています。

乳房再建につきましては、当院形成外科と綿密な連携の中で、ご要望に合わせて積極的に取り組んでいます。

放射線療法につきましては、放射線治療科と連携し、術後には根治目的の照射を、再発症例には症状緩和目的の照射・がん救急目的の照射を行っています。

薬物療法におきましても、サブタイプ評価に合わせて新規薬剤を積極的に導入し、病変の縮小、生存

期間の延長をめざす取り組みを継続しています。

## ■ 診療実績

乳癌手術

乳房部分切除術 56 件

胸筋温存乳房切除術 43 件

その他 2 件

乳腺良性手術 15 件

## ■ 研究活動

日本国内で展開中の各臨床試験に参加しています。

CSPOR

JBCRG

KBCSG

ACTG-Breast

## 整形外科

### ■ スタッフ

病院長	藤本吉範 (2002年4月～)
主任部長	高田治彦 (2010年4月～)
部長	山田清貴 (2009年4月～)
部長	橋本貴士 (2011年4月～)
部長	中前稔生 (2012年4月～)
医員	高澤篤之 (2010年4月～)
医員	中川寛顕 (2012年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前

関節外科：高田、橋本

手の外科：リウマチ：高田

外傷：高澤、中川

### ■ 診療状況

整形外科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2012年度の初診患者数は1,582名で地域医療支援病院紹介率は122%です。また当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2012年度の手術件数は1219例で、そのうち頸椎手術が102例、腰椎手術が543例と多くの脊椎・脊髄疾患の手術を行っているのが当科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

脊椎の手術では手術用顕微鏡を用いて、低侵襲で正確な手術を行っています。さらに術中の電気生理学的モニタリングにより手術の安全性を確保しています。症例によっては新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2012年度には21例の経験があります。

また当科では脊椎椎体骨折後長期の安静加療により活動性が下がり要介護になることを予防するため、経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行っ

てきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して行っています。2012年度の後弯矯正手術例は198例です。

2013年4月からは、病院内に脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：中前稔生）を新しく開設し、脊椎・脊髄治療チームとしてより集学的な治療を行います。

2011年4月に当院に開設された地域救命救急センターの医師とは互いに協力しつつ診療を進めています。当院には多くの救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科の外傷に対しても、質の高い治療を行うよう心がけています。

高齢者の増加に伴い症例数が増えている大腿骨近位部骨折に関しては地域連携パスを運用し、回復期リハビリテーションが可能な3病院（アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院）と連携して加療を行っています。橈骨遠位端骨折に対しては、以前は保存的治療が主に行われた時代もありましたが、活動性の高い患者さんには積極的に手術を行い、QOLを低下させないことを目標としています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

### ■ 治験

腰椎椎間板ヘルニア患者を対象としたS1-6603のプラセボに対する優越性検証試験（第Ⅲ相試験）治験実施計画書番号：6603/1031

# 脳神経外科

## ■ スタッフ

主任部長 黒木 一彦 (1991年広島大学卒業)  
日本脳神経外科専門医、日本脳卒中学会専門医  
日本救急医学会専門医、臨床研修指導医

脳血管内治療科主任部長

渋川 正顕 (1992年広島大学卒業)  
日本脳神経外科専門医、日本脳卒中学会専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

副部長 織田 祥至 (2005年広島大学卒業)  
日本脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

医員 下永 皓司 (2008年順天堂大学卒業)

## ■ 活動報告

当院脳神経外科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、パーキンソン病などの機能的疾患など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2012年度では651人の入院があり、脳梗塞が180人、脳出血が74人、くも膜下出血29人、脳腫瘍が32人でした。手術数も年々増加傾向にあり、2012年度は198例でした。代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

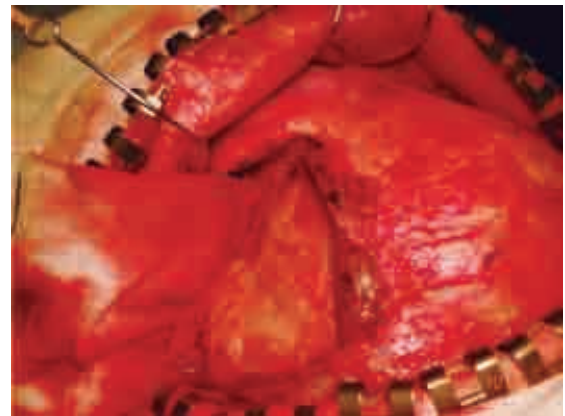
### 【脳梗塞】

大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事制限が必要なく、飲みやすくなっています。脳血栓症にはアテローム血栓とラクナ梗塞とに細別できます。生活の欧米化に伴い、高血圧・高脂血症が主原因である頸部内頸動脈

狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓原となったり、血流低下の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除するCEAという治療にかわり、当院ではほぼ全例にCASを行っています。血管拡張時にアテローム血栓が遊離し、脳梗塞を生じる危険性がありますが、protection deviceの発達により危険率は低減しています<写真①>。12年度は19例施行し、合併症なく良好な治療成績を収めています。

### 【脳出血】

高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療がほとんどです。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的な治療がなにより重要だと考えています。



左前頭部開頭手術の様子

### 【くも膜下出血】

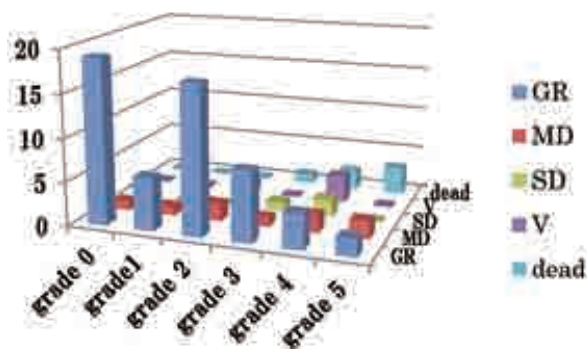
脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状は多岐にわたります。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応

です。以前は wide neck 動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近はステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。



開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck, 血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。

ました。1例は肺塞栓症、2例は術後出血による麻痺を生じています。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治療が困難であり、特に grade IV においては30年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍です。



(grade 0 ; 無症状、grade V は昏睡状態です。)

### 【脳腫瘍】

脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため(生検)、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々にたてます。当科における2006年以降の88例の脳腫瘍手術中3例の術後悪化を認め

# 呼吸器外科

## ■ スタッフ紹介

主任部長 渡 正 伸 (2001年10月～)  
 医 員 黒 尾 優 太 (2012年4月～2013年3月)

## ■ 診療状況

呼吸器外科は2001年10月、主任部長の渡 正伸が着任して設立された比較的新しい診療科です。近年増加の一途である肺癌の手術については胸腔鏡を用いたより専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療科が設立されたわけです。

最近の年間手術症例は130-150例、そのうち肺癌根治術は50-70例行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用していますが、一方、拡大手術が必要とされる進行肺癌においては、高い技術と術後管理能力が問われます。中でも胸骨正中経路による両側縦隔リンパ節郭清術については県下で唯一行える呼吸器外科施設と言えます。また肺疾患（COPDなど）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。

その他に予防医療活動も重要と考えています。病気になるように子どもの時からタバコの有害性を知ってもらうための防煙授業を地域の小学校に向いて行う活動を2001年より継続しています。また肺癌をより早期で発見するために胸部CT検診も2002年より開始して現在に至っています。このように肺癌などの病気について、治療はもとより、予防が重要と認識しており、社会全体の中で病気の治療をしていきたいと考えています。

## ■ 診療実績

2012年度の手術件数を図1に示します。術前のチーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来による潜在COPD患者の診断治療について2013年10月アメリカ胸部疾患学会で発表しました。(図2)。

胸部CT検診は2010年秋に検証試験(NLST)で肺癌死亡率を有意に減少することが証明され、有効であることが立証された検診です。このためその後の受診者数は増加しています(図3)。

## ■ 研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫  
 術前から開始する総合的周術期管理  
 術前肺機能検査によるCOPDスクリーニング

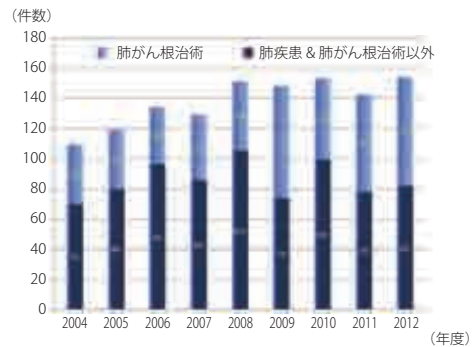


図1

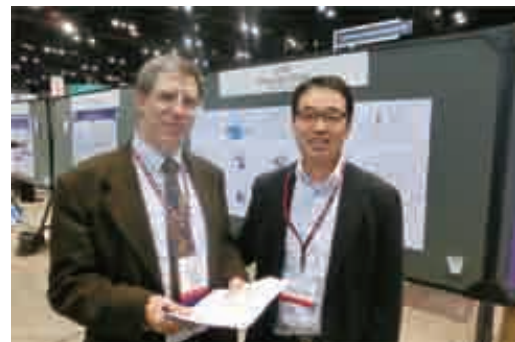


図2



図3

# 心臓・血管外科

## ■スタッフ

主任部長 川 本 純 (H7年卒)  
日本心臓血管外科専門医、日本外科学会専門医

部長 小 林 平 (H11年卒)  
日本心臓血管外科専門医、日本外科学会専門医

医員 前 田 和 樹 (H21年卒)

## ■診療科紹介

心臓血管外科とは文字通り心臓と血管に対する治療を行う科です。心臓や胸部の大血管などの開心術（心臓を一時的に止め、人工心肺が必要です）、胸部大動脈以下の腹部大動脈や下肢の動脈手術、下肢静脈瘤、透析に必要な内シャント術などの手術を行っています。JA 広島総合病院心臓血管外科では、地方都市の一病院ではありますが、先進的な手術を行っています。

心臓外科の手術において特徴的かつ重要である体外循環（人工心肺装置）においては、1994年から、従来の低体温による体外循環に比べ回復が早く、出血量、感染症などの点で良好な常温体外循環（常温心筋保護法併用）を補助手段として使用しております。

最近では、若年者への僧帽弁置換術を可及的に避けるため積極的な僧帽弁形成術（人工腱索やリング）を施行して良好な結果を残しています。

また高齢者には、抗凝固療法が少なくすむ、生体弁による人工弁置換術をおこなっており、良好な成績を得ております。

胸部、腹部ともにステントグラフト（血管内治療）の実施施設として認定され、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始しております。

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では2009年より弁切除刀を使用した insitu バイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しております。この分野では西日本有数の施設であり、8割以上の症例で下

肢を救うことができるようになっております。

## ■診療実績

2012年度の手術総数は391例であり、うち心臓大血管手術（腹部大動脈を除く）は94例でした。そのうち41例（44%）が冠動脈バイパス術、40例（43%）が弁膜症手術であり、僧帽弁形成術を主にを行っています。平均手術時間は276分でした。

難治性潰瘍などの重症下肢虚血を含む閉塞性動脈硬化症に関しては個々の症例で循環器内科と協議を行い、血管内治療またはバイパス術を選択しています。血行再建術は年々増加傾向にあり、2012年は131例に施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは38例に施行しています。



術 前

術 後

重症下肢虚血肢に対する大伏在静脈を用いた後脛骨動脈へのバイパス術の造影：左バイパス前、右バイパス後、踵の部分で明らかに血流増加しているのがわかります。



ステントグラフト治療風景

手術室で血管造影を行いながら、大腿部より血管内にステントグラフトを内挿するハイブリッド治療を行っています。

# 皮膚科

## ■ スタッフ

主任部長 森川博文

資格 皮膚科専門医  
 専門 皮膚科一般

副部長 秋本成宏

専門 皮膚科一般

医員 梅田直樹

専門 皮膚科一般

非常勤医師 吉屋直美

資格 皮膚科専門医  
 専門 皮膚科一般

## ■ 診療科紹介

2012年3月末で中村医師が転勤、4月末で木矢医師が転勤となり、中村医師に代わり秋本医師が4月に、木矢医師に代わり梅田医師が5月に赴任いたしました。転勤に伴い、男性医師ばかりになるかと思いましたが、4月に非常勤として女性である吉屋医師が週3回ほど勤務してくれています。スタッフは看護師が3名、医療事務が2名で、さらに7月から医療秘書が1名配属になりました。合計10名医師、スタッフで診療にあたっております。

外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1診	森川	森川	森川	森川	森川
	2診	秋本	秋本	秋本	秋本	秋本
	3診	梅田	梅田	梅田	梅田	梅田
	4診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
	15:30			午後外来		
		病棟回診				

## ■ 皮膚科の診療内容

外来診療においては湿疹・皮膚炎群や白癬などのポピュラーなものから、難治性の皮膚疾患、薬疹に対する診療、各種皮膚の腫瘍性疾患に対し、手術なども行っております。また、入院が必要な各種皮膚疾患の患者さんに対しても、必要性に応じて随時対応をしていきます。一方、寝たきりの患者さんに生じた褥瘡に対しても、外来での加療や各病棟への往診など対応を行っています。

昨年度から行っておりました局所陰圧閉鎖療法も引き続き、行っております。難治性の潰瘍患者さんの治療の1つとして、威力を発揮しております。

## ■ 診療実績

平成24年度の入院患者さんの内訳度下記に記します。

病名	人数
湿疹・皮膚炎群	3
蕁麻疹・痒疹	3
紅斑・紅皮症	2
中毒疹・薬疹	12
血管炎・紫斑	2
その他の脈管疾患	4
膠原病および類猿疾患	3
物理・化学的障害	21
水疱症・膿疱症	2
角化症	0
代謝異常症	0
付属器疾患	3
皮膚良性腫瘍	28
皮膚悪性腫瘍	32
細菌性皮膚疾患	32
ウイルス性皮膚疾患	32
真菌症	0
昆虫・原虫などによる皮膚疾患	3



# 泌尿器科

## ■ スタッフ

病院長補佐・主任部長

小深田 義 勝

日本泌尿器科学会指導医

主任部長（結石破碎担当）

丸 山 聡

日本泌尿器科学会指導医

日本泌尿器科内視鏡手術学会

腹腔鏡技術認定医

医 員 高 広 悠 平

非常勤医師 沖 真 実

看護師 3 名、受付 2 名、医療秘書 1 名で日夜協力して日夜診療を行っております。

## ■ 診療状況

2012 年度の手術件数は 393 件で前年と比較して 14 例ほど増加しています。内訳は臓器別で見ると膀胱 168 件、前立腺 101 件、腎・尿管・副腎 31 例の順に多かったです。

前立腺針生検が 2011 年は 280 例でしたが、2012 年では 310 件と年々増加傾向にあり、生検数の増加に伴い根治的前立腺全摘除術の件数も年々増加傾向にあります。

入院患者数は年間 922 名と 2011 年度と比較して 110 名増加しています。悪性腫瘍の症例が 499 例と反数を占めており、前立腺癌や膀胱癌に対する抗癌化学療法を行う症例も増加傾向にあります。高齢化に伴い、悪性腫瘍の入院数は今後も増加するものと思われま

## ■ その他の活動

日本泌尿器科学会等の全国規模の学会や、地域泌尿器科、薬剤部などの医療関係者を対象にした症例検討会など、幅広い症例検討会や研究会を行っています。

## ■ ミニトピックス

2013 年度からは腹腔鏡下の前立腺全摘を開始する予定で、より侵襲の少ない手術が可能となります。

# 産婦人科

## ■ スタッフ

主任部長 中西 慶喜

医学博士  
日本産科婦人科学会専門医

主任部長代理 藤本 英夫

医学博士  
日本産科婦人科学会専門医

部長 中前 里香子

日本産科婦人科学会専門医

部長 佐野 祥子

日本産科婦人科学会専門医

濱崎 晶

日本産科婦人科学会専攻医

佐々木 充

日本産科婦人科学会専攻医

体搬送は年間約 80 件を受け入れており、36 週まで管理できれば紹介元に逆紹介し病診連携に努めています。

## ■ 診療実績

手術数 464 件

分娩数 566 件

## ■ 研究活動

平成 24 年 1 月から広島大学病院産科婦人科との共同研究として「子宮内膜症術後再発抑制に対するディナゲストと GnRH 製剤の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験」を行っています。

## ■ 診療科紹介

24 年 10 月から産婦人科の医師は 1 名増員となり 6 名態勢になりました。その内 3 名が女性医師です。また助産師は病棟・外来併せて 28 名と県下でも有数のスタッフ数です。外来での診療内容は正常、異常、合併症妊娠の妊婦健診、良性・悪性腫瘍、月経不順、性行為感染症、更年期障害など多岐に渡っています。

また、助産師による母乳外来を週 3 回しており、産後の乳房のトラブルの相談を受け付けています。

手術は週 3 回午後から行っています。一日 3～4 例あり、毎年増加傾向です。悪性腫瘍の根治手術を始め、帝王切開術、良性疾患に対しては入院期間の短く、侵襲の少ない腹腔鏡下手術や腔式手術、今後妊娠を希望される方には子宮、卵巣を温存する手術にも積極的に取り組んでいます。

病棟では上記以外に悪性腫瘍の化学療法や放射線療法などの集学的治療、分娩、異常妊娠、切迫流早産の治療などを行っています。ただし、当院には未熟児センターがなく、35 週未満での早産に関しては他院に母体搬送や新生児搬送をしています。逆に母

# 眼科

## ■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀

資格 眼科専門医  
専門 緑内障、白内障

医師 井上 千 絵

専門 眼科一般

## ■ 診療科紹介

眼科スタッフは昨年同様、当院が15年目の私（二井）と井上千絵先生です。他は、看護師が2名、視能訓練士は松浦京子訓練士が産休から復帰し3名と充実し、他に事務1名（OMAの有資格者）です。

## ■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週3回午後から行っており、概ね一日5例行っており、毎年増加傾向です。

2012年度の手術実績は、白内障425例、緑内障37例（緑内障単独手術20例、緑内障・白内障同時手術17例）、その他118例の計580例です。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が7例、線維柱帯切除術が13例、白内障手術併用線維柱帯切開術が11例、白内障手術併用線維柱帯切除術が3例、白内障手術併用隅角癒着解離術が3例、と例年より緑内障手術件数は減少していました。これは緑内障新薬の採用により手術を回避できたためと思われます。白内障手術は全例に極小切開白内障手術（切開幅が2.3mm以下、過半数が2.0mm）を行っています。

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会活動を行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。

# 耳鼻咽喉科

## ■ スタッフ

主任部長 兼 見 良 典 広島大学医学部臨床教授

主任部長代理 高 本 宗 男 日本耳鼻咽喉科学会専門医  
H24年9月より赴任

部 長 水 野 一 志 日本耳鼻咽喉科学会専門医

医 師 横 江 裕 幸 H24年9月に中国労災病院に転勤

## ■ 診療科紹介

耳鼻咽喉科領域全般の一般診療、手術ならびに頭頸部癌、甲状腺腫瘍などの頭頸部外科としての診療も行っています。なお当科は日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設に認可されています。

## ■ 診療実績

今年度は9月に横江医師が転勤し、代わって広島大学から高本医師が赴任しています。高本医師は大学で音声・嚥下の専門外来を担当していましたので、当院でもリハビリテーション科と連動して嚥下機能評価を行っています。嚥下内視鏡検査も開始しています。

## ■ 研究

9月より味覚障害に対する治験（Z-103）を開始しています。

# 放射線治療科

## ■ スタッフ

主任部長 桐 生 浩 司

昭和 61 年広島大学卒  
日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医  
日本癌治療認定医機構認定癌治療認定医

医師 竹 内 有 樹

平成 21 年鳥取大学卒

## ■ 診療実績

1) 脳・脊髄	2
2) 頭頸部	21
3) 食道	13
4) 肺・気管・縦隔	41
4) のうち肺	37
5) 乳腺	85
6) 肝・胆・膵	7
7) 胃・小腸・大腸	6
8) 婦人科	6
9) 泌尿器系	53
9) のうち前立腺	48
10) 造血器・リンパ系	3
11) その他（悪性）	2
12) 良性	2

2012 年度の新患数は 241 名、のべ治療患者数は 382 名です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 25 名に、体幹部定位照射（肺）を 1 名に施行しています。

## ■ 当科の特徴

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・当科）

水曜日：cancer board( 消化器内科・外科・画像診断部・当科)

水曜日：乳腺カンファレンス（乳腺外科・当科）

木曜日：緩和ケアカンファレンス（消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・心療内科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には

- ① IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院
- ② 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいかすよう時間調整している
- ③ 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うようとりくんでいる
- ④ 甲状腺眼症を診療できる眼科医がおられるため、良性疾患としての甲状腺眼症が症例としてあがるなどが、当科の特徴といえるかと思います。

また、今年度より、がん拠点病院の要件となる、(医療従事者向を対象とした) 放射線治療講習会を年 1 回開催することとなりました（2012 年 8 月 28 日に開催；桐生浩司・河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）が担当）。

今後がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

# 画像診断部

## ■ スタッフ

主任部長 田村 彰久 (平成8年卒)

放射線診断専門医

部長 太刀掛 俊浩 (平成11年卒)

放射線診断専門医

医師 西亀 正代 (平成19年卒)

## ■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）を施行しています。
- IVRは、肝細胞癌に対するTACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- 肝切除前に残肝部分を肥大させるため、経皮経肝門脈塞栓術（PEPE）を外科医と協力して施行するようになりました。
- Nonvascular IVRとして、CTを利用した生検（CTガイド下生検）や膿瘍ドレナージ（CTガイド下ドレナージ）を行っています。
- 開業医の先生からCT、MRIや骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査依頼を受け、その検査や画像診断を行っています。
- 検診センターからの脳ドック施行と、画像診断を行っています。
- 救急外来などからの時間外の読影依頼を在宅で行えるようなシステムが構築されています。
- 画像診断の一部は遠隔読影に依頼しています。

## ■ 診療実績

2012年度画像診断件数

検査・治療種別	件数
CT	12,118
MRI	6,944
胃透視	79
注腸	60
核医学	490
血管造影	126

# 麻酔科

## ■ スタッフ紹介 .....

- 中尾 正和 (山口大学卒) 診療部長  
地域救命救急センター長、臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、医学博士、麻酔科学会麻酔指導医、ICLS インストラクター、JPTC CMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学会雑誌、麻酔と蘇生
- 松本 千香子 (長崎大学卒)  
麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医
- 吉田 研一 (広島大学卒)  
救急・集中治療部門責任者、医学博士、麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医
- 新澤 正秀 (島根医科大学卒)  
麻酔科学会麻酔指導医、心臓血管麻酔認定医
- 本多 亮子 (愛媛大学卒)  
麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS インストラクター、集中医療医学会認定医、臨床研修指導医
- 梅田 絢子 (愛媛大学卒)  
麻酔科学会認定医
- 鳥越 愛子 (広島大学卒)  
医師 後期2年目 (2011/ 1-2012/ 6)
- 大月 幸子 (旧姓 西藤) (広島大学卒)  
医師 広島大学病院での初期研修後、麻酔科後期研修 (2011/ 7-2013/ 3)
- 片岡 宏子 (広島大学卒)  
医師 東広島医療センターでの初期研修後、麻酔科後期研修 (2012/ 9-)

## ■ 診療状況 .....

- 2012年度の手術件数は5076例で、うち麻酔科管理は3619例で、中央部門として大きな役割を果たしています。緊急手術が514件と多く占めているのが特徴です。
- 麻酔管理の診療科別内訳は整形外科1038件、外科1011件、産婦人科382件、泌尿器科362件、耳鼻科236件、心臓血管外科224件、呼吸器外科

132件、脳外科94件、口腔外科85件、皮膚科33件、形成外科30件、眼科4件、内科1件、麻酔科1件など多岐にわたっています。

- ペインクリニック；平日午前のみ、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。松本は院内緩和ケアチームの一員です。
- 集中治療 (ICU セクション参照)

## ■ 活動 .....

- 麻酔科学会認定指導病院 (No 421)
- 初期研修医の基本的な手技を含めた基礎教育
- 後期研修医の麻酔科医への養成指導
- ガイドラインによる歯科麻酔科医を育てる医科麻酔研修施設
- 広島大学医学部生に対する学外教育
- 救急救命士の就業前研修、終業後研修、気管挿管などの実習病院
- 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院など、多くの役割を果たしています。

## ■ 研究活動 .....

- 臨床治験；ペインクリニックでの、1日貼り替え型フェンタニルテープの良性疾患への適応拡大
- GlideScope、AirwayScope ビデオ喉頭鏡による気管挿管に関する研究
- ロクロニウムの薬物動態シミュレーションに関する研究
- 歯牙プロテクター有効性の検討

## ■ その他活動内容 .....

- 救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース開催
- 外傷のプレホスピタルケア JPTC 認定コース開催
- 院内職員向け AED 講習会 講師 (中尾)
- 院外 AHA 認定 ACLS コース インストラクターとして指導 (本多)
- 院外看護協会の救急蘇生講習会 講師 (中尾)

## 歯科・口腔外科

### ■ スタッフ

主任部長 原 田 直  
 歯科医師 安 田 雅 美  
 歯科衛生士 石 井 真 弓  
 歯科衛生士 田 中 綾 香  
 歯科助手 大 野 陽 子

### ■ 診療科紹介

口腔外科では、歯・口腔・顎(あご)・顔面領域に生じる種々の病気に対して、外科治療を中心に行っています。その専門性から、広島市佐伯区歯科医師会、佐伯歯科医師会、広島西部地区の医療施設から紹介された患者様の診療を行っており(当科は予約診療となっております)外来での小手術から入院下での手術などその専門性を生かした治療を行っています。また、その特殊性から一般歯科治療は行っておりません。

### ■ 診療実績

年間新患約 1800 人で内、歯科医師会より 6 割、医師会より 4 割の紹介を受けています。顎口腔領域に生じる腫瘍や外傷、炎症などを対象に、咬合咀嚼機能の回復を第一にしております。加えて、他科の癌患者、心臓血管手術前、化学療法、放射線照射前の周術期の口腔管理、口腔衛生を行っており、さらに体内人工物埋入症例の手術前後の口腔衛生管理も行っております。

### ■ 研究活動

特になし

口腔外科受診症例	2012 年	件数
先天異常	小帯異常	20
外傷	骨折	10
	軟組織創傷	25
炎症	膿瘍	34
	その他	48
睡眠時無呼吸症候群	マウスピース作成	7
口腔粘膜疾患		284
良性腫瘍		126
悪性腫瘍		14
唾液腺疾患		12
智歯抜歯		458
神経性疾患		8
歯周疾患		745
顎関節疾患		650
入院件数		約 110 件
入院手術件数		約 100 件
外来手術件数		約 460 件
周術期口腔衛生管理		約 150 件



## 救急・集中治療科

### ■ 診療科の紹介

平成24年度、当科は、表1に示すように総勢6名（専属スタッフは3名）で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また当院は、日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあります。

表1) 救急・集中治療科メンバー

氏名(卒年)	役職	資格	専門分野
吉田研一 (昭59年卒業)	地域救命救急センター長 救急・集中治療科主任 部長	医学博士 日本救急医学会専門医 日本麻酔学会指導医 臨床研修指導医	集中治療・ 救急医療
櫻谷正明 (平18年卒業)	医員	日本救急医学会専門医	集中治療・ 救急医療
河村夏生 (平22年卒業)	医員		集中治療・ 救急医療
大下彰彦	肝・胆・膵外科部長	医学博士 日本外科学会専門医 日本消化器学会専門医 日本透析医学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本肝臓学会専門医 臨床研修指導医	消化器外科、肝胆膵外科、肝移植、透析
河野秀和	呼吸器内科部長 緩和ケア科部長	医学博士 日本呼吸器学会専門医 日本内科学会認定医	呼吸器一般 (肺癌・中皮腫)
下田大紀	医員		腎臓内科、 透析(腹膜透析、血液透析)

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、平成23年4月から地域救命救急センターとして組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく申し上げます。

### ■ 診療実績

平成24年度救急受け入れ患者  
年間救急搬送患者数 3,180台  
年間救急来院患者数 6,648人  
平成24年度の年間重篤患者数を表2に示します。

表2) 救急・集中治療科実績（厚生労働省報告）<sup>(人)</sup>

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	148	11	137
2	重症急性冠症候群	103	99	4
3	重症大動脈疾患	42	37	5
4	重症脳血管疾患	138	135	3
5	重症外傷	77	72	5
6	重症熱傷	7	7	0
7	重症急性中毒	69	69	0
8	重症消化管出血	40	39	1
9	重症敗血症	35	29	6
10	重症体温異常	5	5	0
11	特殊感染症	9	8	1
12	重症呼吸不全	38	36	2
13	重症急性心不全	40	39	1
14	重症出血性ショック	9	7	2
15	重症意識障害	11	11	0
16	重篤な肝不全	2	2	0
17	重篤な急性腎不全	16	15	1
18	その他の重症病態	9	9	0
合計		798	630	168

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

### ■ 研究活動

#### ①重症感染症（敗血症）患者の救命率の向上

重症感染症（敗血症）は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群（SIRS）です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晚死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-34%（2008-2011年）の患者さんが亡くられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2012では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について early goal-directed therapy (EGDT) を積極的に推し進めています。

なおEGDTを行う場合は大量輸液によって肺の酸素化が障害される場合があり、人工呼吸器管理となることがあります。当院では高頻度振動換気法を導入し、その治療成績を検討しています。

#### ②低温療法・緊急人工心肺補助装置の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2010 (ACLS 2010) でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

また、場合によっては救急外来 (ER) で緊急人工心肺補助装置を用いることで、とくに中 - 若年者の蘇生率の向上に寄与することが期待できるのではないかと、年間 5 - 8 例の心停止患者に施行しています。

### ③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging, Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、260 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性がある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能に

なる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ検視依頼を行っています。

## 緩和ケア科

緩和ケア科は2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。コンサルト型の緩和ケアチームによる病棟入院患者様の緩和ケアと2012年7月に緩和ケア病床を西8階病棟の一角に5床を開床し緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しています。現在は院内のプライマリー科からの紹介から当科を主科に編入していますが、今後は一般の地域医療に関わる施設とも連携して緩和医療の広域化をはかってまいりたいと考えております。

### ■ スタッフ

主任部長 小松弘尚 (S60 広島大学卒、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医)、緩和ケアチーム各員 (略)  
 看護科主任 高原さおり (緩和ケア認定看護師)  
 臨床心理士 南香織  
 病棟スタッフ 科長 益村勇子、主任 岡田恵美子 (緩和ケア認定看護師)

### ■ 診療実績

(ア)緩和ケア外来：2/週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供しています。2012年度 延べ外来受診患者数 127 件です。

(イ)緩和ケア病床(西8階7床、2012年度7月開床)：チーム業績(別記)とは別に、緩和ケア科を主科・プライマリー科副科として(原則)診療。診療総数 63 例を図1に示します。平均在院日数は 18.3 日です。緩和ケア外来・緩和ケア病床において、がん患者・家族に対して全人的ケアを提供しています。

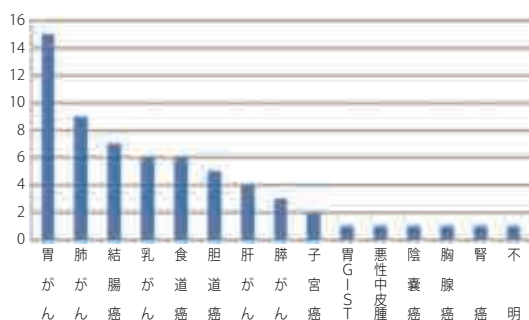


図1 疾患総数 63 例の内訳 (2012.7～2013.3)

### ■ 各部門の主な活動紹介 (2012年度)

#### 【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足がないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

#### 【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。

#### 【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

#### 【がんサロン】

がんサロンを隔週月曜日に開催します。

#### 【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

#### 【がんカウンセリング】

主治医と緩和ケア認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後のケアにあたります。



#### 【リンパ浮腫相談】

主治医の指示のもと、リンパ浮腫を患う患者に対して相談、指導、バンテージや弾性着衣の調整を行います。

リンパ浮腫に対するリハビリの処方がある場合、外来で施術も行います。

### ■ 研修会実績 (2012年度)

- ・院内外医療従事者対象緩和ケア研修会開催
- ・地域のがんを診療する医師に対する研修会開催
- ・地域住民対象リンパ浮腫研修会

「リンパ浮腫の主役はあなたです」

場所：産業会館 3月3日 講演：高原さおり

# 健康管理センター

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

## ■スタッフ

氏名(卒年)	役職	資格
碓井 裕史 (昭和52年)	診療部長・センター長 主任部長 臨床研究検査科部長	日本人間ドック学会 認定医・産業医

科長(保健師) 久保 知子  
 課長(事務) 馬場 諭  
 主任(保健師) 川村 洋子、野村 恵美  
 保健師 5名(うち2名産休)  
 事務 5名  
 委託(受付・予約) 4名  
 (車両業務) 1名  
 臨時職員(医師1名、看護師8名、助手2名、臨床検査技師2名、)

### 【取得資格】

人間ドックアドバイザー4名、禁煙専門看護師1名  
 健康運動指導士1名、心理相談員2名

### 【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本農村医学会  
 日本乳癌検診学会、日本禁煙学会

### 【各種所属委員】

JAグループメンタルヘルス協議会  
 廿日市市国保ヘルスアップ運営委員会

### 【担当事務局】

広島県農村医学研究所  
 JA広島厚生連医学会  
 日本農村医学会

## ■活動内容

- 施設内健診は、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託健診を中心に実施しています。健診の種類は半日外来ドック、協会けんぽ生活習慣病予防健診を中心に入院ドック、JA組合員送迎ドック、健康診断、原爆検診、個別・無料クーポンがん検診(子宮・乳)、B型肝炎検査及びワクチン接種、マンモグラフィサンデー検診、特定健診などを行っています。
- 巡回健診はJAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。健診の種類はJA組合員健診、職員健診、胃がん検診、学生健診などを行っています。安全・安心な健診を提供するためコンプライアンス研修会等も開催しています。昨今、巡回健診車の老朽化等諸課題について検討をすすめています。



- 保健師の主な活動は、施設内健診、巡回健診、健康教育、学術研究まで多岐にわたります。人間ドック当日の受診者の対応や健診後のフォローまで受診者の不安の軽減や受診相談などきめ細かい対応を心掛けています。また、JA健康まつり、JA健康教室、JA広報誌、院外マインド通信の執筆など教育啓発活動にも積極的に取り組んでいます。



## ■平成24年度活動実績

### ○施設内検診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
入院ドック	32	32
外来ドック	235	2,571
協会けんぽ健診	186	1,241
原爆一般・がん検診	43	53
原爆2世健診	73	104
個別子宮がん検診	59	74
個別乳がん検診	44	87
健康診断	113	1,520
特定保健指導	47	48
その他	109	496
計	941	6,226

\*特定保健指導はのべ人数を計上

### ○巡回検診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	28	788
肝炎検診	17	123
胃がん検診	20	524
職員健診	54	3,787
大腸がん検診	17	1,312
特定・後期高齢者健診	17	1,699
その他	7	964
計	160	9,197

## ■平成24年度がん検診部位別精密検査受診状況

### ○施設内検診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	1,550	60	3.9	46	76.7	1	0.06
	カメラ	1,723	153	8.9	135	88.2	4	0.23
胸部	レントゲン	4,665	157	3.4	127	80.9	2	0.04
	CT	128	0	0	0	0	0	0
大腸 (便潜血反応)		3,650	187	5.1	103	55.1	8	0.22
乳部		1,023	94	9.2	83	88.3	1	0.10
子宮頸部		1,117	83	7.4	64	77.1	0	0
前立腺 (PSA)		1,056	25	2.4	20	80.0	6	0.57

### ○巡回検診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン		537	15	2.8	7	46.7	0	0
胸部間接レントゲン		4,901	47	1.0	18	38.3	0	0
大腸 (便潜血反応)		2,664	153	5.7	79	51.6	6	0.23
前立腺 (PSA)		356	6	1.7	4	66.7	1	0.28

# 形成外科

## ■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)  
 資格 日本形成外科学会専門医、医学博士  
 専門 形成外科一般

## ■ 診療科紹介

当科は2009年3月末をもって一旦閉鎖しておりましたが、2012年4月より再開いたしました。

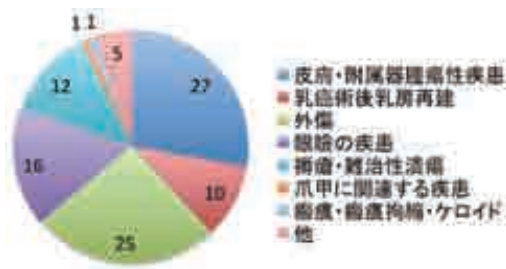
形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科で特に力を入れているのは、加齢性眼瞼下垂症で、除皺術、上眼瞼挙筋前転術、筋膜移植術、すべての術式に対応しております。拡大鏡を用い侵襲の少ない治療を提供しております。

眼瞼周囲の疾患以外にも、腫瘍切除後の再建や外傷に伴う組織欠損、先天性疾患、難治性潰瘍など幅広く診療しております。

## ■ 診療実績

初診患者数	221 例
手術症例数	計 97 件
内訳 全身麻酔	37 件
腰麻・伝達麻酔	18 件
局所麻酔	42 件



上記集計の他にも、乳腺外科手術には常に参加し、変形が目立たないように乳腺組織の修正を行い、創縫合にも協力しています。

## ■ トピックス

保険適応外の診療で対応できるものが増えました。

- 爪矯正具の導入：巻き爪、陥入爪は手術的治療のみでは根治が得られにくく、補助治療としての爪矯正具はとても有用です。薬事承認をうけた器具がないので保険適応外となりますが、当院でも施術しております。
- 整容目的の瘢痕形成：顔面などの露出部に外傷痕を残した方は傷跡をなくするまでの治療を希望されることも多いです。機能障害を伴うものは保険適応ですが、整容性のみが問題の瘢痕は保険外診療となります。当科では広島県内で平均的な料金で治療を提供しております。

# 病理研究検査科

## ■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕  
 科 長 水 野 誠 士  
 臨床検査技師 5名  
 事 務 1名

検体が適切かどうかその場で判断することで、正診率が向上し、患者さんへの負担を減らすことができます。

## ■ 取得資格

病理専門医	1名
細胞診専門医	1名
病理解剖資格	1名
細胞検査士	4名
国際細胞検査士	2名
二級甲類臨床病理技術士	3名
	(病理学3)
診療情報管理士	1名

## ■ 所属学会

日本病理学会  
 日本臨床細胞学会  
 日本臨床衛生検査技師会

## ■ 業務内容

病理組織・細胞診検査・病理解剖  
 検査件数 (2012年度)

組織検査	5,346件	術中迅速検査	451件
細胞診検査	6,817件		
病理解剖	4件		

## ■ トピックス

〈免疫染色装置 Leica BOND-MAX の導入〉

脱パラフィン処理から核染色までの処理が可能な全自動免疫染色システムです。操作は簡便で、染色の精度も安定しました。

〈内視鏡室への出張迅速細胞診はじめました〉

細胞検査士がベットサイドに出向き、穿刺材料の標本作製し迅速染色を行い、細胞が確実に細胞採取されているかどうか判定しています。採取された

## 臨床研修医室

臨床研修医室は1年目9人、2年目8人の計17人で構成されています。

研修プログラムに則り、1年目は内科系を6ヶ月、麻酔科2ヶ月、救急・集中治療科2ヶ月、産婦人科・外科系1ヶ月をローテートし、2年目は小児科・地域医療・精神科・健康管理センターを1ヶ月ごとにローテートするのを必修とし、残りは希望とする科にて研修することができます。

今回は当院での臨床研修の特徴を数点ご紹介いたします。

①月に4-5回の日直・当直業務も担当し、救急・集中治療科と一般当直の2人の上級医の先生とともに、主に救急車にて搬送されてくる患者さんの診療にあたっております。救急患者さんの診療はとても緊張感のある時間となりますが、頭と手を同時に動かしながらの診療は、我々研修医が大きく成長する場だととらえております。また、1年目と2年目研修医がセットとなっておりますから、1年目は身近な2年目に質問しやすい環境にあり、また2年目は1年目に指導する機会を得ております。これも日直・当直業務での一般診療とは異なる醍醐味とも言えるでしょう。

②本院では他院と比較して、熱心な指導医のもと、検査や処置（手技）を含めて積極的に診療業務に参加させていただいています。その分患者さんに不利益をもたらさないように、手技に関してはもちろんのこと、担当した患者さんの病態生理や治療介入に関して学習するように努めております。

③日々の診療業務以外では、毎週火曜日の早朝からEarly Bird Lectureと称した、指導医と研修医の間で双方向性の症例発表やレクチャーの時間が設けられております。自分の担当した患者さんの症例を発表という形にすることにより、より理解を深めることができ、何より発表の機会をもつことでプレゼンテーション能力を鍛えることができます。また上級医が研修医目線にたってレクチャー

してくださることにより、教科書では学びにくい臨床上のポイントを習得することができます。

④ER-updateという救急の研修会に1年に1度東京または沖縄での参加の機会があります。座学だけではなくハンズオンセミナーもある本研修では、全国の初期研修医・後期研修医が参加してのものです。知識や技術を学ぶだけではなく、様々な人と話すことで、研修医としての自分の達成度を知ったり、自信を深めたりすることができます。

⑤それ以外にも、BLS・ACLS・ACLS-ep・JPTEC・JATEC・FCCS・TNTの資格を取得したり、若手医師のための腎臓セミナーやIDATENなどといった様々な研修会に参加することで研鑽を深めています。対外面としては学会発表の機会も充実しており、中四国の地方会レベルから大きな規模の学会まで発表する研修医もいます。

⑥当院は後期研修医として医師3年目にも、初期研修医から継続して当院での研修を希望する先輩方が多いのも特徴です。初期研修で慣れ親しんだ環境だからということももちろんでしょうが、自分が将来希望とする科に素晴らしい上級医・指導医の先生方やメディカルスタッフの方々がいらっしゃるからだと思います。

初期研修医の希望者数は県内でも上位であり、人気病院でもあることはこうした事実を反映しているからなのかもしれません。





# 看護科の理念と目標

## ■看護科の理念

病院基本理念に則り地域の中核病院として看護の果たすべき役割を自覚して実践し、患者の安全と生活の質を守り、地域社会から信頼される看護を提供します。

## ■2012年度看護科目標

心と心の通い合うハートふるナーシング  
～一人ひとりが優しいまなざしで～

1. 患者さんの視点で共に考えるチーム医療を実践します
2. 専門職として知識・技術・態度を磨きキャリアアップを目指します
3. 働きやすい職場環境づくりに努めます

## ■2012年度看護科の取り組み

看護科目標に対して、以下のように取り組みました。

1. 各病棟の取り組みにより、チーム医療の中の看護の役割を果たし、急性期医療の展開に寄与できました。
2. 看護職のキャリアアップの仕組みとしてクリニカルラダー認定システムを導入しました。これにより看護職員は日頃の努力が認められ、モチベーション向上につながりました。また研修会も多く開催され、専門職として学び続ける環境もできたと考えます。

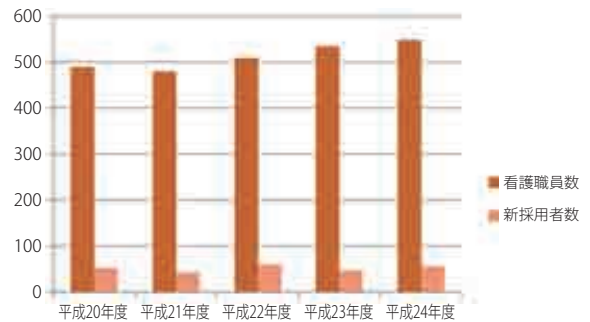


クリニカルラダー概念図

3. 一人ひとりを大切な存在として優しいまなざしを向け、“お互いさま”の心がけで職場環境の改善に努めました。離職者は41名で、前年度よ

り14名少なく離職率は7.5%でした。看護職員確保の取り組みとして就職ガイダンスや病院見学会、サマーインターンシップも展開し、人員確保につなげることができました。

年度別看護職員数の推移



部署別看護職員配置数(人)

全体看護職員数	549
病棟配属	351
救命救急センター	64
外来	77
手術室	33
その他	24
認定看護師	12

クリニカルラダー認定者数(人)

ラダーI	37
ラダーII	93

年間行事

4月	新採用者研修 ICLS
5月	看護の日 ふれあい看護体験
6月	学校訪問(看護師養成施設)
7月	病院見学会
8月	サマーインターンシップ
9月	キャリアナビ研修
10月	新人ローテーション研修
11月	オープンホスピタル あいプラザ祭参加
12月	クリスマスコンサート
1月	中学生職場体験
2月	プリセプター研修 農村医学会
3月	新採用者オリエンテーション

# 外来

## ■ スタッフ

科長 中元 美恵・野田 明美・坂尻 明美  
 主任 実平 明美・野村 昌代・高原さおり  
 平舩 仁美  
 他 71 名

認定看護師	糖尿病看護	1名
	がん化学療法	1名
	緩和ケア	1名
	がん放射線療法	1名

## ■ 外来の概要

診療科: 19 科、外来患者数: 1 日平均 約 1,000 人。

外来では、看護師・医師事務作業補助者 (MS)、事務職員を配置しています。看護師は、主に初診患者様のトリアージ・指導・診察介助・処置を行い、医師事務作業補助者は診察介助・医師の書類関係の業務を担っています。

看護科長は、午前中、正面玄関に設置されている総合案内で、受診相談や外来患者様のトリアージを行い、またボランティアの方々や看護助手と共に外来患者様の移動の援助を行っています。

## ■ 看護・教育

### 1. 感染チーム

看護科感染委員を中心とし、月 1 回チーム会を行っています。感染チームは、チーム会での情報を各科外来看護師に伝達し、院内感染情報の共有、感染予防の知識・意識の向上に向け活動しています。また、外来感染チームラウンドを行い、各外来の問題点や工夫されている良い点などの統計をとり、外来看護における感染の見える化を図りました。感染チームは、より良い外来感染予防に向けた環境作り



を目指しています。

### 2. 急変対応チーム

看護科急変対応委員会において、各部署で急変対応のシミュレーションを実施することになり、外来における急変対応チームを発足しました。まず急変対応委員を中心に外来全体で急変対応に関する勉強会を行い、外来看護職員全員に勉強会の内容を周知しました。さらに、急変対応チームのリーダーは、シミュレーションのシナリオを考え、外来看護職員との会合の全体会で急変対応のシミュレーションを実施しました。これをきっかけに、急変対応に強い外来看護を目指し頑張っています。



### 3. 業務改善チーム

今年度の課題は、スムーズな応援ができる体制づくりと、各外来診療の予約についての 2 つを中心にチーム会で検討しました。改善点は、応援窓口の再確認を行うこと、初診再診予約患者終了時に担当科長へ報告し、応援体制を強化しました。今後は、各外来でさらなる業務整理を行い、MS へ委託できる業務を今後検討していく予定です。予約票の運用に関しては、電子カルテシステム変更後に検討することとしています。



# 地域救命救急センター

## ■ スタッフ紹介

科長 石崎 淳子

主任 前田 智子

他 看護師 36名 (救急看護認定看護師 1名)

看護助手 2名

## ■ 病棟の概要

当地域救命救急センターは、平成23年4月に開設し、2年目を迎えます。

1階の救急外来では車の受け入れ、他院からの紹介、直接来院など全科の救急患者の対応をおこなっています。2階には8床(個室1床)のベッドを有し、集中治療を必要としない全科にわたる救急患者(小児・産科を除く)を受け入れています(時間外入院を中心に)。



## ■ 看護

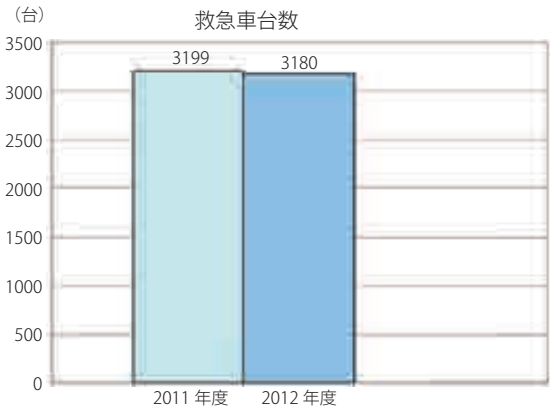
日勤、夜勤ともに、外来リーダーと病棟リーダーが連携をとり、急患の受け入れ対応をおこなっています。

外来部門は、検査科や放射線科など他部門との連携を密にし、重症患者や急変時に素早く的確な対応を心がけています。

救命センターに入院された患者は、状態に応じ、各専門科に振り分けられ、翌日一般病棟に転床する



ケースや、退院することもあります。満足度の高い看護が提供できるよう日々努力しています。



## ■ 教育

- BLS、ICLS、JPTEC、ACLSに参加し、スタッフのレベルアップを図っています。
- センター内で新人教育とともにスタッフ全員で勉強会を行っています。
- 救命救急センターとICU合同の勉強会を週1回行っています。

## ■ 研究・発表

- 西原壱：地域救命救急センターにおける外来看護記録の実情と変化～高エネルギー外傷用看護記録用紙を導入して～ 平成24年度院内看護研究発表会
- 前田智子：地域救命救急センター開設に伴う発展と展望～現状分析と今後の課題について～ 第35回広島厚生連医学会通常総会

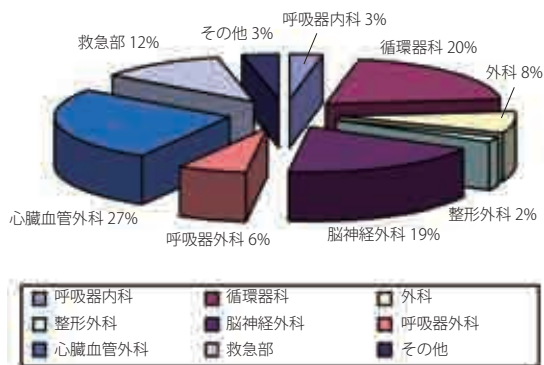
# ICU・西3階病棟

## ■ スタッフ紹介

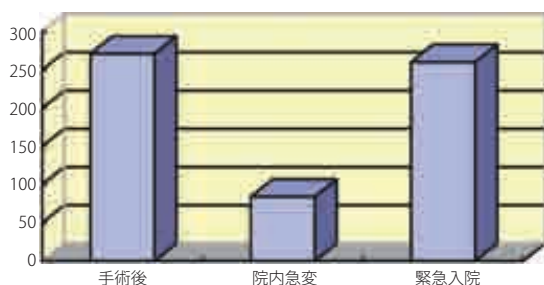
科 長 村 中 好 美  
 主 任 尾 崎 直 美・村 中 昌 美  
 他看護師 25名、看護助手 1名

## ■ 病棟の概要

西3階病棟は、病床数11床（個室4床含む）で集中治療を必要とする患者さんを受け入れています。このため、対応する診療科は救急・集中治療科をはじめとし、多岐にわたります。2012年度の入室患者は615人であり、診療科別の入室割合は以下に示します。



入室理由としては、血管内手術も含めた、術後入室の件数が増加しています。また、2013年1月よりハイケアユニット加算が算定されることとなりました。



## ■ 看護

看護方式は、日替わり受け持ち制を主として、清潔援助など一部機能別を取り入れています。在室患者数にもよりますが、日勤中の受け持ちは可能であれば1対1とし、患者さんの介入全てを受け持ち看護師が実施出来るようにしています。この体制により、家族への配慮もより細やかなものとなっている

と思います。

また、今年度は「メディカルスタッフと協働して医療を提供する」「個々の専門的知識を高め、よりよい看護の提供に努める」を部署目標とし取り組みました。昨年度より開始した栄養サポートカンファレンスも定着し、患者毎の栄養評価を行っています。また、栄養に関する看護師向けのミニレクチャーもあり、スタッフの共通理解の一助となっています。

### 【カンファレンス風景】



—参加者：医師・薬剤師・栄養士・看護師—

## ■ 教育

救命センター勉強会として毎週木曜日に医師・薬剤師等を講師として勉強会が開催されています。

当部署で担当する疾患は幅広く、個々の経験値も異なるためスタッフ個々で必要と感じる知識は差が生じます。そこで、年度初めに自己の課題を具体化し、年度内に研修会に参加する努力をしてもらっています。

院外研修では、BLS・FCCS、集中治療学会が開催する「ICU・CCU看護教育セミナー」の初級編及び中級編に参加し、スタッフのレベルアップを図っています。

## ■ 研究

「第40回日本集中治療医学会学術集会」に下記の2題を発表

- ・SAT（覚醒トライアル）中の注意点
- ・ICUにおける栄養サポートチーム（NST）の活動を振り返る～看護師へのアンケート調査より～

## 西 4 階病棟

### ■ 病棟の概要

西 4 階病棟は産婦人科をメインとした外科系混合病棟で、病床数は 41 床です。スタッフは、医師 6 名、助産師 27 名、看護師 4 名で構成しており、勤務体制は 2 交代勤務です。看護体制は、受け持ち制と機能別看護体制を組み合わせて行っています。

H24 年度の分娩件数は、571 件（帝王切開 144 件）、手術件数は 417 件でした。分娩件数は、里帰り分娩を制限しているためか 2010 年度よりやや減少傾向にあり、分娩制限の全面解除に向けて取り組んでいます。

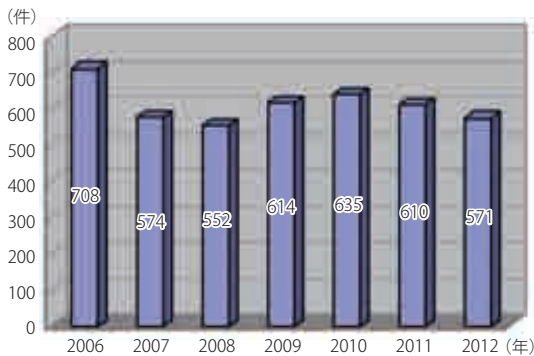


図 1 分娩件数

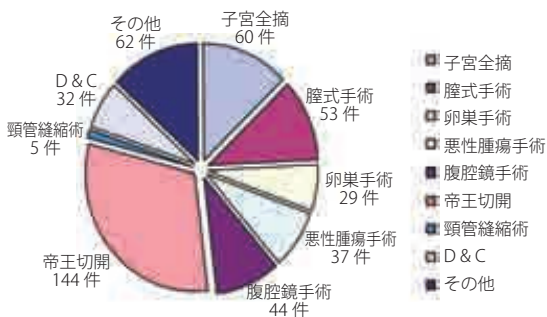


図 2 産婦人科手術件数

### ■ 看護

産科部門では、助産外来・外来保健指導・マタニティクラス・おっぱい教室・母乳外来等、保健指導に力を入れています。外来から退院後まで長期に渡り関わっていくことで、妊婦さんが安心して出産を終え、笑顔で育児ができるよう個々に応じた支援を行っています。

マタニティクラスでは、産婦さんにより主体的に

参加していただくため、今年度より参加型のマタニティクラスの導入に向け、研修会への参加、伝達講習会などを行い、チームを立ち上げ取り組んでいます。

婦人科・他科部門では、患者個々に受け持ちを決め、カンファレンスを実施し、ケアの充実・個別性のある看護を目指しています。

地域の中では、廿日市健康まつりで、ベビーマッサージを開催し、12 組の親子に、赤ちゃんの肌と肌のふれあいを楽しんでいただきました。また看護協会からの依頼で、佐伯中学校 1～3 年生の生徒さんに、「いのちの授業」を届けました。

### ■ 教育

今年度も 6 名の新人職員（助産師 5 名、看護師 1 名）の入職があり、新人教育計画にそって、助産・看護の基礎実践能力の向上を中心とした勉強会を行いました。

感染、医療安全、褥瘡については各委員さんを中心に勉強会を開催しました。

### ■ 研究

院内看護研究発表会にて発表

「外来保健指導開始前の妊婦の体重管理の実態調査」

○土井友里絵 市岡加世子

## 西5階病棟

### ■ スタッフ紹介 .....

科長 馬場崎 喜美子  
主任 龍 敬子  
主任 西村 留美 他27名

### ■ 病棟の概要 .....

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師31名、看護助手3名で構成されており、勤務体制は2交代勤務です。

平成24年度の整形外科手術件数：1100件・病床稼働率：85%・平均在院日数：14日。

### ■ 看護 .....

患者さん中心のケアを目指して平成22年より固定チームナーシング、平成23年より固定チームナーシングに加え受け持ち制を導入しました。入院時から患者の目的や目標を支え、退院まで一人の看護師が責任を持って関わらせてもらうことにより、より個性のある看護を提供できるよう努めています。また、手術が決定した患者さんに対して病棟看護師が外来受診時に入院説明をおこない、患者さんに安心して入院生活を送っていただけるよう情報提供を行っています。面接時に得られた患者さんの情報や要望は受け持ち看護師に伝達し、情報共有を行っています。

### ■ 教育 .....

個人の興味、関心に基づいた課題を明らかにし、研修会に参加し、伝達講習を行っています。一人一人が自分の意見を述べる機会とし、情報共有をおこなって知識を深め、看護に活かしていく目的で年間の勉強会計画を立案し実施しています。

必要な知識・技術を明確にし、シミュレーション教育を充実させ、看護技術習得を支援しています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッ

フがさらに成長できるよう支援を続けています。

### ■ 研究 .....

平成22年の患者満足度調査の結果から、固定チームナーシングに加え、受け持ち制を導入しました。平成23年に再度満足度調査を実施し、結果をまとめて平成24年固定チームナーシング全国研修会で発表を行いました。(H24年9月)



入院前から病棟看護師が行う入院オリエンテーションが患者に与える影響について研究し、平成25年マネジメント学会での発表を予定しています。

# 西 6 階病棟

## ■ スタッフ紹介

科 長 藤 本 七津美  
 主 任 平 野 有 紀・藤 村 雅 子  
 他 看護師 32 名  
 看護助手 2 名

## ■ 病棟の概要

西 6 階病棟は、病床数 54 床 の消化器外科病棟です。2012 年度年間手術件数は、外科手術の 65% を占める 716 件（前年度比 5.7% 増）でした。そのためクリニカルパス使用率も 70% から 75% と増加しています。

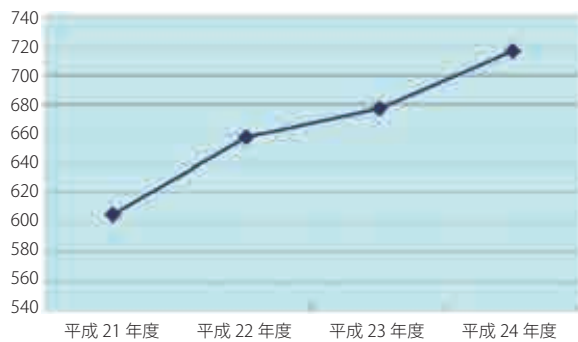


図 1 手術件数推移

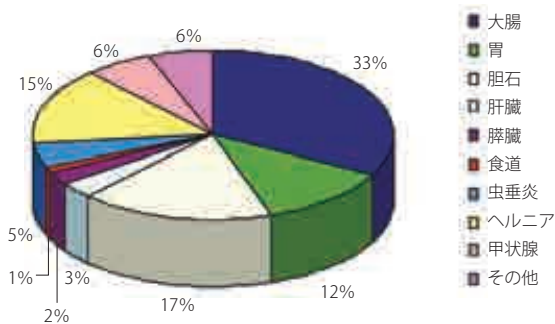


図 2 平成 24 年度手術件数内訳

表 1 平成 24 年度病棟概要

病床数	54 床
入院患者総数	962 名
年間手術件数	716 件
在院日数	17.5 日
パス使用率	75%

## ■ 看護

平成 24 年度は、「外科手術に特化した専門的技術を提供できる病棟」を目標に取り組みを行いました。手術件数の増加に伴い、更に安全な医療・看護が実践できるようにナースステーション内で行っていた注射薬剤のミキシングを病棟内に注射混注室を作りおこなっています。

その結果、注射に関するインシデントレポートの発生が激減しました。今後も目標設定を行い安全な医療・看護提供のための新たな取り組みをおこなって行きます。

そしてストーマ相談外来は、相談件数が増加し昨年は 170 件（前年度比：37% 増）になりました。



【注射混注室】



【ストーマ相談外来】

## ■ 教育

年間病棟教育を計画し、勉強会を実施しています。平成 24 年度の勉強会を表 2 にまとめました。

表 2 平成 24 年度勉強会

対 象	研 修 内 容
全スタッフ	外科疾患勉強会（医師） 人工呼吸器の管理（臨床工学技士） シリーズ「ストーマリハビリテーション」 嚥下評価の実際 急変時の対応 緩和ケア伝達講習
新人スタッフ	疾患別外科看護（1 回 / 月）

## ■ 院内における研究発表

- 胃切除術後患者の栄養状態  
～退院後の栄養状態追跡調査～

## 西7階病棟

### ■ スタッフ紹介

科長 松下理恵  
主任 本山敏恵・上田美紀  
他 看護師31名 看護助手3名

### ■ 病棟の概要

西7階病棟は病床数55床の消化器内科・画像診断部の病棟です。

さまざまな消化器疾患に対しての内視鏡検査・治療を積極的に行っており、またそのなかでも食道・胃・大腸・胆膵系の疾患が多いです。特に胆・膵系の検査数が増加傾向にあります。また、消化管出血などの救急受診患者も多く、24時間体制での緊急内視鏡に対応し、緊急入院も多いのが特徴です。2012年度の治療件数とその内訳を図1に、病棟運営状況を表1に示します。

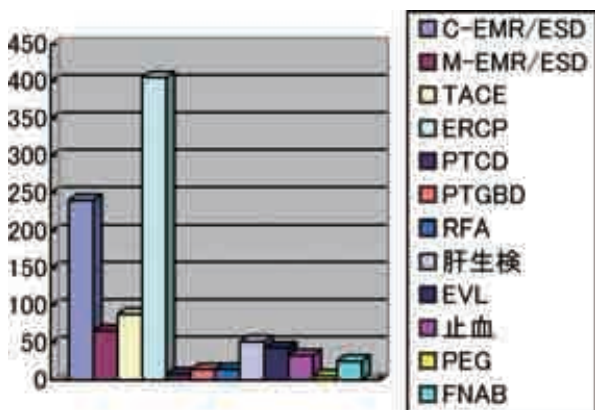


図1 2012年度の治療件数とその内訳

表1 病棟運営状況

病床稼働率	在院日数	1日患者数	入院患者総数
82.5%	14.5日	45.4人	1135人

### ■ 看護

看護方式は固定チームナースング制をとっており、2チーム、2交代制をとっており、夜勤は4人体制でおこなっています。受け持ち看護師の責任とチームでの深い関わりが果たせるよう、一人一人が意識し、カンファレンスを日々行っています。

内視鏡治療にはリスクの高い検査も多く、患者サイドの検査の必要性やリスク・安全性への理解の上での同意が必要です。そのためにインフォームド・コンセントには医師のみならず看護師も同席した上で十分な時間をとりおこなっています。特に看護の立場からは、医師の説明のあと患者・家族の不安の

軽減やより深い理解が得られるようクリニカルパスを使用し、オリエンテーション等も追加して行っています。



チームカンファレンス

### ■ 教育

月に一度「消化器内科懇話会」を開催しています。

講師は主に消化器内科医師が担当し、参加者は関連部署の医師・看護師、他部門のメディカルスタッフなど多数参加があります。基礎的なことはもちろん、消化器内科でのトピックスや専門的な治療についてわかりやすく学べる良い機会となっています。

病棟においても、毎月チーム会で担当者を決め、勉強会を開催しています。自分の学んだことを報告する機会が作れており、情報が共有できる場にもなっています。



### ■ 院内における研究・発表

#### 1. 院内研究発表会

内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブ留置患者の体験～ENBDチューブ留置患者に対するオリエンテーションを考える～

○南浦美樹 都原杏奈 森田範子 本山敏恵 松下理恵



## 西 8 階病棟

### ■ スタッフ紹介

科長 益村 勇子  
主任 山口 瑞穂  
主任 岡田 恵美子  
他 看護師 33名 看護助手 4名

### ■ 病棟の概要

西 8 階病棟は病床数 55 床の呼吸器内科、放射線治療科、緩和ケア科（緩和ケア病床あり）の混合病棟です。H 24 年度の病棟稼働率は 83.5% でした。

### ■ 看護

病棟目標は①患者さんの視点で考えるチーム医療の実践に努めます。②患者さんや家族、医療者とのコミュニケーションを充実させ患者の意思を尊重した医療・看護に努めます。

看護体制は固定チームナーシングで 2 チーム制で行っています。呼吸器内科患者を主としたチームは排痰援助方法、栄養管理、誤嚥リスク・嚥下リハビリについて他職種カンファレンスを毎週火曜日に行っています。スマートベストの使用による排痰援助や体位変換用クッションによる体位ドレナージ・ポジショニングで体位変換や誤嚥予防ケアを行っています。



〈呼吸器ケアチームカンファレンス〉

緩和ケア対象とした患者を主としたチームは毎朝、緩和ケア科医師を交えてミニカンファレンスを行い、情報共有とケアの統一に努めています。亡くなられた患者のデスカンファレンスや遺族カードの送付も行い、ケアの振り返りと共にスタッフ同志のサポートケア、家族へのグリーフケアを行っています。



〈緩和ケアチームカンファレンス〉

### ■ 教育

主任、各チームリーダーを中心に勉強会を行っています。テーマは呼吸器管理、NIPPVについて、ポジショニングと排痰援助、疼痛緩和について、持続皮下注射方法などです。呼吸リハビリ学会、緩和ケア研修会初級・中級編など緩和ケア関連の院外研修会にも積極的に参加し個々の知識習得に努めています。



〈呼吸器勉強会〉

### ■ 研究発表

院内看護研究発表

「退院調整を行う看護師の目的意識の現状～看護師が何を感じているか振り返ることのでられた看護の視点～」

上岡由佳 島田明子



〈緩和ケア病床〉

## 東 3 階病棟

### ■ スタッフ紹介

科長 丸 澤 葉志子  
主任 奥 元 直 美  
主任 益 田 尚 恵  
他 看護師 32 名 看護助手 2 名

### ■ 病棟の概要

循環器内科・心臓血管外科の44床の混合病棟です。

### ■ 看護

看護方式は2チームの固定チームナーシング制＋一部機能別を取り入れ看護実践を行っています。部署目標は、「チーム力を強化する」とかかげ、看護チームの強化により、看護の質の向上を目指しています。チーム力を強化するためのカンファレンスの実施、継続看護を目的に記録の充実に重点を置いています。

カンファレンスと看護計画・記録の充実では、毎朝各チームに分かれ看護計画を定期的に見直し、評価・追加・修正を行い、長期・短期目標を立てることにより、チームスタッフが継続し一環した看護ができるようにしています。

心臓血管外科患者に対しては、週1回、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士で多職種合同カンファレンスを行い、情報共有と共に充実したチーム医療を目指しています。

循環器科においては、必要時主治医・多職種を交えたカンファレンスを行っています。

心疾患の患者は生活習慣の影響から入院を繰り返す患者が少なくなく、患者自身の疾病理解と自己管理による予防が必要なため、多職種共働により心臓リハビリテーションを行っています。入院中よりパンフレットを用いて関わりセルフケア支援を行っています。現在は心筋梗塞患者、ペースメーカー埋め込み術患者、開心術前術後患者、心筋梗塞・狭心症患者に対して実施しており、今後は心不全患者への心臓リハビリテーションを開始する予定で現在準備中です。心疾患による再入院、急性増悪による救急搬送患者が減少できるよう生活指導を強化していき、医療・看護の質の向上を目指してチームで取り組んでいます。

### ■ 教育

循環器看護に必要な知識の向上と技術の習得のため、新人教育はプリセプターが中心となり、スタッフ教育は教育担当主任が中心となり指導計画を立て、医師に協力してもらい勉強会を開催し、学びを深めています。

リーダー育成は3年目後半から見習いに入り、病院主催のリーダー研修などに参加し、先輩が精神的なサポートもしながら、まず日勤のリーダーから立ち上げていきます。

異動してきた人には、教育係がつき、経験年数などを考慮した独自の計画を立て、精神的にも技術的にもサポートする体制を整えています。

スタッフ間の教育・サポートを病棟全体で行う環境が整ってきています。



第18回心臓リハビリテーション学術集会 発表

- ・ 当院でのAMI臨床パス導入の試み  
ー 包括的心臓リハビリテーションに向けてー
- ・ 心臓リハビリテーションにおけるパンフレットを用いた生活指導の有用性

## 東 4 階病棟

### ■ スタッフ紹介 .....

科長 鶴谷理恵  
主任 辻幸枝  
主任 畝小百合  
他 看護師 23 名 看護助手 2 名

### ■ 病棟の概要 .....

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科の混合病棟、病床数は42床です。個室10室（うち重症個室1室）、2人部屋6室、4人部屋5室です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。

### ■ 看護 .....

小児用のベッドは、高い柵でベットの囲っているサークルベッドを使用しています。院内でサークルベッドを所有している病棟は当病棟のみです。他病棟に小児が入院した時や転倒転落の危険性のある患者に家族の同意のもと使用することもあるため貸し出しを行っています。

小児用サークルベッドの問題として、酸素テントを使用時はベッド柵が上段まで上がらないという問題がありました。このたび、総務課、臨床工学科と一緒に業務改善に取り組み、大人用のベッド柵を使用した転落防止用の柵を作成しました。



眼科の老人性白内障の手術後は眼帯を当てた状態で翌朝まで過ごされます。翌日、眼帯を除去した後は点眼薬を数ヶ月間点眼しなくてはなりません。3種類の点眼薬を迷うことなく点眼できるように色つきの点眼表を作成し、点眼指導に取り組んでいます。

耳鼻咽喉科は慢性扁桃炎や慢性副鼻腔炎などの手術の他に頭頸部癌の治療目的で入院される患者が少なくありません。治療の基本は放射線療法と抗がん剤による化学療法です。口腔内や食道に治療の副作用が出現することがあり食事摂取困難になることがあります。そのため看護師は治療の進行に合わせて食事内容を栄養士と相談したり、口内炎、放射線熱傷の疼痛緩和について薬剤師と相談し早期に対処できるようにチームで活動しています。また、強度の疼痛が出現したときは院内の緩和ケアチームと連携して疼痛緩和に努めています。

### ■ 教育 .....

看護の質を向上させるため、病棟内で月1回以上の勉強会を行っています。講師には、医師、栄養士、薬剤師、事務など多くの職種の方に協力をいただいています。

平成24年度 勉強会 内容

- ・小児の呼吸器疾患
- ・小児の腎臓疾患
- ・食物アレルギー
- ・白内障、緑内障について
- ・がん性疼痛
- ・放射線治療の看護
- ・呼吸器管理について
- ・エンゼルケア
- ・DPC（診断群分類別包括制度）について 等

### ■ 院内における研究・発表 .....

平成24年度院内研究発表会

「看護師の夜勤におけるストレス要因」

発表者 唐藤 純子

## 東 5 階病棟

### ■ スタッフ紹介

科長 松村 鶴代  
主任 坂本 真由子  
主任 岩崎 文江  
他 看護師 32 名 看護助手 3 名

### ■ 概要

定床 51 床で、一般病室 7 部屋と混合病室 3 部屋、一般個室 10 床、重症個室 1 床の病棟です。主に脳神経外科・口腔外科患者を対象とする混合病棟です。平成 24 年度の新入院患者数は 801 人で平均在院日数は 19.3 日、病床稼働率は、目標の 80% を達成することが出来ました。手術件数は脳外科 169 件、口腔外科 129 件です。

### ■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制が定着して、それぞれ 2 交代に合わせたワークライフスタイルがとれて来ています。

#### ○ 清潔援助に力を入れて

当病棟の特徴は就寝患者さんの割合が 40% を占めており、疾患の特徴からも日常生活に介助を要する患者さんが多く、清潔面でのケアの質の担保に力を入れていきます。特に週 2 回の機械浴、シャワー浴日には、フリー業務看護師と病棟ヘルパーを入浴担当と出来るよう勤務調整を行い、ほぼ毎回実施できるようになり、患者さん、ご家族からも良い評価をうけています。

#### ○ 業務改善では

看護の方法は固定チームナーシングです。チーム毎にカーデックスを用いて業務を行っています。そのカーデックスをファイル形式のものに変更し、持ち運びも便利でより使いやすく、誰が見ても判りやすいものへ形式も改善され、チーム毎の看護に効果をあげています。

#### ○ コメディカルとの連携

脳外科病棟では、リハビリスタッフとの連携は患者さんの日常生活を支援する面で欠かせません。毎週行われるリハビリカンファレンスでは主治医・PT・OT・ST・病棟看護師が参加して行われ、患者さんの疾患の状態、ADL、リハビリ意欲、家族状況など総合的に意見を出し合い、患者さんに合わせた今後の方向性を検討しています。

医療者間の連携では、病棟薬剤師との連携、共働で入院患者さん全員の内服管理が安全に正しく行えるよう取り組みました。特に木曜日の定期処方日には、薬剤師と看護師でセットした内服薬のダブル

チェックを行い、セットミスがなくし確実な内服援助ができるようにしていきました。

また、病棟栄養士との栄養面で気になる患者さんのカンファレンスが定着し、病棟患者さんに栄養面で安全で安心した食事を提供できるよう取り組みました。

脳外科病棟では、ほとんどの患者さんに退院支援や転院支援が必要です。その中でも脳卒中連携パスを使用して転院する患者さんは多く、今年度パス使用での転院は 42 件でした。近隣の回復期リハビリテーション病院と連携を密にとり転院活動を行い、患者さんご家族に安心して転院してもらえよう転院調整しています。

毎月の病棟会では、担当を決め業務改善の議題提案が多くあり、担当がアンケートや事前調査を行い、充実した病棟会となり、積極的に業務改善がなされ看護に活かされ、病棟会が定着しています。

### ■ 教育

今年度は、これまでになく 4 月に新人看護師 6 名の配置があり、更に他病院から当病棟に 1 名の配置があり、プリセプターを中心にスタッフ全員で指導に取り組みました。これまでの様なプリセプターシップの方法では具体的な指導がうまくいかないと考え、4 年目看護師 3 名をプリセプターとしてプリセプティー 2 名を受持ちとし、4、5 月は専任で担当する指導体制をとって新人指導にあたりました。プリセプターにとっては、かなり負担も大きく大変でしたが、病棟業務の円滑化の面ではかなり効果的であり、他のスタッフにとっても良い体制でした。また、新人も常にプリセプターが日勤で勤務しており、統一した指導を受けられたことは技術面、メンタル面でも良い支援体制でした。

看護師による病棟勉強会は、毎年 4 グループに分かれての疾患別勉強会が定着しています。脳外科の主要疾患の病態や口腔外科疾患の基礎的な看護についてスタッフの学習にも効果をあげています。

看護の質をアップ出来るよう、平成 21 年に日本赤十字広島看護大学の迫田綾子先生から研究協力依頼を受け、「誤嚥性肺炎を予防するための食事時のポジショニング」という研究のフィールドを当病棟が受け入れ、病棟看護師 4 名も研究メンバーとなり脳血管障害の患者さんのポジショニングについて学習や実習を深める事ができました。その中で「安全に食べるための姿勢 5 つのポイント」というリーフレットができ、病棟でも使用して行くことになり、患者さんご家族から良い評価をうけました。

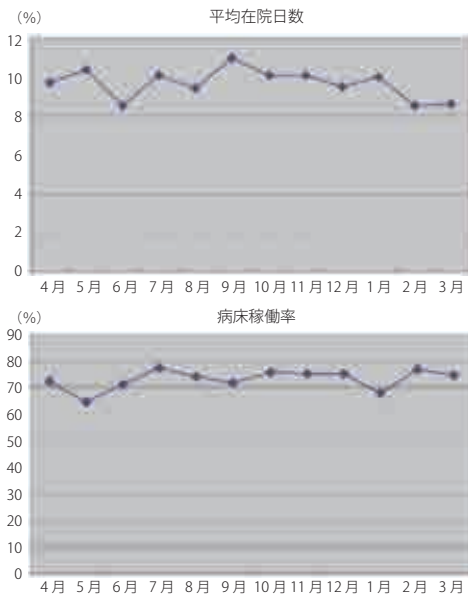
## 東 6 階病棟

### ■ スタッフ

科長 尾 神 正 子  
主任 広 瀬 敏 子・水 村 めぐみ  
他 看護師 23 名  
(皮膚創傷ケアの認定師 1 名)  
看護助手 2 名

### ■ 概要

主たる診療科：泌尿器科・乳腺外科・皮膚科  
泌尿器科の主たる疾患：前立腺癌・前立腺肥大  
前立腺炎・膀胱癌・腎臓癌・尿管結石  
乳腺外科の主たる疾患：乳癌・乳腺腫  
皮膚科の主たる疾患：帯状疱疹・良性・悪性腫瘍  
蜂窩織炎・熱傷・褥瘡  
病床数：49 床 個室 8 室・4 人部屋 10 室  
看護体制：固定チームナーシングと受け持ち制  
病床稼働率：平均 75.5%  
平均在院日数：9.8 日  
年間入院総数：1,414 人 退院総数：1,422 人  
東 6 階年間手術件数：609 件



### ■ 看護

目標 1. 看護の質の向上に努めるために、医療チームとの連携をとり、患者カンファレンスを充実させていく

取り組み：デスクカンファレンスは、医師・薬剤師・緩和・看護師のメンバーにて 2 回実施しました。生前の患者に対する看護師の思いを出してチームで頑張った事を認め合うように行いました。

チーム内のカンファレンスはそれぞれのチームが工夫して定着してきています。そして、スタッフ個人の受け持ちに対する意識・看護の責任も少し見ら

れるようになっていきます。クリニカルパス以外の患者に対してはそれぞれの受け持ち看護師が役割を認識して行動できるようになっています。

今後の方向性：チームの中の看護師個人が影響し合い、良い看護を目指して意見を出し合っていく、チームの中で話し合いを行いながら良い方向性に結びつけていくことが必要と考えます。

### ■ 教育

目標 2. 看護力（基礎知識・アセスメント能力・判断力）を高めていく

取り組み：1 回目発熱、2 回目血尿、3 回目下痢・嘔吐の事例を元にアセスメントの勉強会をリーダークラスのメンバーに行いました。勉強会実施メンバーは統一した観察と処処が出来るように事前学習を行い、医師より対処方法と判断の仕方を確認して実施を行いました。「自分たちが迷っていたことが明確になり、活かしていくことが出来る」という感想が聞かれました。経験の少ない若いスタッフが多い中で、さらに求められてくる実践能力の向上のためには重要なことです。3 事例ですが判断力に生かしていくことが出来てきています。

今後の方向性：回数を増やして、当病棟の疾患看護に自信を持って対処出来るようになることが必要と考えます。

### ■ その他

目標 3. 安全で効率的な環境を整えていく

今後の方向性：業務改善の担当者を中心として、回診車の中の物品の削減・回診車事態の大きさの変更に対してアンケートをとり、大幅な物品整理と回診車事態を小さいワゴンを使用していくように取り組みました。その結果、現在は回診車のワゴンはコンパクトになり、処置室の整理および物品も大幅に削減しました。そして、SPD の物品の定数の見直しの計画実施によりコストの効率的な削減、効率化がみられています。

今後の方向性：スタッフメンバーからの、意見を出して改善に努めることにより意欲の向上につなげ、物品管理の効率化を進めます。

2012 年	病棟内の勉強会実施内容
7 月	発熱 2 回分けてリーダークラスに実施
8 月	血尿 2 回分けてリーダークラスに実施
8 月	褥瘡症例検討
9 月	下血・吐血・ショック対応 2 回分けてリーダークラスに実施
9 月	失禁・排尿障害
11 月	テープによるスキントラブルとその予防
12 月	MRSA・膀胱留置カテーテルからの採尿
2 月	乳腺外科後出血時の対応

# 東 7 階病棟

## ■ スタッフ紹介

科長 村 中 ひろみ

主任 伊 藤 昭 範

主任 小松野 明 美

他看護師 28 名 看護助手 2 名

## ■ 病棟の概要

東 7 階病棟の主な診療科は、呼吸器外科・心臓血管外科・循環器内科・呼吸器内科です。看護師は急性期の患者から終末期の患者まで看護を幅広く行っています。

呼吸器外科の主な疾患：肺がん、縦隔腫瘍、気胸

心臓血管外科の主な疾患：閉塞性動脈硬化症、

腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤

循環器内科の主な疾患：慢性心不全

呼吸器内科の主な疾患：肺炎、睡眠時無呼吸症候群

2012 年度の手術件数の内訳は図 1 に示します。

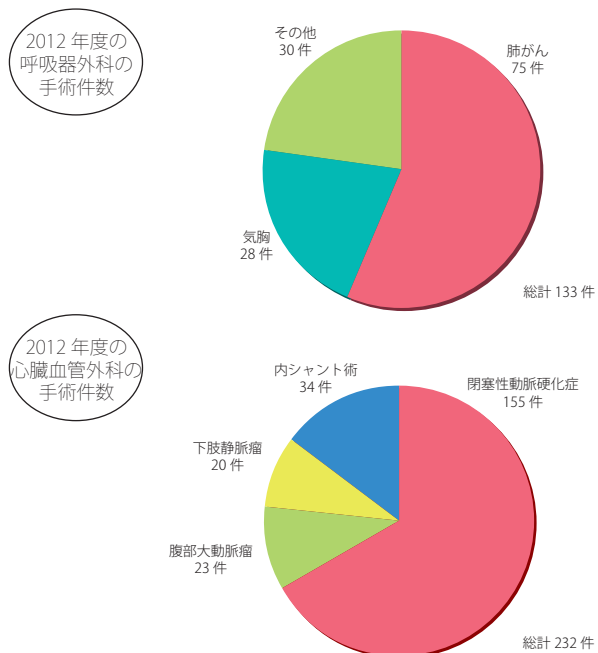


図 1 2012 年度 手術件数内訳

表 1 2012 年度 病棟概要

病床数	43 床
平均在院日数	16 日
平均病床稼働率	77.1%

## ■ 看護

患者の年齢層や疾患は幅広く、それぞれに求められる看護の内容は様々です。早期離床を促し、患者の状態に応じた看護を提供しています。

毎週金曜日に医師、コメディカルとカンファレンスを実施し患者情報の共有を行い、治療の方向性の検討、統一した看護の提供に努めます。当病棟は患者満足度の向上を目指し、個性のある看護の提供を心掛けています。

月に 1 回病棟会を行い、病棟業務の見直しやその他の事案の検討、情報の伝達を行い、病棟の活性化を図っています。

## ■ 教育

専門知識を習得し看護の質を向上させるため、また自己の成長を促し個々のレベルアップを図るために、病棟内で勉強会を行っています。

〈2012 年度に施行した勉強会〉

- ・ AAA ステントグラフト挿入中の看護
- ・ 内シャント手術のプライミング、ストラテジー
- ・ 閉塞性動脈硬化症の臨床検査の意義
- ・ 人工呼吸器、NIPPV について
- ・ 褥瘡について
- ・ 急変時の対応について

## ■ 研究

タイトル：肺癌患者における入院中と退院後の術後の不快症状の比較

平成 24 年度は院内発表を行い、平成 25 年度は成人看護 | 日本看護学会学術集会にて発表予定です。



## 東 8 階病棟

### ■ スタッフ

科長 槌谷 滋 乃  
主任 新田 克己、山本 時生子  
他 病棟看護師：26名  
透析室看護師：4名  
看護助手：2名

### ■ 病棟の概要

【診療科】 糖尿病・代謝内科 腎臓病内科  
透析室

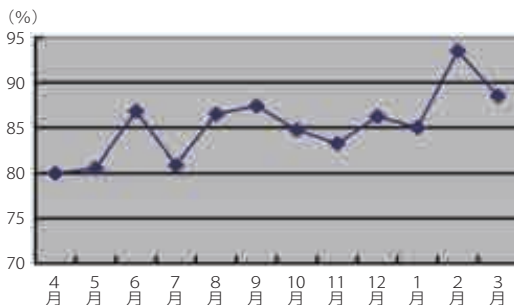
【病床数】 34床（個室11室 4人部屋6室）  
透析室15床

### 【構成人数】

### 【看護体制】

機能別看護  
日勤看護師：10～12名  
夜勤看護師：3名  
入院患者数：442人  
平均病棟稼働率：85.3%  
平均在院日数：20.3日  
新規透析患者：157人（重複含）

病床稼働率



### ■ 看護

#### 【今年度の病棟看護目標】

- I. カンファレンスの充実を図り、計画的な質の高い看護を提供する
  - ・朝のミニカンファレンスの充実を図る
  - ・月1回のリーダー会と病棟会の開催
  - ・週1回のチームカンファレンスの開催
- II. 専門分野の知識を高め、互いに研鑽しあえる職場環境をつくる
  - ・参加型のミニ勉強会を含めた計画的な病棟勉強会の開催
  - ・院内外の積極的な研修会参加と院外研修はスタッフによる伝達講習を行う（100%を目指す）
- III. 他部門との連携を強化し、安全で安心できる療養環境を提供する
  - ・互いの優しさが伝わるようにコミュニケーションを図る

・他部門との連携を深めて情報を共有する

各科共に看護師は医師、メディカルスタッフとの連携をとり、1回/週糖・腎カンファレンスを行い、方向性を統一し参加者はスタッフに伝達しています。透析室は外来患者・入院患者の透析を担当しています。入院患者の透析は連携面で混乱することが多いですが、全病棟への伝達や統一に様々な方法で工夫を行い、少しずつ確立されてきました。病棟においては、教育入院患者が増加し、特に指導面に関しては力をいれており、主として糖尿病患者のインスリン療法や運動・栄養療法の指導、腎臓病患者の日常生活指導や腎代替療法の選択に深く関わっています。

腎カンファレンス



### ■ 教育

病棟内で勉強会委員を設定し、3～5回/月以上の勉強会を行い、新人看護師や中堅看護師の知識・技術の向上に取り組んでいます。また院外の研修や学会にも積極的に参加し、最新の動向や看護治療の取得に努め、専門性を高めています。

### ■ 研究発表

24年度の研究発表  
第19回日本腹膜透析医学会学術集会総会  
第22回中国腎不全研究会

### ■ 院外活動

アイプラザまつりへの参加  
アイプラザまつりの様子



# 手術室

## ■ 概要

科長 村田 美智子  
 主任 松浦 美由紀  
 主任 上田 順子  
 主任 生田 佑子  
 他 看護師 26名 看護助手 15名

## ■ 概要

当院手術室は、手術部部長とともに、地域救命救急センターを有する急性期病院の中央手術室として役割を遂行するため、9つの手術室の有効利用率の向上を図っています。平成24年度は初めて年間手術件数が5000件を超えました。また、併せて中央材料室の運営管理も担っております。



平成24年度の年間手術件数は5082件（うち麻酔科管理3617件）であり、緊急手術は617件でした。その中でも、低侵襲手術である内視鏡手術は、各科とも年々増加傾向にあります。

## ■ 看護

当院手術室は、看護師2名で待機制をとり、365日24時間緊急手術に対応できる勤務体制をとっています。

1. 予定手術に対しては専任制による術前訪問を行



外科医師主催の高校生セミナーのお手伝い中です！

い、術前オリエンテーションに力を入れ緊張不安軽減に努めています。また、その患者様にあった看護計画を立案し実践しています。

2. 手術室業務がスムーズに実施できるように、スタッフを器械管理・器材物品管理などの各係に役割分担しています。
3. 安全・安心な医療・看護の提供を目指しマニュアルを作成し、看護の統一に努めています。
4. 医療機器の管理・看護行為を臨床工学技士と連携・協働し、より安全な手術環境が提供できるように努めています。

## ■ 教育

新人看護師教育は、1年目・2年目ともプリセプターを中心に立てた教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿って実施しています。毎月プリセプター会議・リーダー会議を行い、各科指導チームとも連携を図り各科手術に対応できる幅広い知識・技術の習得に力をいれています。2校の看護実習の受け入れも行っており、看護学生への指導・育成にも力を注いでいます。

## ■ 研究

平成24年度院内看護研究発表会

当院手術室における針刺し・

切創事故に対する実態調査

～アンケート調査から見たこと～

研究者：丸川 綾・平本康昂





# 訪問看護ステーション

## ■ スタッフ

科長 古本直子

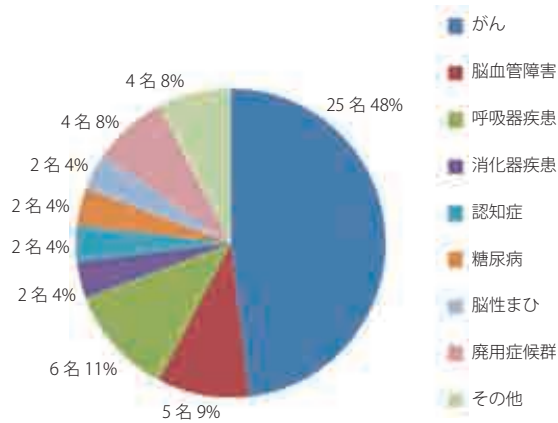
(緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)

他 看護師 3名

## ■ 概要

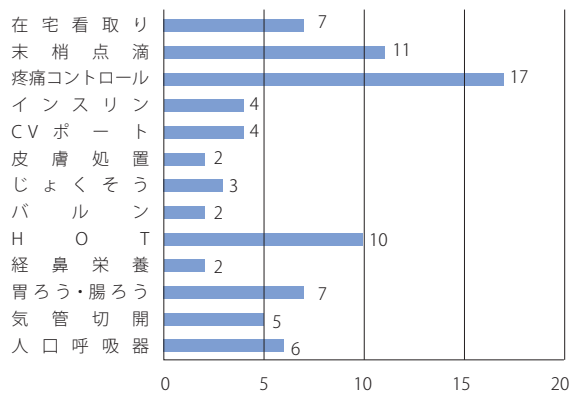
### ■ 利用者の概要

- ・ 8歳～104歳 ・ 月間利用者数：22～28人
- ・ 月間のべ訪問件数 100～140件
- ・ 介護保険：医療保険＝6.5：3.5
- ・ 主な疾患 (N=51)



・ 約半数ががんの利用者さんです。

・ 主な医療処置 (重複該当あり)



### ■ 2012年度地区別訪問利用者数

- ・ 廿日市地域 38件
- ・ 大野地域 11件
- ・ 佐伯区地域 2件

## ■ 2012年度トピックス

1) 広島西医療圏訪問看護推進協議会の立ち上げ  
廿日市市・大竹市内の訪問看護ステーション11か所で、質の向上と連携を目的に、災害マニュアル検討中。

2) HST (在宅RST) の共同

院内臨床工学科と、在宅で人口呼吸器装着者の支援を行っています。利用者Aさんは人口呼吸器を装着しても、会話ができるようになりました。



## ■ 当ステーションの役割

- 1) 医療依存度の高い利用者の支援
- 2) 在宅緩和ケア、在宅看取りの支援
- 3) 広島市内から退院するがん患者、難病患者、障害児の支援
- 4) 併設病院各チームの (RST、NST、褥創など) 在宅での医療技術支援窓口



スタッフ一同

# 居宅介護支援事業所

■ **スタッフ** .....  
 介護支援専門員（基礎資格：看護師）2名

■ **事業の目的** .....  
 利用者の方が可能な限り家庭で自立した生活ができるように介護保険法に従って利用者の方の能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、適切な居宅支援を提供する。

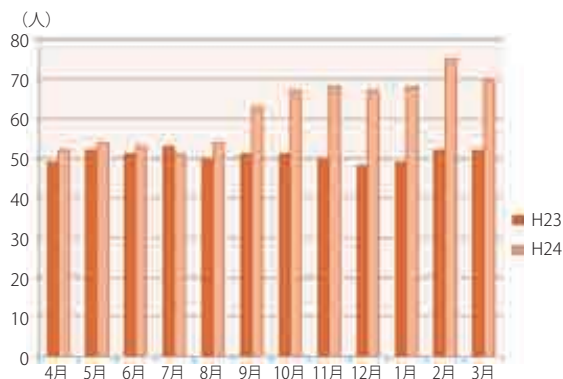
■ **事業の概要と特徴** .....  
 2000年4月、介護保険制度開始とともに訪問看護ステーションと兼務体制で開始し、2008年4月からは、居宅介護支援事業所として専従体制で活動しています。

当事業所は、急性期病院（癌拠点病院）・訪問看護ステーションの併設であり、がん終末期の方や医療依存度の高い方を中心に、看護の視点を活かし、丁寧な観察と状況予測に努め、医療と介護の連携に努め、利用者様とご家族の意向を尊重し生活の質の維持向上を目指しています。

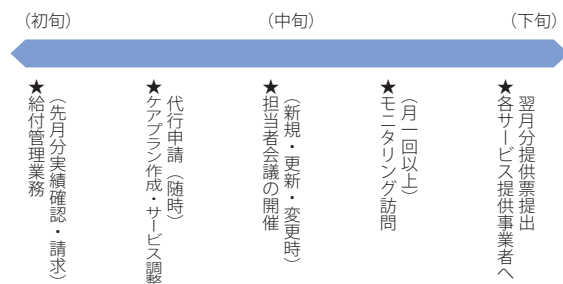
- **業務内容** .....  
 ① ケース相談（面接）  
 ② 要支援・要介護認定の確認・申請の代行  
 ③ 重要事項説明同意・契約  
 ④ 在宅又は施設を訪問しアセスメント実施  
 ⑤ 居宅サービス計画（ケアプラン）作成  
 ⑥ サービス調整（関連機関・サービス事業者と連絡調整）  
 ⑦ サービス担当者会議の開催（新規・更新・変更時）  
 ⑧ モニタリング訪問（月1回以上）  
 ⑨ 給付管理（毎月10日までに）  
 ⑩ 地域包括支援センターから介護予防委託受け実施  
 ⑪ その他



■ **居宅利用者数前年度と比較（図1）** .....



■ **月次業務の流れ** .....



■ **その他の活動内容** .....

- \* 廿日市市介護認定審査員  
毎月2回（水曜日 17:30～19:00 廿日市市役所内）
- \* 廿日市市介護支援専門員連絡協議会役員  
JA 広島総合病院認定看護師による研修会4回開催  
開催場所：あいプラザ

H24/8/21	10/16	12/10	H25/2/12
糖尿病	胃ろう管理	感染管理	摂食嚥下



事務所内風景

# 薬剤部

## ■スタッフ

部長 大田 博子  
 科長 寺澤 千佳子  
 科長補佐 中村 浩之  
 科長補佐 只佐 正嗣  
 主任 古月 雅子  
 主任 高先 邦子  
 主任 磯貝 明彦  
 主任 松本 里恵  
 主任 中島 恵子  
 薬剤師 29名 (役職者含む) 事務 4名

### [人員配置]

西4階、西5階、西6階、西7階、西8階、東3階、東4階、東5階、東6階、東7階、東8階、HCU、ICUに病棟薬剤師  
 がん化学療法専任 3名 ICT専任 1名  
 NST専任 1名 DI専従 1名

### [取得資格 (認定、所属学会、世話人、等)]

日本糖尿病療養指導士 5名  
 栄養サポートチーム (NST) 専門療法士 1名  
 緩和薬物療法認定薬剤師 1名  
 感染制御認定薬剤師 2名  
 公認スポーツファーマシスト 1名  
 日本薬剤師研修センター認定  
 実務実習指導薬剤師 2名  
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 2名  
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 25名  
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 7名  
 日本DMAT隊員 1名  
 ICLSインストラクター 1名  
 危険物取扱者 1名  
 NR・サプリメントアドバイザー 1名

日本糖尿病学会 1名・日本臨床薬理学会 1名  
 日本TDM学会 2名・日本化学療法学会 1名  
 日本医療薬学会 4名・日本緩和医療学会 1名  
 日本緩和医療薬学会 3名・日本臨床腫瘍薬学会 3名  
 日本環境感染学会 1名・日本臨床救急医学会 1名  
 日本静脈経腸栄養学会 1名  
 日本腎臓病薬物療法学会 3名  
 日本厚生連病院薬剤師長会議理事・監事 1名  
 廿日市市薬剤師会理事・副会長 1名

広島県病院薬剤師会理事 1名  
 広島県病院薬剤師会委員会 (DI委員 1名、  
 薬剤業務・プレアボイド委員 1名)

## ■業務内容

調剤業務: 外来 500枚/日 (院外処方箋発行率0%)  
 入院 200枚/日  
 注射調剤 170件/日、院内製剤 50品目  
 TDM (VCM・TEIC・ABK) 55件/月  
 抗がん剤無菌調製: 外来 17件/日 入院 9件/日、  
 抗がん剤レジメン構築・管理  
 薬剤管理指導算定件数 1100件/月、  
 持参薬鑑別 150件/月  
 薬品管理 (採用薬: 内服薬 743、注射薬 507、  
 外用薬 307、用時購入 80)  
 医薬品情報 (DI)、ICT、NST、医療安全管理、後  
 発医薬品選定、糖尿病教室、膵がん教室  
 治験 16件/年、実務実習指導 12名/年

## ■その他活動内容

プレアボイド、各委員会、がん化学療法運営委員会事務局、薬事委員会事務局、治験委員会事務局

## ■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシステム、  
 高圧蒸気滅菌機、乾熱滅菌機、RO純水製造装置、  
 クリーンベンチ、安全キャビネット

## ■部門内の研修会

2回/月 薬剤部定期勉強会

2010年4月の厚生労働省医政局通知で「チーム医療」の重要性とそこでの薬剤師の役割が明示されましたが、当薬剤部でも新たに感染制御認定薬剤師の資格他を取得したことにより今まで以上にチーム医療に貢献できると考えます。また2012年度診療報酬改定にて従来の薬剤管理指導業務 (主に投薬以後における患者に対する業務) 加算とは別に、薬剤師の病棟における薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務の評価により入院基本料の加算として病棟薬剤業務加算が新設されましたが、来年度その取得に向けて病棟業務重視の業務改善を行いました。一方、外来患者さんに対しても禁煙外来・吸入指導・自己注射指導・抗癌剤の初回指導等を充実させました。

# 臨床研究検査科

## ■ スタッフ

主任部長	石田 和史 (兼務)
部長	碓井 裕史 (兼務)
精度管理部長	山田 一夫
科長	水野 誠士
科長補佐	三舛 正志
科長補佐	福岡 達仁
主任	河田 智恵子
主任	笹谷 真奈美
主任	横山 富子
主任	山下 美香
主任	小松 浩基
臨床検査技師	37名 (役職者含む)
助手	1名

## ■ 取得資格

認定輸血検査技師	2名
認定一般検査技師	1名
認定血液検査技師	1名
認定心電検査技師	1名
細胞検査士	1名
超音波検査士	5名
(循環器2、消化器2、体表臓器1)	
二級甲類臨床病理技術士	10名
(血液学6、循環器2、脳神経1、病理学2)	
DMAT 隊員	1名
消化器内視鏡技師	1名
一般毒物劇物取扱者	2名
医療情報技師	2名
医療廃棄物管理責任者	1名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	1名
健康食品管理士	4名
危険物取扱者	1名

## ■ 施設基準

日本臨床衛生検査技師会  
 認証精度保証施設  
 標準化事業 基準基幹施設

## ■ 部門研修会

- ・平成24年度診療報酬改訂のポイント
- ・膿性胸水よりトリコモナス種を検出した重症肺炎
- ・結核についての勉強会
- ・ADVIA 白血球分類 スキャッタグラムの見方

- ・COPD について
- ・検体採取と品質評価
- ・EDTA 凝集って？
- ・検査値を変える変動要因について
- ・輸血副作用集計について

## ■ トピックス

- 5月
- ・CPX (心肺負荷検査) の開始
  - ・LAMP 法を用いた結核菌核酸増幅検査の実施
- 6月
- ・術前肺機能外来への運用協力
  - ・中国5県におけるHBA 1c測定値調査への協力
- 7月
- ・HIV 検査測定法 定性から定量に変更
- 8月
- ・尿中、髄液中蛋白定量試薬の変更
  - ・HBs 抗体測定試薬の変更
- 9月
- ・チェックメイト ヘルペスアイの導入
- 10月
- ・マイコプラズマ LAMP 法の導入
  - ・Mg 測定を24時間対応とする
- 11月
- ・ノロ検出キットの変更 (クイックナビ ノロ2)
- 2月
- ・テイコプラニン測定試薬の変更

## ■ 外部精度管理成績

- ・平成24年度日臨技臨床検査精度管理調査結果報告  
99.5点 (200 / 201)
- ・日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告  
99.4点 (636 / 640)
- ・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告  
99.1点 (555 / 560)

## ■ 今年度更新検査機器

- ・バイオハザード対策用キャビネット  
CLASS II TYPEA 2
- ・ビリルビンメータ (黄疸計)
- ・新生児 ABR (ネイタスアルゴ3i)
- ・ユニバーサル冷却遠心機 5911

# 中央放射線科

## ■スタッフ

主任部長 西原 礼介  
 科長 小瀨 千幸  
 主任 山口 裕之  
 主任 本山 貴志  
 主任 高畑 明  
 主任 海老谷 京子  
 主任 砂田 研二

診療放射線技師 25名 (科長、主任含む)

## ●人員配置

中央放射線 (一般撮影、マンモグラフィ、骨密度測定、泌尿器科撮影室、破碎装置、ポータブル撮影、手術室、核医学、心臓カテーテル室、歯科撮影) 13名

CT (CT 2台、ドック検診胃透視、汎用血管造影、救命センターを含む) 5名

MR 3名

治療 2名 (科長以外は診断からのローテーション)

## ●取得資格

検診マンモグラフィ撮影認定技師	7名
JABTS 乳腺超音波検査認定試験 A判定	1名
放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理士	1名
第1種放射線取扱主任者	4名
エックス線作業主任者	2名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	2名
第一種作業環境測定士	1名
日本核医学技師認定機構認定 核医学専門技師	1名
日本救急撮影技師認定機構認定 救急撮影認定技師	1名
日本X線CT専門技師認定機構 X線CT認定技師	3名
日本医療情報学会認定 医療情報技師	2名
日本放射線技師会認定 MRI検査技能検定3級	4名
日本放射線技師会認定 放射線管理士	4名
日本放射線技師会認定 放射線機器管理士	5名

日本放射線技師会認定一般撮影技能検定3級	1名
日本放射線技師会認定 医用画像情報管理士	3名
日本放射線技師会認定 臨床実習指導教員	1名
肺がんCT検診認定技師	1名
Ai認定診療放射線技師	1名

## ■所属学会

公益法人 日本放射線技師会	12名
公益法人 日本放射線技術学会	21名
NPO 日本乳癌検診学会	2名
日本消化器集団検診学会	1名
日本医用画像管理学会	1名
日本核医学技術学会	1名
日本核医学会中四国部会	1名
日本磁気共鳴医学会	1名
オートプシーイメージング学会	1名

## ■業務内容 (トピックス)

診療放射線技師は、国家資格を有する者しか人体への放射線照射は許されないという業務独占資格です。最近では医療行為として人体に放射線を照射するだけでなく、様々なモダリティにおいて放射線の物理特性や医療機器の特性の理解し、照射する放射線量の最適化を図るといふ、高度な要求がなされるようになってきました。当院でも被ばく低減のため、装置の管理はもとより、最新技術の取り入れや情報収集のため様々な分野で研究会やセミナーに参加し、医療水準を最新に保てるよう努力しています。他に、对患者以外の業務として、撮影データの画像処理、放射線治療における治療計画(線量計算)、放射線利用の安全管理、放射線診療に用いる機器・器具の管理等、職種の専門性を生かした業務(医療情報システム業務、モニタの精度管理)も行うようになってきました。

2014年1月の電子カルテのベンダー変更に伴い、医療情報システムの構築に電算チームと協力体制を組み、院内のモニタ環境の調査や管理、医療機器のネットワーク管理など、画像に関する全ての細かな裏方の仕事にも積極的に携わっています。

# 臨床工学科

## ■ スタッフ

主任部長 吉田 研一 (兼務)  
 主任部長代理 小深田 義勝 (兼務)  
 科長 竹内 邦夫  
 主任 曾我 嘉博  
 主任 瀬尾 憲由  
 臨床工学技士 11名 (科長・主任含む) 助手 1名

## ■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在 11 名でさまざまな業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

## ■ 業務内容

### 『手術室業務』

- 人工心肺装置・自己血回収装置の操作・管理
- 整形外科手術でのインプラント介助
- 電気メス、麻酔器などの ME 機器の保守管理
- 腹腔鏡下手術での内視鏡装置の保守管理

### 『救急・集中治療室業務』

- 急性血液浄化療法  
CHDF、血漿交換、血液吸着、血液透析など
- 補助循環装置 (VA-ECMO、VV-ECMO)、IABP
- 人工呼吸器などの酸素療法に関連する機器操作  
挿管・抜管介助、Weaning プロトコールの運用  
医師の指示化での人工呼吸器設定調整  
NPPV 管理・物品管理
- 各種生体情報モニターの管理

### 『慢性期・在宅医療支援業務』

- 慢性人工呼吸器患者管理 (RST 活動)
- 一般病棟での NPPV 管理
- 人工呼吸器や NPPV (NIP、ASV) などの在宅医療支援 (HST) 活動としての在宅訪問

### 『循環器業務』

- 心臓カテーテル検査室  
ポリグラフ・IVUS・ローター操作、物品管理
- 不整脈デバイス関連  
ペースメーカー・ICD・CRTD の患者情報管理  
埋め込み時や電池交換時の PSA 操作  
埋め込みデバイスの機種選定  
EPS 時のポリグラフ・スティムレーター操作

### 『血液浄化業務』

- 透析室  
シャント穿針・血液透析の開始・終了  
良質な透析液水質の維持  
透析装置・水処理装置の保守管理
- アフエレーシス  
白血球除去療法 (LCAP、GCAP、遠心分離)

### 『高気圧酸素療法業務』

- 火気厳禁のため、火の元 (マッチ、懐炉など) の持ち込みの観察を厳重に行います。
- 治療中に異常が無いが常に観察しています。

### 『内視鏡業務』

- 内視鏡スコープとトランス (本体) の保守管理
- 治療後のスコープの洗浄管理、洗浄機管理
- ESD・EMR・ERCP などの介助、物品管理
- 高周波装置・RFA などの ME 機器の保守点検・操作

### 『ME 機器管理業務』

- シリンジポンプ・輸液ポンプ・モニターだけでなく、複雑化する院内 ME 機器を保守管理
- 適切な機種選定、台数の確保、データベース管理
- 院内修理を行うことで、素早い対応が可能

## ■ トピックス

多種多様な業務を円滑に進めるために、主に 3 チームに業務分担して活動しております。これにより全体として幅広い業務に対しても専門性 (スペシャリティー) を持って、より質の高い CE 業務を提供でき、チーム間で連携をとりながら業務を施行することができます。

## ■ 認定資格取得

- 体外循環技術認定士：3名
- 3学会合同呼吸療法認定士：7名
- 透析技術認定士：2名
- ペースメーカー関連認定士：1名

## ■ 所属学会

- 日本臨床工学技士会
- 日本体外循環技術医学会
- 日本アフエレーシス学会
- 日本呼吸療法医学会
- 日本人工臓器学会
- 日本高気圧環境医学会

# リハビリテーション科

## ■ スタッフ……………

センター長	黒木 一彦 (兼務)
部長	渋川 正顕 (兼務)
部長	小林 平 (兼務)
部長	山田 清貴 (兼務)
科長	上野 忠活
科長補佐	金羽木 敏治
主任	寺迫 正広
	理学療法士 11名・言語聴覚士 3名 作業療法士 3名 (役職者含む)

## ・取得資格

呼吸療法認定士	8名
心臓リハビリテーション指導士	1名
住環境福祉コーディネーター2級	3名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	1名
がんリハビリテーション研修修了者	6名
認知症ケア専門士	1名

## ・所属学会

日本理学療法士協会
日本作業療法士協会
日本言語聴覚士協会
広島県理学療法士会
広島県言語聴覚士会
心臓リハビリテーション学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会

## ■ 部門紹介……………

当科では入院患者さん中心に院内全科からのリハビリテーション依頼を受けており、様々な疾患をもたれた患者さんのリハビリを行っております。入院後や手術後早期からのリハビリ介入も多く、一般病棟だけでなく、ICUでも積極的に介入しております。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、他職種と協同して各患者さんへの支援を行ったり、NSTやRST・緩和ケアチームなどの院内チームでの活動も行っております。

## ■ 認定施設基準……………

運動器リハビリテーション料 (1)
呼吸器リハビリテーション料 (1)
脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)
心大血管リハビリテーション料 (1)
がん患者リハビリテーション料

## ■ 所有管理機器……………

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・CPM・低周波・スパイロメーター

## ■ トピックス……………

呼吸ケア・リハビリテーションチームへの参加

呼吸器内科病棟における包括的呼吸ケア・リハビリテーションへの介入を開始しました。週1回医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・言語聴覚士が集まってカンファレンスを行い、患者さんかより早期に改善できるように、各職種がそれぞれの専門性を活かしながら患者さんに関わっています。



# 栄養科

## ■スタッフ

主任部長 香山茂平 医師

科長 河本良美

主任 三浦満美子

管理栄養士 9名 (科長、主任含む)

委託 (調理部門) (株) 日米クック

### [人員配置]

外来指導担当 常時3名

病棟担当 各1名

NST専従 1名 (八幡謙吾)

### [取得資格]

病態栄養専門師 4名

日本糖尿病療養指導士 2名

NST専門療法士 1名

### [所属学会]

日本病態栄養学会 7名

日本静脈経腸栄養学会 5名

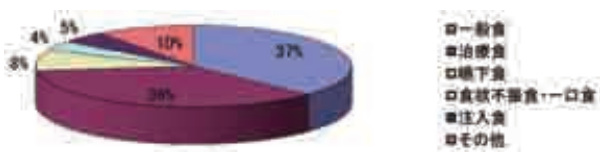
日本糖尿病学会 1名

日本臨床栄養協会 1名

## ■業務内容

### [給食]

栄養科では、調理部門の協力のもと、安全で安心な食事の提供を心がけています。



2012年度の食種内訳

また、より患者さんに喜んでいただける給食を提供出来るよう、今年度より栄養科職員、調理スタッフ協同の献立ミーティングを毎月2回開始し、献立の改善に努めています。

### [栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。



## 2012年度実績

### 〈個別指導〉

ー外来ー	1,663件	ー入院ー	672件
糖尿病	1,036件	心疾患	294件
腎臓病	324件	糖尿病	171件
その他	303件	その他	207件

### 〈集団指導〉 155件

糖尿病昼食会 1回/週 (毎週 火曜日)

腎臓病調理実習 1回/月 (毎月第3木曜日)

## ■施設基準

入院時食事療養 (I)

## ■その他活動内容

患者サービス:行事食 (敬老の日、クリスマスなど)  
退院食

集団栄養教育:妊産婦教室

参加チーム活動:NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST

その他:あいプラザまつり (糖尿病グループ)、腎臓病市民公開講座のスタッフとして参加

## ■トピックス 1

今年度のふれあいポスター展で最優秀賞を受賞しました。地域住民の皆様にも、気軽に減塩を実行していただけるきっかけになればと思います。



## ■トピックス 2

2013年2月の糖尿病センターのオープンにともない、栄養相談室が3部屋に増えました。

待ち時間の短縮に加え、部屋はすべて個室、車椅子のまま入ることができる部屋もあり、より良い環境で、患者さんとお話ができるようになりました。





# 診療情報管理科

## ■ スタッフ

科長 佃 真由美  
 係長 井本 真美  
 他 5名

### 〔資格取得〕

診療情報管理士 4名 (科長、係長含む)  
 院内がん登録実施中級者修了者 1名  
 院内がん登録実施初級者修了者 3名  
 医師事務作業補助者認定 1名

### 〔所属学会〕

日本診療情報管理士会

## ■ 活動報告

診療情報管理科では、情報の管理と物の管理を行っております。

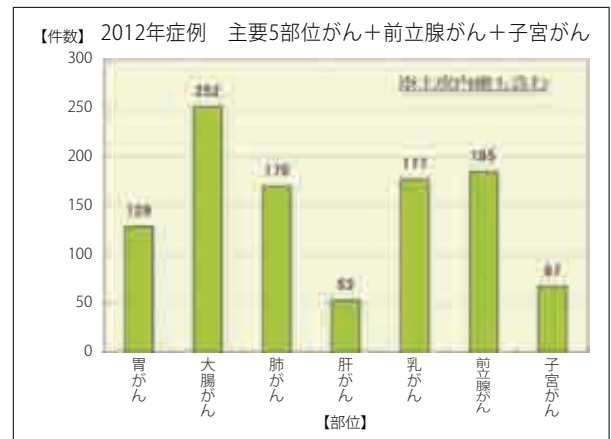
情報の管理として、医師の退院時サマリーを基に国際疾病分類 ICD-10 コードや ICD-9 コードを用いて統計を作成するためのデータの構築を行い、医師・看護師・コメディカルからのデータ抽出依頼に対応しております。

がん診療連携拠点病院として、国際疾病分類 ICD-O-3 や UICC TNM 分類を用いて院内がん登録を行い、地域がん登録にもデータを提出しております。

物の管理として、1患者1カルテとして、副カルテ (同意書類) を保管・管理を行い、必要なときに迅速にカルテを提供できるようにしております。

また、『医療と診療記載の量の向上』を図るため、電子カルテ内の量的点検を行い、結果を対象部署へ提出しております。

医師の退院時サマリー 2週間以内記載率ならびに1ヵ月以内記載率を作成・報告し、高い記載率を保持していただくよう働きかけております。



# 医療安全管理室

## ■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)

次長 高田 治 彦 (兼務)

科長 吾郷 志津枝

〈専従スタッフ〉

吾郷 志津枝

看護科長、専従リスクマネージャー

医療安全責任者

所属学会：医療の質・安全学会

## ■ 平成 24 年度 活動テーマ

『職員の医療安全管理活動への自主的参加を支援する』

## ■ 委員会内容

### 1. 院内リスクマネージャー管理部会

(毎週月曜日 16:10～17:00)

各部署より提出されたヒヤリ・ハット報告書を元に、現場で起きている医療安全上の問題を速やかに把握し、介入していく医療安全活動の中心的役割を担っています。レベル3b以上の報告・患者誤認・転倒・転落についての事例討議を行い、対応策を検討しています。

〈メンバー〉

徳毛医師 (消化器内科主任部長・医療安全管理室長)

高田医師 (整形外科主任部長・医療安全管理室次長)

吾郷専従リスクマネージャー (医療安全管理室科長)

嘉屋事務次長 (総務課長兼務)

新宅副看護部長 (看護科医療安全担当)

今本科長 (感染防止対策室科長)

三外科長補佐 (臨床研究検査科)

本山主任 (診療放射線科)

生田主任 (看護科手術室)

角井薬剤師 (薬剤師・医療安全研修 40 時間修了者)

### 2. 医療事故防止対策委員会

(毎月第3木曜日 17:00～)

医療安全管理室より出された提案事項の検討、医療事故防止対策に関連した事項の対応策の検討、医

療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、ラウンドを行っています。

〈メンバー〉

各部門管理者および院内リスクマネージャー

### 3. 部門別小委員会

\*看護科安全対策委員会 (毎月第4水曜日)

オブザーバーとして出席

\*看護科急変対応委員会 (毎月第3火曜日)

オブザーバーとして出席

\*DMPP委員会 (会議年8回・研修会年1回)

医療事故防止対策委員会の下部組織

\*医療機器安全対策委員会 (会議年1回・研修会年1回)

\*放射線安全管理委員会 (会議年1回・研修会年2回)

## ■ 認定施設基準

医療安全対策加算 1

## ■ 主な活動報告

\*新採用者研修 (4月入職時)

\*事務部門・委託職員に AED 研修会の実施 (3回)

\*看護助手・日米クック (調理者) に出前研修会の実施

\*院内医療安全研修会 (集合研修) 年9回実施

\*RRT 立ち上げに向け活動

予期せぬ事態に対応するシステムがRRSであり、「その異常をいかに早期にとらえて介入につなげるか」のエリアを担うのがRRTである。



今後も安心・安全な医療の提供を支援していき、よう取り組んでまいります。

# 感染防止対策室

## ■スタッフ

室長 今村 祐司 (兼務)

科長 今本 紀生

## ■取得資格、所属学会

〔取得資格〕

感染症制御医 (ICD)

感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会

## ■部門紹介 (概要)

近年、病院業務における院内感染対策の重要性が強く認識される中、当院においても平成24年度から感染防止対策室が新設されました。患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会やICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。

また、医師会・看護協会・保健所等で企画される研修会や各施設で行われる研修会での講演 (指導) をはじめ、広島県西部の中核病院として、地域における感染対策の質向上を目指した活動にも積極的に取り組んでいます。

## ■業務内容

1. 感染拡大の早期発見、感染症発生時の対応
2. 院内感染管理部会 (毎週火曜日 16:00～) 現場ラウンド、薬剤耐性菌サーベイランス分析、抗菌薬長期使用例への介入、その他
3. ICT 部会 (1回/月) 院内感染症 (細菌) サーベイランス報告、抗菌薬使用状況報告、感染管理部会活動報告、看護科感染対策委員会活動報告、その他
4. サーベイランス カテーテル関連感染、消化器外科術後感染
5. 院内感染対策研修会 (2回以上/年)
6. 感染管理に関する業務・設備・器材改善の企画
7. 関連委員会、他部門との連携
8. 院内感染対策広報活動 広報紙、緊急メール、院内HP掲載など
9. 院内感染対策マニュアルの新規作成・改訂
10. 院内外の講義 (指導) の支援

## ■研修会

〔院内研修〕

開催日	内容
2012. 4. 3	新採用者「血液体液曝露予防」研修
2012. 6. 1	看護助手勉強会
2012. 7. 25	医療安全研修「血液体液曝露予防」
2013. 3. 27	日本ステリ (委託) 感染研修会

〔院外研修 (講師)〕

開催日	内容
2012. 5. 17	佐伯地区医師会 MRM 講演会
2012. 6. 29	野島内科病院 研修会
2012. 10. 4	アマノリハビリテーション病院 研修会
2012. 10. 17	JA 佐伯中央訪問介護 研修会
2012. 10. 18	広島グリーンヒル病院 研修会
2012. 10. 26	友和病院 研修会
2012. 11. 4	あいプラザまつり (手洗いテスト)
2012. 12. 18	廿日市市介護支援専門員 勉強会
2012. 12. 25	佐伯区医師会院内感染対策 研修会
2013. 2. 8	ナカムラ病院 研修会
2013. 3. 7	広島県西部保健所 高齢者施設 研修会

## ■認定施設基準

感染防止対策加算 1

感染防止対策地域連携加算

## ■その他の活動内容 (2012年度 Topics)

以下のような活動を企画発案し、他部門の協力を得ながら改善、新規導入を行いました。

- ・次亜塩素酸ナトリウム (消毒液) の統一
- ・ディスポ壁掛け吸引器の導入
- ・マスク自動販売機の増設 (内科外来)
- ・嘔吐物処理セットの更新



# 地域医療連携室

## ■スタッフ

室長 佐藤 澄香

主任 桐山 葉子

他 看護師1名 社会福祉士3名 事務2名

広島県看護協会

日本社会福祉士会

広島県社会福祉士会

広島県医療ソーシャルワーカー協会

公益社団法人 日本医療社会福祉協会

日本医療メディエーター協会

## ■業務内容

### ■地域連携業務

- ・救急搬入件数、紹介率等の地域医療連携実態調査及び管理
- ・開業医、医師会との連携、調整
- ・地域支援病院諮問委員会  
広島総合病院運営協議会の開催
- ・地域医療連携クリニカルパスの推進
- ・廿日市市町内会連合会、JA 女性部会の病院視察

### ■患者・家族相談

#### ○相談件数

2010年	4,836件 (内、がん相談 1,556件)
2011年	5,823件 (内、がん相談 1,144件)
2012年	5,313件 (内、がん相談 753件)

#### ○2009年7月21日 がんサロンの開設

- ・月2回 第2月曜日 交流会

第4月曜日 交流会&ミニレクチャー

	がんサロン参加 延人数
2012年	94名

### ■ボランティア受入 (総合受付にて受診案内)

#### ○登録者 14名

	活動人数
2010年	84名
2011年	87名
2012年	74名

### ■その他活動内容

- ・市民公開講座の開催 (年2回開催)
- ・地域医療従事者研修会の開催 (年4回開催)
- ・佐伯区医師会との懇親会
- ・地域住民に向けての講演会  
(かかりつけ医をもちましよう)

### ■紹介患者専用窓口常設

	紹介予約件数
2010年	15,775件
2011年	16,122件
2012年	16,244件



## 医事課

### ■ スタッフ

課長 松村 英 昭  
 課長補佐 金 本 英 己  
 係長 岩 石 絵 里  
 他 82 名（うち外来担当者 52 名、入院担当者 21 名）

### ■ 業務概要

- \* 診療費の計算・請求
- \* 診療報酬の請求
- \* 総合受付業務
- \* 窓口会計業務
- \* 未収金の管理・督促
- \* 施設基準の届出
- \* 月報・日報・診療行為別実績の集計・報告
- \* 医事業務に係る契約関係業務
- \* 電算システムの保守・開発

### ■ 活動内容

医事課は事務職の中では最も患者様と接する機会が多い部署であるため、患者様に御不快な思いをさせることがない様に、丁寧な対応を心掛けています。大勢のスタッフが様々な場所で受付業務を行っていますが、個々が患者様から頂いたご意見を各科のみで留める事無く、全体に事例をフィードバックすることで、接遇の強化に努めています。



また、診療報酬の計算・請求、施設基準の届出など専門知識を要する業務も多くあります。診療報酬請求業務の大まかな流れとしては、日々患者様に対

して行われた診療行為を診療点数に基づいて計算し、医療費の自己負担部分を患者様に請求します。そして、翌月 1 日～ 10 日までのあいだに前月分の診療報酬明細書を作成し、国保連合会・支払基金に医療費の保険者負担部分を請求しています。

診療報酬の請求は 2 年毎に改訂があるため、正しい算定を行うためには幅広い知識が必要となるので、請求漏れをふせぐために外来・入院のそれぞれの担当者が集まり、算定や査定についての勉強会を定期的に行っています。

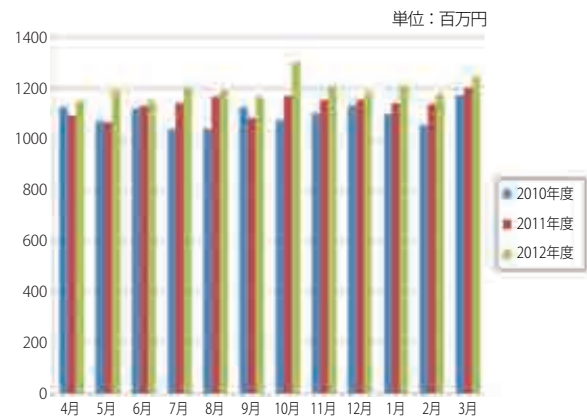


図1 入外収益の月別推移

# 総務課

## ■ スタッフ

課長	山根 保博
係長	森藤 望
他総務担当	5名
病院安全管理室担当	1名
業務委託	
電話交換	7名
警備	9名
清掃	31名
駐車場管理	8名
院内保育園	12名

## ■ 業務概要

総務課は、院外からの来客の接待や院内の調整等の庶務全般から、事業計画の取りまとめ等の経営に関することや支払等の会計経理に関することを主な業務としています。

職員への窓口としては、厚生連職員預金の預入や払出、研修等へ参加する際の旅費支給を行っています。また福利厚生として購入している広島東洋カーブ年間指定席の利用申込受付等も行っています。

経営に関しては、厚生連の基本目標に基づき、病院内で事業計画の取りまとめを行います。また、事業計画に沿って病院運営に必要な費用を月別、項目別にムリ・ムダ・ムラを無くし適正支出となるように管理しています。

会計経理に関しては、各勘定科目別に収支計画に沿い、病院運営に必要な物品等の支払を行っています。

業務委託をしている、電話交換窓口に関すること、院内警備や外来患者用駐車場に関すること、院内保育園に関することなども総務課の業務です。

その他、患者サービス一環として、地域の方の協力のもと院内コンサートを企画運営し、癒しの場を提供するなどしています。

病院の円滑な運営のため、潤滑油としての役割を果たせるよう頑張っています。

## ■ トピックス

恒常的に続いている看護師不足への対応として、院内保育所の拡充を行っています。現在、元職員住宅の2室を利用し、40名定員で保育を行っています。1室増室し、60名までのお子さんを預かることができるようになりました。



写真「廿日市混声合唱団のみなさんによるひな祭りコンサート」



写真「さくら保育園 砂あそび」

## 緩和ケアチーム

### ■ 緩和ケアチーム

緩和ケアチームは院内入院患者へ対応しています。

緩和ケアチームは、患者・家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族へのケアや、病院内外の医療従事者への教育・支援を行います。

### ■ メンバー紹介

小松 弘尚 チームリーダー（消化器内科医師）

松本千香子（麻酔科医師）

香山 茂平（外科医師）

桐生 浩司（放射線治療科医師）

近藤 文博～7/26・河野 秀和 8/2～（呼吸器内科医師）

高石 美樹～2/28・撰 香織 3/7～（精神科・心療内科医師）

鶴谷 理恵（病棟看護科長）

高原さおり・岡田恵美子・古本 直子

（緩和ケア認定看護師）

野村 昌代（がん化学療法看護認定看護師）

吉川麻里子 磯貝明彦（薬剤師）

小林 恭子（理学療法士）

南 圭織 3/5～（臨床心理士）

石井 真弓～3/21（歯科衛生士）

長曾我部弘子（管理栄養士）

益村 勇子（看護師・がん相談員）

正島 忠貴～9/20 林 理恵 10/4～

（社会福祉士・がん相談員）

以上の職種で構成しています。

### ■ 活動内容

毎日～隔日で緩和ケア認定看護師と臨床心理士が入院患者の元に訪れ困っておられることに対応します。

週一回緩和担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、社会福祉士とで依頼されている患



者さんの元に回診に伺います。毎週木曜日カンファレンス（参加はオープン）を行い、その結果を主治医、病棟、患者・家族へ返していきます。

### ■ 各部門の主な活動紹介（2012年度）

#### 【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

#### 【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者に対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

#### 【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を行います。

#### 【がんサロン】

がんサロンを隔週月曜日に開催します。

#### 【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

### ■ 院内実績（2012年度）

・ 総依頼件数：195件

依頼内容：疼痛・疼痛以外身体症状

精神症状・家族ケア・倫理的問題

・ 2012年 院内緩和ケアマニュアル家族ケア整備

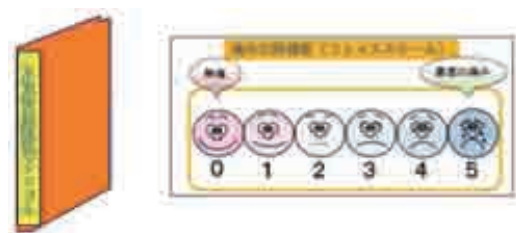
院内外対象緩和ケア研修会開催

地域がんを診療する医師に対する研修会開催

### ■ 院外活動

日本緩和医療学会 発表：高原さおり

「A病院におけるエンゼルケア見直しについて」



# PEG チーム

## ■ チーム設立主旨

2007年、当院の胃瘻造設患者の増加により、院内でのPEGケアや知識の統一を目的として設立されました。PEG患者は長期にわたるケアが必要であり、周辺施設や在宅でのケアが必要不可欠です。そのため、院内だけでなく院外での研修会へと活動の輪を拡大しています。

## ■ メンバー紹介

医師 徳毛 宏則  
 (消化器内科医師、専門胃瘻造設者、  
 専門胃瘻管理者)

看護師 石崎 淳子  
 (専門胃瘻管理者、内視鏡技師)

松下 理恵 (内視鏡技師)

藤本七津美 (摂食・嚥下障害認定看護師)

田地由紀乃・植田美奈・宮本みい子

管理栄養士 八幡 謙吾 (NST専従)

## ■ 活動内容

### ① PEG 回診

- ・毎月第一水曜日に各病棟のPEG患者をラウンドしています。
- ・毎週水曜日のNSTラウンド時にもメンバーが連携してラウンドしています。

### ② 研修

#### 《院内》

- ・NST研修会  
 PEGの知識とケア  
 摂食・嚥下について

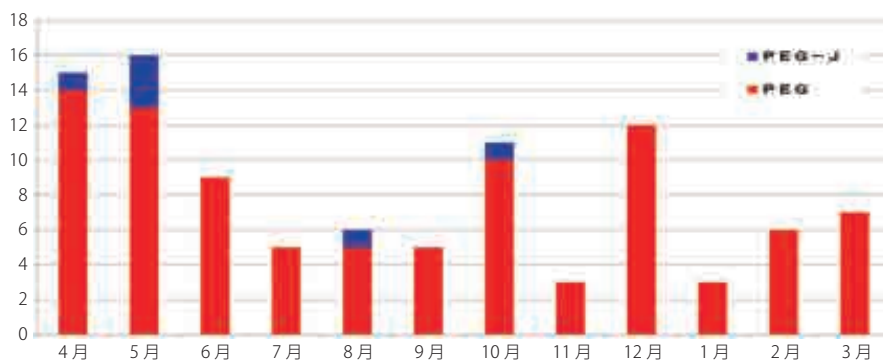
#### 《院外》

- ・PEGについて  
 介護支援専門員情報交換会
- ・摂食、嚥下の話  
 介護支援専門員情報交換会

### ③ 広島ページェントとの連携

広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）とは胃瘻と経腸栄養療法を考えていこうとする広島県を中心とした医療介護関係者の集まりです。PEG患者に対して標準化された質の高い医療を提供することで患者のQOLの向上を目指しています。さらに一般市民の方々にPEGや経腸栄養療法に関する正しい情報提供を行うことで社会貢献することを目的に毎年開催されています。

当チームは研究会で、“胃瘻なんでも相談室”のコーナーで患者家族や一般市民の疑問に対応しています。



2012年 PEG 造設件数の推移



# 栄養サポートチーム (NST)

## ■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、患者さんの治療が円滑に進むよう、栄養面からサポートを行うチームです。

様々な職種 of メディカルスタッフが、専門的な立場から最善の栄養管理を検討しています。

## ■ 専従・専任メンバー



- ・ 医師：香山 茂平、櫻谷 正明 (ICU)
- ・ 管理栄養士：八幡 謙吾 (専従)
- ・ 看護師：藤田 寿賀、石崎 淳子、藤本七津美、山口 瑞穂
- ・ 薬剤師：中島 恵子
- ・ 臨床検査技師：横山 富子、山下 美香
- ・ 言語聴覚士：上田 雅美

## ■ 活動内容

- ・ NST カンファレンス：毎週水曜日 16:00 ～
- ・ NST ラウンド：毎週水曜日 17:00 ～
- ・ 院内 NST 研修会：6 回 / 年
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月第 2 月曜日  
※看護科委員会ではミニレクチャーを開催

## ■ 2012 年の Topics

・ 日本静脈経腸栄養学会「NST稼働施設」に認定

2012 年 4 月に認定。

日本病態栄養学会、日本栄養療法推進協議会に続き 3 つ目の認定を取得しました。



・ 「経管栄養に関する下痢対応マニュアル Ver.1」作成

2012 年 10 月より全病棟で運用開始。経管栄養による合併症で一番多い下痢の対策に使用しています。



## ■ NST 回診件数・加算算定件数

・ 回診件数：延べ 999 件 / 年 (前年 802 件 / 年)



・ 栄養サポートチーム加算 診療科別算定件数 (患者数)

診療科	2011 年度		2012 年度	
呼吸器内科	106	(29)	76	(23)
腎臓内科	20	(2)	19	(5)
糖尿病代謝内科	52	(7)	7	(2)
消化器内科	153	(63)	150	(70)
循環器科	55	(8)	77	(9)
心臓血管外科	47	(4)	12	(4)
呼吸器外科	19	(11)	41	(11)
外科・乳腺外科	99	(18)	190	(23)
脳神経外科	15	(5)	75	(15)
整形・形成外科	13	(9)	140	(66)
皮膚科	13	(4)	46	(7)
泌尿器科	58	(12)	41	(11)
放射線治療科	9	(1)	6	(1)
耳鼻咽喉科	27	(2)	5	(3)
小児科	0	-	8	(1)
歯科口腔外科	0	-	8	(1)
救急麻酔科	84	(16)	45	(10)
産婦人科	0	-	1	(1)
計	770	(191)	948	(264)

## ■ 学会・研究会発表など

・ アマノリハビリテーション病院 院内 NST 研修会  
「当院の NST 活動とアマノリハビリテーション病院へ転院となった 2 症例」

演者：八幡 謙吾

## DMAT チーム

### ■ DMAT 活動報告

1995年の阪神・淡路大震災以来、集団・災害医療への関心が年々高まっています。医療体制が確保されていれば、防ぎ得た死が相当数あったとの教訓から平成8年厚生労働省は「災害時に初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」である災害拠点病院を構想し、当院も1997年に認定をうけています。災害拠点病院は24時間災害に対応でき、被災地内の傷病者の受け入れ・搬出が可能である、十分な資機材を備えた医療救護班(DMAT: disaster medical assistance team)を派遣できる、などの要件を満たさなければなりません。DMATの活動の目的は災害や大事故の際に多数の患者を限りある医療資源で診療し、防ぎ得た死をなくすよう活動することです。その任務は災害現場のトリアージや災害拠点病院での治療、患者の広域搬送を主な業務とします。チーム活動の際食料、水、寝床などは自給することが求められるため、2泊3日が活動の限度といわれています。DMATの出動要請や出動待機となる状況は次のとおりです。自然・人的災害における被災地の都道府県や厚労省、文部科学省からの要請があった場合。また東京23区で震度5強以上、その他地域で震度6弱以上の地震発生時、津波警報発令、東海地震注意情報発令、大規模航空機墜落事故発生時は要請がなくとも待機状態であることを期待されています。

2006年9月に2泊3日の集中的な缶詰研修にて資格を得ました。下記のメンバーが活動しています。

黒木 一彦；脳神経外科医師  
 杉山 陽一；外科医師  
 青木 晴美；事務長  
 寺田 英子；看護部副部長  
 太田 博子；薬剤部長  
 阿部 伸也；看護師  
 生田 佑子；看護師  
 後藤 友美；看護師  
 三舛 正志；臨床検査技師  
 高畑 明；診療放射線技師

### ■ 活動内容

2011年3月11日 14:46 東日本大震災 発生

2011年3月11日 22:00 呉より自衛隊輸送艦にて被災地に向かい、災害拠点病院で救助活動を行いました。

その後DMATが実際の災害など出動する機会はありませんが、いつでも出動できるようにチーム、個人で研修会や技能維持訓練に参加しています。

2012.10.28 平成24年度広島県集団災害医療救護訓練

2013. 3. 3 四季が丘総合防災訓練

2013. 3.16、17 DMAT 技能維持訓練(徳山中央病院)



四季が丘での防災訓練



DMAT 技能維持訓練

# ICT

## ■ ICT とは

ICTとは Infection control team（インフェクションコントロール チーム）の略称です。院内の感染症発生動向の監視や各種検査によるアウトブレイクの早期発見、抗菌薬の適正使用、職員教育などを通じて院内感染対策の質向上を目指し横断的に活動しています。

医師を中心とした多職種スタッフが、専門的知識・技術・経験を活かして活動しています。

## ■ メンバー紹介

今村 祐司（消化器外科医師、感染制御医）  
 香山 茂平（消化器外科医師、感染制御医）  
 櫻井 穰司（呼吸器内科医師、感染制御医）  
 近藤 丈博（呼吸器内科医師）  
 丸山 聡（泌尿器科医師）  
 櫻谷 正明（救急・集中治療科医師）  
 大田 博子・吉廣 尚大（薬剤師）  
 正畠 和美・角井 碧（薬剤師、感染制御認定薬剤師）  
 池部 晃司・山川 理奈（臨床検査技師）  
 今本 紀生（感染管理認定看護師）  
 村田美智子（手術室看護科長）  
 田尾由美子（病棟看護科長）  
 尾崎 直美・坂本真由美・水村めぐみ（病棟看護主任）  
 平舛 仁美（内視鏡室看護主任）  
 行廣 優（事務職員）

## ■ 活動内容

### < ICT ミーティング・ラウンド >

ICT コアメンバー（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員 各1名）を中心に、週1回程度の頻度で症例および環境チェックのラウンドやミーティング（毎週火曜日 16:00～17:00）を行います。

- ・症例ラウンド（計 28 回）
- ・環境、その他ラウンド（計 26 回）

### < 院内研修支援 >

2012.4.4	新採用職員研修「手洗い演習」
2012.10.3	看護科ラダーⅡ 感染管理シリーズ研修
2013.1.18	看護科ラダーⅡ 感染管理シリーズ研修

### < 院内研修会実績 >（研修会 4 回）

開催日	内 容
2012.6.15	MRSA 感染対策を知ろう、学ぼう、役立てよう
2012.7.9	栄養科職員 手洗い演習
2012.7.26	櫻井先生の結核教室
2012.10.11	ノロウイルス感染対策
2012.12.21	緑膿菌感染対策



## ■ 2012 年度の Topics

- ・近隣施設との連携

診療報酬の改訂に伴い、2012 年度から当院と連携する近隣医療施設（7 施設）と「広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携共同カンファレンス」を始めました。また、もう一つの地域連携として、広島西医療センター ICT と年 1 回、お互いの施設を訪問・評価する相互ラウンドも始めました。院内だけでなく地域における感染対策の質向上を目指した活動支援にも積極的に取り組んでいます。

### < 合同カンファレンス >

開催日	主な内容	参加数
2012.5.30	感染防止対策加算算定について	37 名
2012.7.25	ICT 活動報告、ネプライザーの管理	39 名
2012.9.12	ノロウイルス感染対策	28 名
2012.11.29	MRSA 感染管理	31 名



# R S T

## ■ RST とは？

RSTとは呼吸療法サポートチーム（Respiratory Support Team）の略称です。院内で行われている呼吸療法を多職種が集まり専門知識を持ち寄り、呼吸療法が安全で効果的に行われる様にサポートするチームのことで



RST マーク

## ■ 役割

当院では集中治療室、救命救急センターに入院している患者さんのほとんどが人工呼吸器やNPPV（非侵襲的陽圧換気）を装着していることはもちろんですが、集中治療室から一般病棟へ人工呼吸器やNPPVなどの呼吸療法を継続したまま転床する場合があります。

このように人工呼吸器やNPPVを装着している患者さんを抱えている当院の中で、私たちRSTは人工呼吸器からの離脱管理やNPPVの適正使用に向け、多職種からなるチームで合併症予防や安全管理を総合的に行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。

## ■ 構成メンバー

医師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、薬剤師、医療事務となります。

## ■ 活動内容

### (1) 病棟ラウンド

週に1回、人工呼吸器やNPPVが装着されている患者さんのベッドサイドへ赴き、ラウンドシートをもとにチェック項目や周辺環境、また各専門職種それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価させていただきます。その結果を踏まえ適時主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。

また、人工呼吸器からの離脱の支援やNPPVマスクフィッティングの評価を行っております。



ラウンドの風景

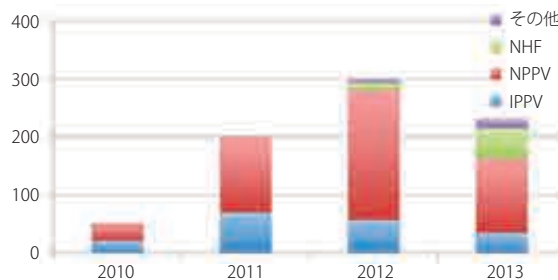
### (2) 院内RSTセミナー

月に1回程度、定期的にRSTリンクナース（看護科RST委員）や病棟看護師に向けてセミナーを開催しています。病棟看護師に対しては人工呼吸器の基礎的な内容のセミナーを開催していますが、RSTリンクナースに対しては一歩踏み込んだ深い内容にし、人工呼吸療法に関するスキルの向上に取り組んでいます。

### (3) 院内統一マニュアルの作成

人工呼吸器の管理方法が病棟ごと、あるいは看護師ごとに違っていても院内ルールがないと徹底できません。RSTで院内統一の人工呼吸器管理マニュアルを作成し、人工呼吸器やNPPVに関する知識やスキルの標準化を図っています。

一般病棟における呼吸療法の件数



## ■ 今後の課題

毎年RST活動に関するアンケートを看護師対象に行っています。その結果からRST活動の認知度は高まっていますが、看護の役に立っているという実感はまだ少ないようです。今後はセミナー内容の充実を図るためシュミレーションを多く取り入れた内容に変更し、基礎から応用まで広めていくことを考えています。

# 心臓リハビリテーションチーム

## ■設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に設立しました。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

## ■メンバー紹介

医師：小林 平・久留島 秀治  
理学療法士：本間 智明・西谷 喜子  
看護師：丸澤葉志子・益田 尚恵・石川 恵子  
伊藤 昭範・松田 沙織・向井 智里  
薬剤師：角井 碧・大原由希子・向井 一樹  
栄養士：長曾我部 弘子・渡壁 史那  
その他：形成外科、臨床検査科、義肢装具士

## ■活動内容

- 開心術後心リハ 94件(2011年度66件)
- 急性心筋梗塞後心リハ 48件(2011年度22件)
- 腹部大血管手術後心リハ 23件(2011年度11件)
- 心肺運動負荷試験 19件(2011年度0件)
- 2012年度日本心臓リハビリテーション学会発表  
7演題(2011年度4演題)

—末梢動脈疾患への心血管リハビリテーションを開始—  
新たな試みとして、2012年11月より末梢動脈疾患に対する血行再建術を施行した患者さまに心リハを行っています。術後は早期退院を目標に術翌日から離床を開始し、日常生活動作の獲得に合わせて、パンフレットを用いた各種指導を行います。末梢動脈疾患を有する患者さまには、足趾潰瘍や胼胝など足部の保護が必要な患者さまが多いため、フットケア指導はとくに強化して行っています。入院中は、栄養指導、服薬指導の時期に合わせて、保清や保湿など日々の足の手入れについて病棟看護師が指導をします。また、足部の除圧が必要な患者さまや小趾切断を施行した患者さまには義肢装具士が介入し、足の状態に合わせた靴型装具の採型をします。創部

処置や断端管理の必要な患者さまは形成外科での治療を施行します。



靴型装具の採型



歩行訓練（装具使用）

さらに、心リハは維持期の継続が重要であるという観点から、手術後3ヶ月経過した患者さまに対して再指導を行っています。“下肢外来”は2012年2月より運営を開始しています。心血管外科の診察日に合わせて各職種が再介入し、退院後の生活についての聞き取りなどを通して、心リハのコンプライアンスを評価しています。患者さまには各職種15-20分ずつ介入しています。フットケアを担う看護師は、足や動脈の観察や自宅でのセルフケアの確認をしています。終了後は、各職種からのコメントを1枚の紙に集約し、一目で改善点が見えるように工夫しています。



“下肢外来”用パンフレット

# 「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

## ■ 設立趣旨

膵・胆道癌は、最も予後が短い疾患の1つであります。身体的にも精神的にも苦痛を伴い易く、治療に難渋することがしばしば認められます。予後の短いこれらの癌に対して、私たち医療者が少しでも患者様やご家族の支えになれることはないかと考えた結果、「教室」を立ち上げて、チームとして検討していくことにいたしました。

## ■ メンバー紹介

医師（膵・胆道内科）：藤本 佳史

看護師：坂尻 明美・野村 昌代・古本 直子  
高原さおり

薬剤師：大田 博子・藪田 ゆみ・埋橋 賢吾  
白井 敦史

管理栄養士：河本 良美・松下 有紀

MSW（地域連携室）：正嶋 忠貴・林 理恵

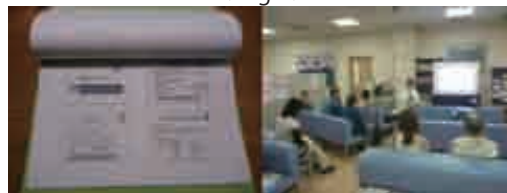
## ■ 活動内容

2012年11月～12月には、当院のがんサロンの場をお借りして、「膵臓癌教室」を開催させていただきましたが、さらに充実した教室運営を行う必要性を強く感じたため、先行して「膵・胆道癌教室」を定期的で開催されている国立がんセンター中央病院に見学をさせていただきました。2013年2月、各部署にご協力いただき、代表者で研修に行かせていただきました< Fig1 >。その後、研修を終了したメンバーでミーティングを重ね、当院での教室内容をファイルにして患者様とご家族にお渡しできるように準備しました< Fig2 >。第1回の教室は2月20日に開催し、現在では隔週で4回を1セットとして継続しています。各回に患者様とご家族が10-20人程度参加されておられます。教室の内容は、パンフレット< Fig3 >のとおりで、1. 病気と治療、2. 薬と副作用、3. がんと栄養、4. がんと暮らしです。医師、薬剤師、栄養士、看護師がそれぞれの担当分野をスライドで説明しています。今後は、地域と連

携した教室運営を目指しており、患者様やご家族の支えになれる様に、さらなる発展をさせていきたいと思っております< Fig4 >。興味のある方は、ぜひご参加をお願いいたします。



< Fig1 >



< Fig2 > < Fig4 >



< Fig3 >

# 災害対策ワーキングチーム

## ■災害対策 Working Team 設立の理由

阪神・淡路大震災や東日本大震災などの過去の大災害の教訓をふまえ、全国的に防災・減災活動が盛んに行われています。特に、今世紀前半の発生が予想されている南海トラフ大地震は、その被害予測の大きさから、広島県でもその対応が急がれています。当院においては、建物の老朽化、沿岸部に立地していること、ライフラインコントロール設備が地下にあることなどから、地震や津波による倒壊、浸水の被害を受けるリスクが極めて高いといえます。災害拠点病院として災害時の医療を提供することや、患者や職員のための食料や水、ライフラインの確保はどうか、医療材料の調達はどうするのか、備えなければならない課題は非常に多いと考えます。

このような問題に気づき関心をもった職員が集まり、始めた活動が「災害対策 Working Team」の活動です。

## ■構成メンバー

DMAT メンバーや看護協会登録災害支援ナースを中心として、職種、部門を問わず、防災・減災活動に参加したいという意思がある職員で構成されています。



## ■活動の概要

2012年度5月より活動を開始しました。2013年4月に、集団災害医療救護体制委員会の下部組織に位置付けられました。これまでの活動内容は以下のとおりです。

- 1) 既存の災害対策マニュアルの内容の見直しとアクションカードの作成
- 2) 院内の備蓄調査、ライフラインの調査等ハードの現状把握 (写真1)
- 3) 災害発生時についての職員の認識調査
- 4) オープンホスピタルへの参加
  - ・ポスター展示 (優秀賞受賞)

- ・防災グッズ、DMAT 医療資機材の展示
  - ・住民に対する防災意識調査
- 5) 地域住民に対する啓発活動
    - ・廿日市市町内会連合会での講演「JA 広島総合病院での大規模災害時の取り組み」(11/30)
    - ・廿日市市佐方地区防災訓練での講演「クラッシュ症候群とは」、救護法、住民に対する防災意識調査 (2/24)
    - ・廿日市市四季が丘総合防災訓練への参加、DMAT によるトリアージ展示 (写真2)、ポスター展示、市民へのトリアージ訓練、一次救命講習、FM 廿日市生放送出演、住民に対する防災意識調査 (3/3)
  - 6) 広報紙の作成



(写真1)



(写真2)

## ■今後の活動の展望

災害拠点病院としての当院の役割は、自施設とこの医療圏を守ることと、他の医療圏が被災した時はそちらを支援することです。大災害時はふだんやってないことは絶対にできません。平時から、医療の実践力を高めるとともに、災害に強い病院づくりをしておくこと、地域の自助力、共助力を強くしておくことがとても大切です。災害対策 Working Team は、今後も院内での具体的な災害対策に参画していきます。また、院外では地域住民の方々と顔と顔の見える距離で直接的に、自助力、共助力を強くする支援をしていきます。

# 各種委員会

## 医療事故防止対策委員会

委員長 高田 治彦

医療事故防止対策委員会は、病院内で発生する様々なインシデント・アクシデントを収集し、その発生要因・背景を考察し、対策を立案し、同様なインシデントを未然に防ぐことを目的に活動している委員会です。定例委員会は毎月第3木曜日に開催しました。委員会では、主に『ヒヤリ・ハット報告書の集計結果』(図1)『担当ラウンドグループの活動』『医療安全研修会の企画・実施』『最近の医療安全管理室の状況』の報告・事案の検討などを行いました。



【報告内容項目別比】



【部署別比】

図1

ヒヤリ・ハット報告書の報告件数は、2011年度2785件、2012年度3173件と年388件増加しています。しかし、報告件数のうち「エラーが発生したが患者への影響はなかった」患者影響レベル0の割合も、2011年度12%、2012年度16%と増加していることを照らし合わせ考えてみますと、職員一人ひとりのリスク感性がより高まり、「これは危ない!!」と感じた時、すすんで報告する人が増えたからだと評価しています。

本委員会は、医療安全への意識の啓発をさらに推

し進め、患者・医療従事者の『安心・安全』のために活動を充実させてまいります。

## 治験審査委員会

委員長 徳毛 宏則

### A、設立主旨

#### 1) 治験審査委員会の責務

- (1) 治験審査委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。
- (2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

#### 2) 治験審査委員会名簿(2012年度)

委員長：徳毛宏則、副委員長：小深田義勝  
委員：碓井裕史、黒木一彦、大田博子、横山富子、藤田寿賀、友田裕康、山根保博、松村英昭、角野正雄(外部委員)、松本明子(外部委員)  
書記：中村浩之

オブザーバー：藤本吉範、青木晴美

### B、活動内容

#### 1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

#### 2) 2012年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回(2012/4/20)：
  - 審議事項9件(新規案件2件、継続審査7件)
- ・第2回(2012/5/25)：審議事項10件(継続審査9件、セントラルIRBに対する外部委託について)
- ・第3回(2012/6/22)：審議事項9件(継続審査8件、セントラルIRBに対する外部委託について)
- ・第4回(2012/7/27)：
  - 審議事項9件(新規案件1件、継続審査8件)、



- 報告事項 2 件（終了報告 1 件含む）
  - ・ 第 5 回（2012/ 8/24）：
    - 審議事項 10 件（新規案件 1 件、継続審査 9 件）
  - ・ 第 6 回（2012/ 9/28）：
    - 審議事項 10 件（新規案件 1 件、継続審査 9 件）
  - ・ 第 7 回（2012/10/19）：
    - 審議事項 7 件（継続審査 7 件）
    - 報告事項 1 件（治験ゲノム薬理学研究の審査）
  - ・ 第 8 回（2012/11/16）：
    - 審議事項 8 件（新規案件 1 件、継続審査 7 件）
  - ・ 第 9 回（2012/12/21）：
    - 審議事項 8 件（新規案件 1 件、継続審査 7 件）
    - 報告事項 3 件（終了報告 1 件含む）
  - ・ 第 10 回（2013/ 1/25）：審議事項 6 件（継続審査 6 件）
    - 報告事項 1 件（終了報告 1 件）
  - ・ 第 11 回（2013/ 2/15）：審議事項 6 件（継続審査 6 件）
  - ・ 第 12 回（2013/ 3/22）：
    - 審議事項 9 件（新規案件 1 件、継続審査 8 件）
- 3) 2012 年度の実施治験総件数：16 件
- (1) 前年度からの継続治験（8 件）
- ①急性冠症候群患者を対象とした CS-747S 第Ⅲ相試験（第一三共）
  - ② DU-176b 第Ⅲ相試験（第一三共）
  - ③ HFT-290 長期投与試験（久光製薬）
  - ④ TS-071 第Ⅲ相試験（大正製薬）
  - ⑤虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S 第Ⅲ相試験（第一三共）
  - ⑥待機的冠動脈内ステント治療を要する冠動脈疾患患者を対象とした CS-747S 第Ⅲ相試験（第一三共）
  - ⑦ SI-6603 第Ⅲ相試験（生化学工業）
  - ⑧ TAK-438 第Ⅲ相二重盲検比較試験・長期継続投与試験（武田薬品）
- (2) 2012 年度の新規治験（8 件）
- ① AS-3201 第Ⅲ相試験（大日本住友）

- ② MK-6072 及び MK-3415A 第Ⅲ相試験（MSD）
  - ③ CS-747S 第Ⅲ相試験～J304～（第一三共）
  - ④ NS-24 第Ⅲ相試験（日本新薬）
  - ⑤ Z-103 第Ⅲ相試験（ゼリア新薬）
  - ⑥ TAK-700 第Ⅱ相試験（武田バイオセンター）
  - ⑦ BMS-562247 第Ⅲ相試験（ファイザー）
  - ⑧ ACZ-885 第Ⅲ相試験（ノバルティス）
- (3) 2012 年度の終了治験（3 件）
- ①急性冠症候群患者を対象とした CS-747S 第Ⅲ相試験（第一三共）
  - ② HFT-290 第Ⅲ相試験（久光製薬）
  - ③待機的冠動脈内ステント治療を要する冠動脈疾患患者を対象とした CS-747S 第Ⅲ相試験（第一三共）

## 薬事委員会

委員長 徳毛宏則

### 1. 目的

当委員会は、院内で使用する医薬品に関わる諸問題の検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議し、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

### 2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

### 3. 委員

委員長および委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長補佐、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長および薬剤部長等で構成されます。

### 4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月 1 回となっています。

す。

(但し、8月と12月は委員会を休会しています。)

#### 5. 新規医薬品

1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a)b) は委員会の審議が必要となります。

2) a)b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元「新規医薬品購入申請書」に必要な事項を記入し、事務局(薬剤部)に提出していただき当委員会で審議することとなります。

3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。

4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全性情報が新規に発布された場合は、全医師に連絡し注意喚起し必要な対策を講じています。

#### 7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮したうえでジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2012年度は 14 件を採用し約 2100 万円の収益効果をあげています。

#### 8. 2012 年度実績

##### ・ 2013 年 3 月 31 日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	44
内服薬	743		
注射薬	507		
外用薬	307		
一般採用 計	1557		
用時購入	80	採用品数合計	1637
ジェネリック医薬品			125

##### ・ 2012 年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品総新規採用件数	52
医薬品総削除件数	85

## 倫理委員会

委員長 碓井裕史

### A 設立主旨

#### 1) 倫理委員会の責務

当院の職員がおこなう人間を対象とした医学研究および医療行為について、職員からの申請に基づき、研究や実施計画について審査をおこないます。

#### 2) 倫理委員会構成メンバー (2012 年度)

委員長：碓井裕史、副委員長：徳毛宏則

委員：病院長補佐、副院長、診療部長、事務長、看護部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部副部長、地域医療連携室長、事務次長(書記兼務)

外部委員(有識者) 2名

オブザーバー：病院長

### B 活動内容

#### 1) 倫理委員会の開催

研究申請書が提出された場合、委員会を招集して開催します。2012年度は12回開催しました。

#### 2) 2012 年度委員会開催概要

- ・ 第1回 (2012/ 4/20)  
  審査件数 4 件 (承認 3 件、保留 1 件)
- ・ 第2回 (2012/ 5/25)  
  審査件数 5 件 (承認 5 件)
- ・ 第3回 (2012/ 6/22)  
  審査件数 3 件 (承認 3 件)
- ・ 第4回 (2012/ 7/27)  
  審査件数 6 件 (承認 5 件、保留 1 件)
- ・ 第5回 (2012/ 8/24)  
  審査件数 6 件 (承認 6 件)
- ・ 第6回 (2012/ 9/28)  
  審査件数 9 件 (承認 9 件)
- ・ 第7回 (2012/10/19)  
  審査件数 1 件 (承認 1 件)
- ・ 第8回 (2012/11/16)  
  審査件数 1 件 (承認 1 件)

- ・第9回（2012/12/21）  
審査件数2件（承認1件、保留1件）

- ・第10回（2013/ 1/25）  
審査件数5件（承認5件）

- ・第11回（2013/ 2/15）  
審査件数2件（承認2件）

- ・第12回（2013/ 3/22）  
審査件数5件（承認5件）

### 3) 2012年度承認された研究の申請部署別内訳

- ・医 局 31件
- ・看護科 15件
- 合 計 46件

## 臨床検査適正化委員会

委員長 石 田 和 史

本年度も、臨床検査に関する問題、ならびに適正な運用に関する議案を審議し、より一層診療支援となるよう活動を行った。

### ◆構成メンバー

医師	7名
看護師	3名
臨床検査技師	6名
事務部門	2名

### ◆活動報告

#### 【第1回】

- ・CPX（心肺負荷検査）の開始について
- ・核酸増幅検査法による結核菌群検出の院内実施

#### 【第2回】

- ・術前肺機能外来に関する検査科運用変更
- ・抗TG抗体、抗TPO抗体測定試薬の変更
- ・HBs抗原測定試薬の感度変更

#### 【第3回】

- ・検査結果のパニック値の運用について
- ・HIV検査法の変更（定性から定量へ）

#### 【第4回】

- ・尿中、髄液中蛋白定量検査試薬の変更
- ・HBs抗体検査試薬の変更

#### 【第5回】

- ・チェックメイト ヘルペスアイの導入
- ・MMP-3検査（院内測定から外注へ）

#### 【第6回】

- ・日臨技精度管理報告  
評価件数201件中、200件がA評価
- ・マイコプラズマニューモニエLAMP法の導入
- ・血清Mg検査を24時間対応とする
- ・シスタチンCスタンダード変更に伴う基準値の変更
- ・百日咳抗体測定法の変更（細菌凝集反応からEIA）
- ・血清蛋白分画検査、採血時の注意点

#### 【第7回】

- ・腎機能検査マニュアルの改善

#### 【第8回】

- ・年末年始の業務、ならびに血液製剤の供給体制
- ・脂質検査項目名称の変更  
動脈硬化性疾患予防ガイドラインにそった表記に変更する
- ・ノロ検出キットの選択
- ・ペプシノーゲンⅠ・Ⅱ測定について提案

#### 【第9回】

- ・テイコプラニン測定試薬の変更
- ・ABC検診についての提案

#### 【第10回】

- ・日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告  
評価 636 / 640 で 99.4 点を獲得
- ・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告  
評価 555 / 560 で 99.1 点を獲得  
優秀賞を受賞しました。

## 衛生管理委員会

委員長 藤 本 吉 範

労働安全衛生法第17条及び第18条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月1回の衛生管理委員会を開催しています。

<衛生管理委員会構成メンバー>

委員長：病院長

副委員長：健康管理センター長・産業医

委員：感染防止対策室長、診療部長、薬剤部長、放射線科長、臨床・病理研究検査科長、臨床研究検査科長補佐、栄養科長、看護部副部長、看護科長、医療安全管理室科長、感染防止対策室科長、健康管理課科長、事務次長、施設資材課長、放射線科主任、健康管理課主任、看護科主任、栄養科主任、総務課長、人事課係長（書記）

オブザーバー：事務長

平成 24 年度の衛生管理委員会の主な取り組み事項は以下のとおりです。

#### 1. 過重労働対策について

平成 18 年度から職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。また、平成 20 年度からは、月に 80 時間以上の超過勤務が 2 ヶ月連続した職員に対し、医師による面接指導の案内を文書で行っています。平成 24 年度は、医師 3 名に対し文書を発布し、その内 1 名に対し面接指導を行いました。

#### 2. 職員のメンタルヘルス対策について

心の健康づくり推進の一つとして、平成 18 年度から毎年、夏季従業員健康診断時期にメンタルヘルス調査を行っています。平成 24 年度も日本版 SDS (Zung's Self-rating Depression Scale) を全職員対象に実施しました。また、判定結果が“精神的に不調である可能性あり”となった職員宛てには、JA グループ広島が契約しているカウンセリングルーム等の案内をし、希望があれば心療内科の医師の相談を受けることが出来るようにしています。

#### 3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

平成 21 年度より、職員の入職時検査に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs 抗原・抗体検査を実施しています。また、HBs 抗原・抗体検査に関しては、前年度の冬季従業員健康診断と今年 5 月に実施した HBs 抗原・抗体検査の結果をもとに、希望者にワクチン接種を実施しました。

また例年どおり、インフルエンザの流行に備えて、全職員・職員家族の内、希望者を対象に 10 月から 12 月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は 90.2%となっています。

#### 4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、医療安全管理室・ICT 部会とも合同でミーティングを行い、結核患者接触のハイリスク部署の職員は、年 2 回胸部 X 線検査を受診するよう対応を強化しています。

#### 5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、また各部署の所属長への声かけを積極的に行っており、従業員健康診断の受診率は昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、事務系職員に対し健康診断結果に応じて産業医が個別指導・説明を実施しました。また、パソコンの使用頻度が高い事務職員に対し、VDT (Visual Display Terminals) 健康診断を実施しました。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
夏季健診	90.5%	94.9%	97.9%
冬季健診	93.1%	100.0%	98.2%

#### 6. その他

フィルムバッチ着用者対象の電離放射線健康診断や、病理検査室に在籍する職員対象の有機溶剤等（キシレン）健康診断を実施しました。また職場巡視は、薬剤科、医事課、エネルギーセンター、臨床工学科、地域医療連携室の 5 箇所を行いました。

#### 7. まとめ

平成 24 年度は結核患者接触職員の対応や、健康診断受診率向上についての対策に取り組んできましたが、職員の感染症検査のデータベース作成や、長期休職者に対しての具体的な対応策の作成について、引き続き具体的な検討をしていく必要があると考えています。

## 診療録管理委員会

委員長 石田 和 史

### 1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理上および診療記録に関する事項を検討、討議することも目的として、診療情報管理委員会が設立されました。

診療情報管理委員会の構成

オブザーバー：院長、事務長

委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師6名、事務部門2名、診療情報管理士3名

計 20 名

### 2. 活動内容

【平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月】『医師同士による質的監査』について

医療と診療録記録の質の向上を図る目的で、医師同士による質的監査（オーディット）で、診療録内容のチェックを実施し、その結果・内容は各医師へ報告・還元しています。当委員会は、全医師の診療録の改善に役立ててもらおうよう働きかけています。

平成 24 年度 科別質的監査件数

監査対象科	件数	オーディット担当者	件数
呼吸器内科	5	呼吸器内科	4
循環器科	7	循環器科	7
腎臓内科	4	腎臓内科	2
糖尿病代謝内科	3	糖尿病代謝内科	3
消化器内科	7	消化器内科	2
内視鏡科	2	内視鏡科	2
小児科	5	小児科	5
外科	9	外科	12
乳腺外科	2	乳腺外科	1
整形外科	6	整形外科	7
形成外科	0	形成外科	2
脳神経外科	4	脳神経外科	4
呼吸器外科	2	呼吸器外科	1
心臓血管外科	2	心臓血管外科	2
皮膚科	4	皮膚科	3
泌尿器科	2	泌尿器科	2
産婦人科	6	産婦人科	4
眼科	2	眼科	2
耳鼻咽喉科	4	耳鼻咽喉科	4
放射線治療科	2	放射線治療科	2

監査対象科	件数	オーディット担当者	件数
口腔外科	2	画像診断部	2
救急・集中治療科	2	麻酔科	5
		口腔外科	2
		救急・集中治療科	2
総 計	82	総 計	82

『退院時サマリー 2 週間以内記載率ならびに 1 か月記載率』について

退院時サマリーは退院後の外来診療等を円滑に遂行し、主治医以外の医師が診療情報を共有できるように、記録として残し活用することを目的としています。

そのため、高い記載率を保って頂けるよう働きかけると共に記載率を公表しています。

診療科別退院時サマリー 2 週間以内記載率

平成 25 年 1 月退院分

診療科	2 週間以内記載率	診療科	2 週間以内記載率
呼吸器内科	95.82 %	皮膚科	83.62 %
循環器科	81.52 %	泌尿器科	98.63 %
腎臓内科	90.26 %	産婦人科	92.97 %
糖尿病代謝内科	97.42 %	眼科	78.31 %
消化器内科	85.24 %	耳鼻咽喉科	96.17 %
小児科	80.26 %	放射線治療科	93.89 %
外科	79.16 %	麻酔科	0.00 %
整形外科	96.02 %	画像診断部	100.00 %
形成外科	95.83 %	口腔外科	92.22 %
脳神経外科	87.84 %	緩和ケア科	83.33 %
呼吸器外科	90.41 %	救急麻酔科	99.76 %
心臓血管外科	86.57 %		
平均科別 2 週間以内記載率			86.32 %

診療科別退院時サマリー年間記載率

平成 23 年 1 月～12 月退院分

診療科	登録状況			統計	科別記載率
	2 週間以内	2 週間越え	1 か月越え		
呼吸器内科	562	30	1	593	100.00%
循環器科	513	94	791	1398	100.00%
腎臓内科	241	25	0	266	100.00%
糖尿病代謝内科	133	4	3	140	100.00%
消化器内科	1321	164	211	1696	100.00%
緩和ケア科	4	1	0	5	100.00%
小児科	645	80	184	909	100.00%
外科	948	166	301	1415	100.00%
整形外科	1159	47	23	1229	100.00%
形成外科	19	4	0	23	100.00%
脳神経外科	458	64	28	550	100.00%
呼吸器外科	239	36	20	295	100.00%
心臓血管外科	320	29	42	391	100.00%
皮膚科	154	18	19	191	100.00%
泌尿器科	546	17	1	564	100.00%

診療科	登録状況			統計	科別記載率
	2週間以内	2週間越え	1か月越え		
産婦人科	977	83	6	1066	100.00%
眼科	370	98	2	470	100.00%
耳鼻咽喉科	493	22	0	515	100.00%
麻酔科	0	1	0	1	100.00%
救急・集中治療科	1297	3	0	1300	100.00%
放射線治療科	54	3	0	57	100.00%
画像診断部	1	0	0	1	100.00%
口腔外科	98	5	0	103	100.00%
総計	10552	994	1632	13178	100.00%

## 輸血療法委員会

委員長 松本千香子

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。(6回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・特定生物由来製剤(アルブミン)使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。また血液製剤について不適正な使用が認められた場合には、原因の特定・再発防止への検討と改善についての提案を行いました。輸血療法に伴う事故や副作用および合併症把握ならびに医療安全管理室と連携し、事例の内容・発生要因・改善策について検討を行いました。

さらに、平成25年2月13日 広島県合同輸血療法委員会による「輸血療法の適正化等に関する訪問相談」を受け安全管理上問題となる点について指導を受けました。

こちらから要望していた危機的出血時のシミュレーションのやり方についての指導が無く残念でした。

### 【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血同意書の改訂について
- ・輸血管理料II 6月より算定
- ・特定生物由来製品の運用について
- ・OP中採血自己血の運用について
- ・自己血採血を受けられる方への配布資料について

### 【院内合同研修会】

開催日 2012.10. 5

演題 自己血貯血時の副作用軽減への試みと認定取得について

講師 大崎 千津子

広島大学病院看護部 輸血部担当看護師長

### 【訪問相談における指摘改善事項】

- 1) 新鮮凍結血漿の解凍法の改善
- 2) 輸血医療のIT化推進
- 3) 血液製剤保存方法
- 4) 輸血後感染症検査の推進

来年度は上記、指摘改善事項を含め、適正で安全な自己血輸血を推進するための自己血輸血看護師の取得やアルブミン製剤の使用状況についての調査などの取り組みを行っていく。

### 24年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		合計	廃棄率
Ir-RCC-LR 2	4806	94	RCC	4830	1.9%
Ir-RCC-LR 1	24	0			
FFP-LR 2	2538	44	FFP	2800	1.6%
FFP-LR 1	2	0			
FFP-Ap 5	260	0			
Ir-PC-LR 5	60	0	PC	3550	4.2%
Ir-PC-LR10	3490	150			
Ir-PC-LR15	0	0			

### 24年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	75	66	9
心臓血管外科	72	68	4
泌尿器科	256	199	57
産婦人科	66	38	28
合計	469	371	98

### 24年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20% アルブミン	1387
ヴェノグロブリンIH 5g	93
グロベニンI 2.5g	112
グロベニンI 5g	108
5%日赤ポリグロビンN 5g	29
テタノブリン筋注 250国際単位	8
ハプトグロビン静注	38
抗D人免疫グロブリン筋注	7
乾燥HB グロブリン筋注	12
献血ノンスロン	290
フィプロガミンP	62
タコシール 3×2.5cm	31

製 品	本 数
タコシール 9.5 × 4.8cm	65
ボルヒール 1 ml	30
ボルヒール 3 ml	45
ボルヒール 5 ml	83
アブラキサン点滴静注 100mg	0
5%アルブミン 250ml	1914

## 臨床研修医支援委員会

委員長 大 下 彰 彦

臨床研修医支援委員会は、臨床研修医との情報共有を図り、充実した研修を行えるように支援することを目的として設立されました。研修医と指導医の中間的な立場で研修医を支援（臨床力の充実、学術活動、生活面・精神面のサポート）する役割を担っています。

今年度は、7回委員会を開催し、各診療科で行われている体系的なレクチャーや Early Bird Lecture（毎週月曜朝7時～実施、MRによる説明、研修医によるプレゼン、上級医によるレクチャー）の内容や運営について協議し、臨床研修の質の向上に努めました。

また年に2度、研修医会を開催し、指導医と研修医の交流を深めています。

指導医の意見交換や研修医からのヒヤリング内容を報告し、より充実した研修が行えるように取り組んでいます。



平成 24 年度 研修医集合写真

## 地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

### □設立の目的

地域住民が日常生活圏内で質の高い全人的がん医療を受けることができる体制整備について検討し、拠点病院としての機能低下と円滑な運営を図ることを目的とし、設立されました。

### □構成メンバー

委員長：医師

副院長：医師、地域医療連携室長

委 員：医師、薬剤科長、放射線治療科長、  
栄養科長、看護部副部長、看護科長  
外来化学療法室主任、緩和ケア科主任、  
診療情報管理科長、事務次長、医事課長、  
施設資材課長、総務課長

オブザーバー：病院長、事務長

### □活動状況

開催日：平成 25 年 2 月 18 日

協議事項

- (1) 広島県がん診療連携協議会の要旨について
- (2) ワーキングチームより報告

以上

## 広報委員会

委員長 辻 山 修 司

### ・設立の目的

院内における各部署の活動を院外に広く知っていただくことを目的として設立されました。幅広い部署についての詳細な広報としては年報がありますが、よりリアルタイムにタイムリーな話題についての広報も必要です。そのための手段の一つがホームページであり、もう一つが広報誌「せと」です。この二つを作成・管理することが本委員会の目的です。

### ・委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、その際に合わせてホームページ

についての検討も行っていきます。

## 1. ホームページ

ホームページについては年に1回アクセス解析を行い、本年度についてはモバイル端末からのアクセス数が増加していることよりモバイル端末向けのホームページ改善を行うこととしました。また有益なサイトとの相互リンクを増やすことによるアクセス数増加も検討することとしました。ホームページの内容については診療科及びメディカルスタッフ各々について毎月各一部署にトピックスの作成を依頼し各部署の掲載記事の更新に努めています。各部署の掲載記事は年に1回程度の更新が理想であるが、現実的には難しいケースが多く見られます。現在の所これに変わるものとして年報をホームページ上にリンクファイルとして載せることで対応しています。

## 2. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことが出来る様な小冊子で、新年号は年始の院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のトピックスを掲載しています。その他診療科紹介やメディカルスタッフやチーム医療等の院内での取り組み、病院関係の行事の案内や院内でのちょっとした出来事、新規導入医療機器に紹介等をコンパクトにまとめて構成しています。タイムリーに情報を提供することで好評を得ています。2013年新年号から6ページであったものを8ページに増やし、より内容の充実を図っています。

今後も分かりやすく魅力的な情報提供に努めていきます。

## アカデミック委員会

委員長 徳毛宏則

### 1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で平成22年に設立されました。

### 2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を5回開催し、下記の事項について協議しました。

#### (1) 第3回ふれあいポスター展

平成24年11月12日～12月28日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター47作品を院内に展示し、地域住民等から選出された6作品を表彰しました。

#### ◆表彰作品

賞	部門	部署
最優秀賞		栄養科
優秀賞	医局部門	心臓・血管外科
	看護部門	東5階病棟
	コメディカル部門	臨床研究検査科
	チーム活動部門	糖尿病療養相談室
	住民投票部門	災害対策 working team

#### (2) 第3回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

#### ◆最優秀賞受賞者

部門	診療科	氏名
内科系	循環器内科	卜部 洋司
外科系	整形外科	中前 稔生
コメディカル	看護科	田島 由貴
特別賞	臨床研究検査科	山下 美香

#### (3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。



## ◆各診療科への支援状況

部署	件数
呼吸器内科	8
腎臓内科	2
糖尿病・代謝内科	4
消化器内科	8
循環器内科	12
小児科	8
外科	16
乳腺外科	8
整形外科	14
脳神経外科	4
呼吸器外科	2
泌尿器科	5
産婦人科	7
眼科	4
麻酔科	7
救急・集中治療科	6
健康管理科	2
病理研究検査科	1
臨床研修医	16
耳鼻咽喉科	2
画像診断部	3
心臓・血管外科	2
形成外科	1
歯科口腔外科	1
皮膚科	5
放射線治療科	3

## (4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、今年度より短期海外研修を実施しました。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は2名が参加しました。

## 出張記

### SPINEWEEK 2012 に参加して

整形外科 中前 稔 生

2012年5月28日から6月1日まで、オランダのアムステルダムで開催された SPINEWEEK 2012 に参加させていただきましたので御報告させていただきます。SPINEWEEK とは脊椎分野の有名な国際学会である ISSLS(国際腰椎学会)、NASS(北米脊椎学会)、CSRS(国際頸椎学会)、Euro Spine(ヨーロッパ脊椎学会)、SRS(国際側弯症学会)およびその他2つの脊椎学会による combined meeting で、4年に1度開催されます。本学会は脊椎分野の臨床および基礎的な研究発表を世界各国からの精鋭が発表するもので、採択率も20%から50%程度と大変厳しいものとなっております。当院からは整形外科の山田清貴先生と中前稔生が参加し、山田先生は "Novel and minimally invasive intervention for low back pain associated with degenerative lumbar scoliosis in the elderly" のタイトルで、当院で開発し行っている新しい治療法である腰椎変性側弯症に対する経皮的椎間板内セメント治療の有用性を special poster のセッションで口演され、聴衆からの厳しい英語の質問に巧みな英語でそつなく回答されていました。中前は "Motor evoked potentials produced by transcranial magnetic stimulation is useful tool to assess cervical myelopathy patients" と "Investigation of segmental motor paralysis after cervical laminoplasty using intraoperative spinal cord monitoring with transcranial electric motor evoked potentials" のタイトルで頸髄症に対する経頭蓋磁気刺激運動誘発電位測定の有用性と頸髄症の術後上肢麻痺の検討の2題のポスター発表を行いました。

今回訪れたアムステルダムは憲法上に規定されたオランダの首都で(政府、中央官庁、王室、国会などの首都機能のほとんどはハーグ)、13世紀にアムステル川の河口にダムを築き造られた街です。あのヨハン・フライフを輩出したサッカーチーム、アヤックスアムステルダムの本拠地としてあまりにも有名で、近郊に巨大なサッカースタジアムがあります。アムステルダムの街には美しい水路が張り巡らされており、街全体が一つの絵になるような美しさをもっておりました。近郊には絵画にもよく描かれている風車が散在しており、まさしく水の国：オラン

ダでした。学会期間中、非常にタイトなスケジュールの合間をぬってオランダ観光も行いました。大変印象深かったのがアムステルダム国立美術館でレンブラントの「夜警」やフェルメールの「牛乳を注ぐ女」等、画才のない私にも伝わってくる絵画の迫力に圧倒されしばし時間を忘れ作品を見入ってしまいました。このような芸術鑑賞は普段の生活で得ることができない新しい風を私の中に吹き込んでくれました。

このような国際学会への参加・発表は、世界を肌で直に触れることができる大変貴重な機会でした。英語に関してはまだまだですが、自分が行っている研究を世界に向けて発信できたことは非常に自信となり、私の人生にとっても大きな財産となりました。このような機会を与えてくださった藤本院長、および学会参加中ご迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



街並みの写真



学会会場前にて(左から山田先生、中前)

## ■ North American Spine Society 27th annual meeting に参加して

整形外科 中前稔生

2012年10月24日から27日まで、アメリカのテキサス州ダラスで開催された North American Spine Society (NASS) 27th annual meeting に参加させていただきましたので御報告させていただきます。本学会はアメリカ合衆国を中心とした北米における脊椎の学会であり、脊椎分野において最も権威ある国際学会の1つです。当院からは藤本院長、整形外科の山田清貴先生、中前稔生が参加し、山田先生が“Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral pseudoarthrosis with intravertebral cleft”のタイトルで骨粗鬆性脊椎椎体骨折偽関節例に対する経皮的椎体形成術の報告をされました。学会が開催されたのは Dallas Convention Center という超巨大な施設で、会場内を渡り歩くだけでもかなりの脚力を要し、アメリカの「大きさ」を肌で感じました。本学会は演題発表もさることながら各企業の器械展示にかなりの場所とお金を割いており、商業ベースのアメリカの医療の一部を垣間見ることができました。

学会期間中に現地の病院見学を行いました。日本の学会で知り合ったダラスの有名な脊椎外科医を介して Texas Back Institute を訪問しました。同病院は脊椎分野に特化した病院でテキサス・ヘルス・センターという巨大な敷地内にあり、数多くの脊椎分野の手術を行っておりました。驚いたのが日本ではほとんど行われていない人工椎間板の手術をかなりの件数行っており、その多くが椎間板変性に対して手術を行っており、日本との病態に対する考え方の違いに驚かされました（日本では椎間板変性だけでは通常手術は行いません）。文化・慣習の違いが医療の違いを生み出しているのかもしれませんが。また今回の同病院の訪問に関しては事務や医師の方々施設内を丁寧に案内していただき、アメリカ人の「おもてなし」の心を感じました。

今回訪れたダラスはアメリカ合衆国南部有数の国際都市で、ジョン・F・ケネディが遊説中に暗殺さ

れた場所としても有名です。日本ではダルビッシュが在籍するテキサス・レンジャースの本拠地としても有名です。アメリカといえば「肉」ということで、現地の食文化に触れる目的でステーキを食べる機会が多かったのですが、ステーキの肉厚さには度肝を抜かれ完食できない日々が続き、ここでもアメリカの「大きさ」を体感できました。

このような国際学会への参加は、世界を肌で直に触れることができる大変貴重な機会でした。医学的な面ばかりではなく、その国の文化や考え方に接することができ、人間としての幅を広げることができたと思います。学会参加中ご迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



Texas Back Institute 訪問



Dallas の街並み

## 第20回ヨーロッパ内視鏡外科学会 (EAES) に参加して

外科 大下 彰彦

2012年6月20日から23日までベルギーのブリュッセルで開催された第20回ヨーロッパ内視鏡外科学会に参加して参りましたのでご報告させていただきます。

今年で20回を数えるヨーロッパ内視鏡外科学会は、内視鏡手術の先駆者のフランス人が主催しスタートしました。近年内視鏡外科手術は、消化器外科領域でも大きな地位を築いております。腹腔鏡下胆嚢摘出から始まり、大腸癌、胃癌領域でも盛んに鏡視下手術が行われるようになった一方、肝臓癌の領域ではやっとな定型的手術術式が確立されつつある状況です。Oncology 的に開腹手術と比較して生存率に影響を与えないかどうかは、多くの肝胆膵外科医が注目しているホットな領域です。今回私は、大学病院時代に経験した肝臓癌に対する腹腔鏡下手術において、retrospective ではありますが開腹手術と比較して遜色ない非劣勢のデータを発表して参りました。Oral presentation でハードルは高かったのですが、何とか質疑応答にも応じ(耐え忍び?)、当初の最低限の目的を果たすことができました。(図1) また当科からは加納先生も胃癌領域の発表をポスターでされました。

さて、折角日本から遠く離れた異国の地を訪れますので、彼の国でどんな医療がされているのか知りたくなるのは私だけではないと思います。大学病院時代より国際学会発表時には、見聞を広めるために知り合いの病院見学をさせてもらってきました。今回は、学会前におとなりのオランダのフローニンゲン大学病院肝胆膵・移植外科とブリュッセルにある聖ルカ大学病院移植外科を見学させていただきましたので併せてご報告いたします。

フローニンゲン大学の Porte 教授とは、2010年に広島で開催した日本肝移植研究会にお招きした際接待係を担当して以来 Face Book を通じて交流させてもらってきました。今回の病院見学では、研究施設の見学、手術見学、ご自宅への招待や夜のお食事会(図2)に至るまで、素晴らしい Hospitality で歓迎いただきました。オランダにおける肝移植の実情を生で見学することができ、また医療システムなども長崎大学から留学中の原先生に解説していただき、大変有意義な滞在ができました。

聖ルカ大学病院の Lerut 教授とは、たまたま直前の外科学会でフランス留学時代の恩師とフランス語で会話していた時にお声かけいただき、病院見学が叶いました。訪問当日は手術見学はできませんでしたが、病棟回診やベルギーの移植事情のお話し等聞かせていただきました。回診中の患者さんと接するお姿はとても真摯で、全ての患者さんと関係が良好であることを肌で感じる事ができました。フランス語圏ですので私も患者さんと積極的に話すことができ、回復祈願も込めて一緒に写真におさまることを依頼されました。(図3) このように、大変充実した見学をさせていただきました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました院長をはじめアカデミック委員会や関係者の方々、そして学会参加中に病棟を守って下さった外科チーム一同に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

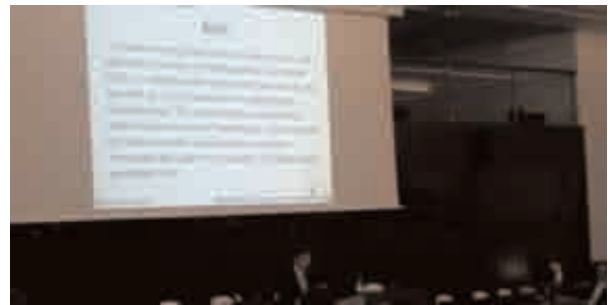


図1 緊張して発表する筆者(中央下)



図2 歓迎夕食会(右から長崎大学の原先生、Porte 教授、筆者、加納先生、原先生の奥様)



図3 穏やかな雰囲気で見学される Lerut 教授(中央、右の患者さんには写真撮影と掲載の許可を頂きました)

## 第10回国際肝胆膵学会議 (IHPBA) に参加して

外科 大下 彰彦

2012年7月1日から5日までパリで開催された第10回国際肝胆膵学会議に参加して参りましたのでご報告させていただきます。

国際肝胆膵学会議は2年に一度開催される学会で、日本肝胆膵外科学会の関連学会として演題募集を呼び掛けられていました。大学病院時代にまとめた肝細胞癌の長期生存例の検討で抄録を作成していましたが、今回は Best Oral Session に採択されてしまった(?) ために気を引き締めて準備して行きました。初日より活発な討議が繰り返され、肝胆膵分野の著名な先生方が目前で意見を交わされていました。少し気後れしながらも、その学会場の雰囲気を感じることができました。企画ものとして「論文の書き方講座」なるセッション(図1)があり大変感銘を受けました。自分の発表は練習通りで、質疑応答では座長に助けられながらも問題なくこなすことができました。(図2)学会主催のGala Dinnerは、何とオルセー美術館の貸し切りでした。フランス人はやるのが洒落ています。華やかなパーティールームでの宴会(図3)は、まるで映画を見ているかのようでした。宴会を抜け出せば芸術作品も鑑賞でき、普段ならできない写真撮影まで許可されていました。芸術作品が劣化しないか不安にはなったもののフラッシュさえなければ問題ないことを教えてもらい、贅沢な撮影会までさせていただきました。(図4: 徳島大学の先生方に撮って頂きました)学会場では、日頃から懇意にさせてもらっている慶應大学や徳島大学、聖マリアンナ医大や留学中に仲良くしていたイタリア人らと楽しく討論でき、大変大きなインパクトを残して5日間の日程を終了しました。

さて、折角パリまで足を伸ばしたのですが、どうしても生で手術を見学させてもらいたい世界的に著名な教授(図5)がいました。直接CV付のメールを送ったのですが2週間以上経っても返事もらえず、最終的にはフランス留学中の恩師に頼んで紹介してもらい訪問が叶いました。恩師に頼んだ翌日に

は Appointment が取れるという次第でした。こんな時にはコネがモノという様です。学会では何度も発言する Gayet 教授の姿を拝見していましたが、病院内でもかなりのオーラが出ていました。実際に手術を見学(図6)させていただきましたが、その圧倒的な手技のうまさ感動してしまいました。術後には細かい手技のコツについても Discussion させていただき、大変有意義な病院見学となりました。

2年間のフランス留学中にも感じたことがありましたが、異文化に触れるということは、すなわち自分たちの文化を見つめ直す機会でもあります。オルセーの美術や Gayet 教授の手術技術にカルチャーショックをうけましたが、それなくして変革・進歩はあり得ないと感じました。病院に戻って、それ以降の腹腔鏡下肝切除症例が増えたのは偶然ではないと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました院長をはじめアカデミック委員会や関係者の方々、パリで受け入れて下さった先生方やそれに尽力して下さいました方々、そして学会参加中に病棟を守って下さった外科チーム一同に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

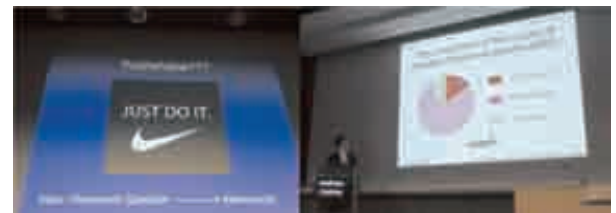


図1 論文の書き方講座 図2 口演発表する筆者

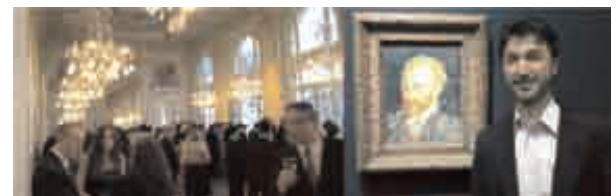


図3 オルセー美術館での貸し切りパーティー(左)

図4 この有名な絵でも撮影可能でした(右)



図5 Gayet 教授(右) 図6 腹腔鏡手術の光景



## 著書・論文

### 呼吸器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
当院における非小細胞肺癌に対するエルロチニブの治療成績	近藤丈博 山岡千尋 若林優 河野秀和 櫻井穰司	広島医学	Vol.65 No.11 681-684	2012年

### 循環器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
"Pigs-in-a-Blanket Coronary Arteries": A Case of Immunoglobulin G4-related Coronary Periarteritis Assessed by Computed Tomography Coronary Angiography, Intravascular Ultrasound, and Positron Emission Tomography	Yoji Urabe, MD <sup>1,2</sup> , Takashi Fujii, MD, PhD <sup>1</sup> , Shuji Kurushima, MD <sup>1</sup> , Shuji Tsujiyama, MD, PhD <sup>1</sup> , Yasuki Kihara, MD, PhD <sup>2</sup> <sup>1</sup> Department of Cardiology, and <sup>2</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima, Japan.	Circulation: Cardiovasc Imaging	5: 685~687	2012年

### 消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
胃石	松下理恵 菅宏美 徳毛宏則	PEG用語解説. フジメディカル出版	113	2013年
胃排出能低下	石崎淳子 菅宏美 徳毛宏則	PEG用語解説. フジメディカル出版	114	2013年
胆管原発神経内分泌腫瘍の1例	菅宏美 藤本佳史 徳毛宏則 中光篤志 壘丸裕	胆道	27: 118-123	2013年

### 外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Hepatic steatosis after pancreaticoduodenectomy: Association with nutritional status and evaluation of predictive factors	Nakamura H, Nakamitsu A, Imamura Y, Sasaki M, Kohyama M, Oshita A, Kano M, Kato Y.	Hepato-Gastroenterology	in press	
Safety and Feasibility of diet-treated donors with steatotic livers at the initial consultation for living donor liver transplantation.	Oshita A, Tashiro H, Amano H, Kobayashi T, Onoe T, Ide K, Takaki S, Takahashi S, Arihiro K, Chayama K, Ohdan H	Transplantation	93・10・1024-1030	2012年
Hepatocellular carcinoma and focal nodular hyperplasia of the liver in a glycogen storage disease patient.	Mikuriya Y, Oshita A (Corresponding author), Tashiro H, Amano H, Kobayashi T, Arihiro K, Ohdan H	World J Hepatol	4・6・191-195	2012年

### 整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
骨セメントによる経皮的椎体形成術（先進医療）	藤本吉範	椎体形成術 現在とこれから	P97～109	2012年
仙骨不全骨折の治療経験	橋本貴士 藤本吉範 高田治彦 山田清貴 清水良 住吉範彦	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	55(3) P527-528	2012年

### 脳神経外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
けいれん重積，同名半盲を呈した可逆性脳症の1例	黒木一彦 沢川正顕 織田祥至	広島医学	65: 42-45	2012年
局所頭蓋内浸潤を呈した頭蓋底部原発神経内分泌癌の1例	黒木一彦 沢川正顕 織田祥至 台丸裕 杉山一彦	広島医学	65: 184-187	2012年
内耳道へ転移した乳癌の1症例	黒木一彦 沢川正顕 織田祥至 台丸裕	広島医学	65: 523-526	2012年

## 著書・論文

## 呼吸器外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Virtual Bronchoscopy が有用であった鈍的頸部気管損傷の1例	松浦陽介 渡正伸	気管支学	34巻3号 Page234-237	2012年
『肺癌手術時に徐脈、心停止を来した3例』に対して(レター)	大泉弘幸 渡正伸	日本呼吸器外科学会雑誌	26巻6号 Page697-698	2012年
短紡錘形細胞を混じり良悪性の判定に苦慮した肺硬化性血管腫の1例	岡本淳子 上国愛 永田郁子 住田美栄 井町海太 壘丸裕 渡正伸	日本臨床細胞学会広島県支部会誌	33巻 Page38-43	2012年

## 皮膚科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
顎口虫症の1例	木矢絢子 中村史江 森川博文 壘丸裕 山田悟	皮膚科の臨床	55巻2号 Page201-206	2013年

## 麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Changes of Motor Evoked Potentials during Descending Thoracic and Thoracoabdominal Aortic Surgery with Deep Hypothermic Circulatory Arrest	Masahide Shinzawa Kenji Yoshitani Kenji Minatoya Tomoya Irie Hitoshi Ogino Yoshihiko Ohnishi	Journal of Anesthesia	26(2): 160-167	2012年
Detection of the full-length transcript variant for neurokinin-1 receptor in human whole blood associated with enhanced reinforcement of clot by substance-P.	Azma T, Sugimoto Y, Kinoshita H, Ito T, Tsukamoto M, Hoshijima H, Nakao M, Kikuchi H.	J Thromb Thrombolysis.	33(4):329-37.	2012年

## 救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
プレセックスの適応拡大で当院のICUは大きく変わった	櫻谷正明 吉田研一 前岡侑二郎 河村夏生 荘川知己 大下彰彦	臨床麻酔学会誌	32巻・7号・906-912	2012年

## 緩和ケア科・緩和ケアチーム

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
「A病院におけるエンゼルケア見直しについて」	高原さおり 古本直子 岡田恵美子	日本緩和医療学会	2012年 9月6～7日	帯広

## 臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
透析患者で遭遇した採血時における抗凝固剤混入の影響	丸山恭平 福田幸恵 谷口実佳 川崎京子 横山富子 福岡達仁 水野誠士	広島臨床検査	Vol.1 50～54	2012年
尿検査に関する実施方法のアンケート調査—標準化への取り組み前後3年間の比較—	松田親史 山下美香 小川真理 石川英己子 吉松千尋 和田進 三島清司 柴田宏	医学検査	Vol.61 No.5 923～928	2012年

## リハビリテーション科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
"なぜ開心術後に嚥下障害はおこりやすいのか？—嚥下障害の要因分析とその改善度の検討—	玉田雅美 小林平 後藤優佳 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 味村裕美 小山明子 井場和敏 本間智明 飛鷹恵理 下田喜子 折手祐一 名井幸香 前田和樹 川本純	心臓リハビリテーション	18巻1号	2013年2月



## 書籍・雑誌編集

### 消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療	査読者	Vol16、No1	PEG・在宅医療研究会

### 外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
大下彰彦	Surgery Today 2 編 (IF: 0.963)	査読者		Springer
大下彰彦	Hepatology Research 1 編 (IF: 2.072)	査読者		Wiley
大下彰彦	Hepatology 1 編 (IF: 12.003)	査読者		Wiley

### 臨床研究検査科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
山下 美香	一般検査技術教本	編集責任者		(一社) 日本臨床衛生検査技師会

# 学会発表

## 呼吸器内科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
Tetratrichomonas による膿胸の1例	山岡千尋 櫻井穰司 若林優 近藤丈博	第47回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2012年7月20～21日	山口県下関市
レジオネラ肺炎が疑われ、気管支肺泡洗浄とDLSTにて薬剤性肺炎と診断された1例	井上 聡 近藤丈博 若林優 山岡千尋 中増昭久 櫻井穰司	第47回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2012年7月20～21日	山口県下関市
当院における非小細胞肺癌に対するエルロチニブの治療成績	近藤丈博 山岡千尋 若林優 河野秀和 櫻井穰司	第53回日本肺癌学会	2012年11月8～9日	岡山県岡山市
肺胞出血・心筋炎をきたした重症アレルギー性肉芽腫性血管炎の1例	山岡千尋 近藤丈博 若林優 河野秀和	第48回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2012年12月22日	岡山県岡山市
NPPVからの離脱が困難であったCOPD患者にネーザルハイフローを使用し、離脱に成功した1例	若林 優 山岡千尋 河野秀和 近藤丈博	第48回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2012年12月22日	岡山県岡山市
肺炎、膿胸からARDSの合併を来し、Low-Flow ECCO <sub>2</sub> Rにより救命できた1例	近藤丈博 若林 優 櫻谷正明 吉田研一	第40回日本集中治療医学会	2013年2月28日～3月2日	長野県松本市
ARDS患者における肺水腫液中KL-6の検討	近藤丈博 櫻谷正明 吉田研一	第40回日本集中治療医学会	2013年2月28日～3月2日	長野県松本市

## 循環器内科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
大腸ポリープを合併したStreptococcus bovisによる感染性心内膜炎の1例	新田和宏 藤井隆 政田賢治 荘川知己 久留島秀治 久保祐美子 佐倉拓朗 前田幸治 辻山修司(循環器科) 川本 純 小林平 前田和樹(心臓血管外科)	第100回日本循環器学会中国地方会	2012年6月22日	広島市
Torlvaptan 長期使用における腎機能・電解質に対する影響	辻山修司 藤井隆 前田幸治 荘川知己 久留島秀治 政田賢治	第100回日本循環器学会中国地方会	2012年6月22日	広島市
MDCTで非石灰化プラークの退縮を追跡しえた4症例の検討～Color Code Plaque <sup>TM</sup> によるプラーク性状変化と血液データの比較～	藤井隆 久留島秀治 佐倉拓朗 久保祐美子 荘川知己 前田幸治 辻山修司	第61回日本農村医学会学術総会	2012年11月2日	松江市
失神を契機に診断されたヘパリン起因性血小板減少症(HIT)の1例	前田幸治 <sup>1)</sup> 高場章宏 <sup>2)</sup> 藤井隆 <sup>1)</sup> 辻山修司 <sup>1)</sup> 荘川知己 <sup>1)</sup> 久留島秀治 <sup>1)</sup> 徳毛宏則 <sup>3)</sup> 古土井明 <sup>3)</sup> 太刀掛俊浩 <sup>4)</sup> 1) 循環器内科 2) 臨床研修医 3) 消化器内科 4) 画像診断部	佐伯地区医学会総会	2012年11月3日	廿日市市

## 糖尿病・代謝内科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
糖尿病神経障害の発症・進展阻止に寄与する血糖コントロール、経口血糖降下薬、ARIの臨床効果をCPTの長期観察で明らかにする	石田和史 日域邦昭 秋山朋子	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012年5月17～19日	横浜市
6ヶ月投与の臨床効果に基づくリラグルチドの有効症例や作用機序に関する考察	日域邦昭 秋山朋子 石田和史	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012年5月17～19日	横浜市
経時的な肥満関連諸因子の同時測定結果からみたInBody S20の肥満評価法としての妥当性の検証	秋山朋子 日域邦昭 石田和史	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012年5月17～19日	横浜市
クロスオーバー試験によるアスパルト 30mix とリスプロ mix25 の臨床的有効性の比較	瀧口幸子 大田博子 秋山朋子 日域邦昭 石田和史	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012年5月17～19日	横浜市
経口血糖降下薬で効果不十分な2型糖尿病患者に対するインスリンリスプロ混合製剤-50の段階的導入法の有効性及び安全性の検討	栗林伸一 石田和史 中島英太郎 竹綱正典 高宮志穂 阿波隆夫 竹内雅和 今岡丈士	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012年5月17～19日	横浜市

実績

## 学会発表

糖尿病患者におけるシスタチンCにおけるGFR推算式の有用性についての検討	浅生貴子 石田和史	小川寛子	第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	2012年11月16~17日	松江市
24時間尿比例採取器を用いた食事介入は糖尿病合併慢性腎臓病患者の食事を改善するか	三浦満美子 河本良美 平林晃 石田和史	中西弘子 坂田良子 荒川哲次	第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	2012年11月16~17日	松江市
糖尿病フットケアができる看護師育成に向けての当院独自の取り組み	中元美恵	石田和史	第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	2012年11月16~17日	松江市
混合比の異なるインスリン製剤に対するシタグリプチン併用効果の比較検討	小川寛子 石田和史	浅生貴子	第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	2012年11月16~17日	松江市
電流知覚閾値検査(CPT)を用いた糖尿病神経障害病期分類の妥当性の検証	石田和史 小川寛子	浅生貴子	第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	2012年11月16~17日	松江市

## 消化器内科

演題	発表者・協同研修者名		学会名	開催期間	開催都市
ミニシンポジウム7. MRIのTopics「膵癌の診断と治療経過におけるMRIの有用性」	藤本佳史 石田邦夫	徳毛宏則	第98回日本消化器病学会総会	2012年4月19日	東京
当院での出血性潰瘍における内視鏡的止血術困難例の特徴	瀧川英彦 菅宏美 藤本佳史 徳毛宏則	古土井明 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第83回日本消化器内視鏡学会総会	2012年5月12日	東京
術前診断に難渋した肝原発偽リンパ腫の1例	倉岡憲正 山口拓朗 藤解邦生 加納幹浩 佐々木秀 中光篤志 菅宏美 古土井明 小松弘尚 石田邦夫	大下彰彦 埜越宏幸 中村浩之 香山茂平 今村祐司 瀧川英彦 野中裕広 藤本佳史 徳毛宏則 臺丸裕	第97回日本消化器病学会中国支部例会	2012年5月26日	広島市
IPMNの術後残膵に発生した膵腺扁平上皮癌の1例	高場章宏 瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則 中光篤志	藤本佳史 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第97回日本消化器病学会中国支部例会	2012年5月26日	広島市
EUS-FNABが術前診断に有効であった膵神経鞘腫の1例	藤本佳史 菅宏美 古土井明 徳毛宏則 佐々木秀	瀧川英彦 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫 中光篤志	第43回日本膵臓学会大会	2012年6月28日	山形市
総胆管に穿破した膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の1切除例	宮森純子 瀧川英彦 古土井明 小松弘尚 石田邦夫	富永明子 野中裕広 藤本佳史 徳毛宏則 臺丸裕	第108回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2012年7月1日	広島市
当院における、ESDの現状—遺残再発についての検討—	瀧川英彦 宮森純子 古土井明 小松弘尚 石田邦夫	富永明子 野中裕広 藤本佳史 徳毛宏則	第108回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2012年7月1日	広島市
総胆管に穿破した膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の2例	藤本佳史 菅宏美 古土井明 徳毛宏則	瀧川英彦 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第48回日本胆道学会学術集会	2012年9月21日	東京
膵癌の早期診断におけるMRIの有用性	藤本佳史 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則	第54回日本消化器病学会大会	2012年10月10日	神戸市
当院におけるESDの現状—SAFE KnifeVとITナイフ2の比較検討—	瀧川英彦 菅宏美 藤本佳史 徳毛宏則 臺丸裕	古土井明 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第84回日本消化器内視鏡学会総会	2012年10月12日	神戸市

## 学会発表

当院における大腸 LST に対する治療の現況	古土井明 野中裕広 藤本佳史 徳毛宏則	瀧川英彦 菅宏美 小松弘尚 石田邦夫	第 84 回日本消化器内視鏡学会総会	2012 年 10 月 13 日	神戸市
慢性膵炎に合併した膵癌の 1 例 ～膵癌の早期診断と total care を目指した試み～	藤本佳史		第 23 回佐伯医学会総会	2012 年 11 月 3 日	廿日市市
胃転移巣への超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNAB) が診断に有用であった原発性腹膜癌の一例	瀧川英彦 富永明子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫 臺丸裕	古土井明 宮森純子 藤本佳史 徳毛宏則 中西慶喜	第 109 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2012 年 12 月 1 日	宇部市
EUS-BD と十二指腸ステントが有効であった高齢者膵癌の 1 例	藤野修 富永明子 瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則	藤本佳史 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 109 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2012 年 12 月 1 日	宇部市
血管炎様の多彩な全身症状を呈した好酸球性胆管炎の一例	富永明子 宮森純子 古土井明 小松弘尚 石田邦夫	野中裕広 瀧川英彦 藤本佳史 徳毛宏則	第 98 回日本消化器病学会中国支部例会	2012 年 12 月 1 日	宇部市
サイトメガロウイルス血症を合併した難治性偽膜性腸炎の 1 例	下地清史 富永明子 瀧川英彦 藤本佳史 徳毛宏則	古土井明 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 98 回日本消化器病学会中国支部例会	2012 年 12 月 1 日	宇部市

実績

## 小児科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
JPAC 上比較的コントロール良好であった喘息児の気道可逆性の検討	岡島宏易 他	第 49 回日本小児アレルギー学会	2012年9月 15～16日	大阪
JPAC 上コントロール良好であった喘息児の肺機能と気道可逆性の検討	岡島宏易 他	第 62 回日本アレルギー学会 秋季大会	2012年11月 29日～12月 1日	大阪

## 外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市	
膵頭十二指腸切除術後の脂肪肝に関する検討—術後栄養状態との関連とその危険因子—	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埜越宏幸 福田康彦	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 藤解邦生 山口拓朗	第 112 回日本外科学会定期学術集会 一般演題 示説	2012年4月 12～14日	千葉市
局所進行直腸癌に対する術前化学療法の成績と問題点	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 中村浩之 埜越宏幸 熊田高志	中光篤志 佐々木秀 加納幹浩 加藤楽 山口拓朗 福田康彦	第 112 回日本外科学会定期学術集会 一般演題 示説	2012年4月 12～14日	千葉市
新規化学療法導入以降における化学療法後に肝切除を行った大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埜越宏幸 福田康彦	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 藤解邦生 山口拓朗	第 24 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 一般演題 示説	2012年5月 30日～6月 1日	大阪市
膵腫瘍との鑑別が困難であった総肝動脈周囲神経叢由来の後腹膜神経鞘腫の一例	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 埜越宏幸 福田康彦	中光篤志 香山茂平 中村浩之 山口拓朗	第 24 回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2012年5月 30日～6月 1日	大阪

## 学会発表

これまで経験した腹腔鏡（補助）下肝切除術の治療成績	大下彰彦 中光篤志 埜越宏幸 中村浩之 香山茂平 福田康彦	佐々木秀 山口拓朗 藤解邦生 加納幹浩 今村祐司	第 24 回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会 一般演題 示説	2012年5月 30日～6月 1日	大阪
新規化学療法導入以降の当院における大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埜越宏幸 福田康彦	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 藤解邦生 山口拓朗	第 37 回日本外科学系連合学会 学術集会 スポンサーードシン ポジウム 5 大腸癌肝転移症 例に対する治療戦略	2012年6月 28～29日	福岡市
LAPAROSCOPIC LIVER RESECTION VS OPEN LIVER RESECTION FOR PERIPHERAL HEPATOCELLULAR CARCINOMA IN PATIENTS WITH CHRONIC LIVER DISEASE.	Akihiko Oshita, Hiroataka Tashiro, Hironobu Amano, Tsuyoshi Kobayashi, Takashi Onoe, Kohei Ishiyama, Kentaro Ide, Hideki Ohdan		20th International Congress of the EAES, Oral Session	2012年6月 20～23日	ブリュッセル、ベルギー
Clinical features of the long-term survival in patients with hepatocellular carcinoma after curative resection.	Akihiko Oshita, Hiroataka Tashiro, Hironobu Amano, Tsuyoshi Kobayashi, Takashi Onoe, Kohei Ishiyama, Kentaro Ide, Hideki Ohdan		10th World Congress of the IHPBA, Best Oral Session	2012年7月 1～5日	パリ、フランス
新規化学療法導入以降の当院における大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埜越宏幸	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 藤解邦生 山口拓朗	第 67 回日本消化器外科学会 総会 シンポジウム 5 大腸 癌肝転移に対する集学的治療 法	2012年7月 18～20日	富山市
腸重積を合併した大腸癌に対する腹腔鏡下手術施行症例の検討	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 中村浩之 埜越宏幸 熊田高志	中光篤志 佐々木秀 加納幹浩 加藤泰 山口拓朗 福田康彦	第 67 回日本消化器外科学会 総会	2012年7月 18～20日	富山市
soft pancreas 症例に対する膵管胃粘膜吻合法	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 藤解邦生 山口拓朗	中光篤志 香山茂平 中村浩之 埜越宏幸	第 67 回日本消化器外科学会 総会 要望ビデオ	2012年7月 18～20日	富山
当院における腹腔鏡下肝切除の取り組み	大下彰彦 山口拓朗 藤解邦生 加納幹浩 今村祐司	佐々木秀 埜越宏幸 中村浩之 香山茂平 中光篤志	第 67 回日本消化器外科学会 総会 一般演題 口演	2012年7月 18～20日	富山市
術前診断に難渋した肝原発偽リンパ腫の 1 例	倉岡憲正 中光篤志	大下彰彦	第 67 回日本消化器外科学会 総会 一般演題（研修医セッ ション） 口演	2012年7月 18～20日	富山市
術前診断に難渋した肝細胞癌の 1 例	森迫泰貴 中光篤志	大下彰彦	第 67 回日本消化器外科学会 総会 一般演題（研修医セッ ション） 口演	2012年7月 18～20日	富山市
腹腔鏡下肝切除における炭酸ガス塞栓予防のための術中対策—経食道心エコーの有用性について—	大下彰彦 佐々木秀 山口拓朗 中村浩之 香山茂平 中尾正和	新澤正秀 熊田高志 埜越宏幸 加納幹浩 今村祐司 中光篤志	第 87 回中国四国外科学会 / 第 17 回中国四国内視鏡外科 研究会 シンポジウム 口演	2012年9月 13～14日	米子市
初回切除不能 S 状結腸癌同時性肝転移に対し、FOLFOX + Cetuximab 療法と門脈塞栓術の併用により切除し得た一例	馬場健太 香山茂平 山口拓朗 中村浩之 佐々木秀 壘丸裕	大下彰彦 熊田高志 埜越宏幸 加納幹浩 今村祐司 中光篤志	第 87 回中国四国外科学会 / 第 17 回中国四国内視鏡外科 研究会 一般演題（研修医 セッション） 口演	2012年9月 13～14日	米子市
膵頭切除術および尾側膵切除術における縮小手術の機能温存効果	中村浩之 中川直哉	森藤雅彦	第 4 回日本安定同位体・生体 ガス医学応用学会大会 一般 演題 口演	2012年 10月27日	東京
腹腔鏡下肝切除において、経食道心エコーを用いた右心房内モニタリングにより重篤な炭酸ガス塞栓を予防し得た一例	大下彰彦 佐々木秀 中光篤志	新澤正秀 中尾正和	第 6 回肝臓内視鏡外科学会 一般演題 口演	2012年 11月28日	東京

## 学会発表

当院における新規化学療法導入以降の大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埜越宏幸 熊田高志	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 加藤崇 山口拓朗	第 74 回日本臨床外科学会総会 主題関連演題 大腸癌肝・肺転移治療の新展開 3	2012年11月29日～12月1日	東京
胃小細胞癌の1例	山口拓朗 埜越宏幸 加納幹浩 香山茂平 今村祐司 中光篤志	熊田高志 中村浩之 大下彰彦 佐々木秀 丸丸裕	第 74 回日本臨床外科学会総会 一般演題 示説	2012年11月29日～12月1日	東京
初回切除不能S状結腸癌同時性肝転移に対し、FOLFOX + Cetuximab 療法と門脈塞栓術の併用により切除し得た一例	馬場健太 香山茂平 山口拓朗 中村浩之 佐々木秀 丸丸裕	大下彰彦 熊田高志 埜越宏幸 加納幹浩 今村祐司 中光篤志	第 74 回日本臨床外科学会総会 一般演題 (研修医セッション) 示説	2012年11月29日～12月1日	東京
巨大な腹壁癒痕ヘルニアにたいし腹腔鏡下腹壁貫通法により修復した1例	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 中村浩之 埜越宏幸 熊田高志	中光篤志 佐々木秀 加納幹浩 加藤崇 山口拓朗 福田康彦	第 25 回日本内視鏡外科学会総会	2012年12月6～8日	横浜市
腹腔鏡下肝切除における炭酸ガス塞栓予防のための術中対策—経食道心エコーの有用性—	大下彰彦 佐々木秀 山口拓朗 加藤崇 加納幹浩 今村祐司 中光篤志	新澤正秀 熊田高志 埜越宏幸 中村浩之 香山茂平 中尾正和	第 25 回日本内視鏡外科学会総会 一般演題 口演	2012年12月6～8日	横浜市

## 乳腺外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
乳癌センチネルリンパ節の最適なナビゲーションとは？ 3D-CT lymphography (3DCTLG) + 色素 + RI 3 法併用 + RVS によるセンチネルリンパ節生検 (SNB) の経験から	船越真人 福田康彦 岡田守人	第 112 回日本外科学会総会	2012年4月12日～4月14日	千葉市
術前 3D 画像 +4D エコー + RVS を用いた切除範囲決定と断端陰性化の工夫	船越真人 福田康彦	第 20 回日本乳癌学会総会	2012年6月28日～6月30日	熊本市
FEC 療法、TC 療法に起因する悪心・嘔吐に対する予防的制吐剤の有効性についての検討	梶谷桂子 重松英朗 菅野恵美子 小林美恵 佐々田達成 恵美純子 舩本法生 角舎学行 春田のみ 片岡健 岡田守人	第 20 回日本乳癌学会総会	2012年6月28日～6月30日	熊本市
nab-Pclitaxel( アブラキサン®) 投与における副作用対策の検討	船越真人 安井大介 福田康彦	第 10 回日本臨床腫瘍学会	2012年7月26日～7月28日	大阪市
新規抗癌剤エリブリンが有効であった急速進行炎症性乳癌症例	船越真人 福田康彦	第 10 回日本臨床腫瘍学会	2012年7月26日～7月28日	大阪市
Paclitaxel,bavacizumab 療法中に気胸と間質性肺炎を発症した乳癌肺転移の1例	梶谷桂子 船越真人 福田康彦	第 9 回日本乳癌学会中国四国地方会	2012年9月15日	出雲市
センチネルリンパ節転移陽性乳癌に対する腋窩郭清省略は可能か？	船越真人 梶谷桂子 加納幹浩 中村浩之 埜越宏幸 香山茂平 中光篤志 福田康彦 岡田守人	第 50 回日本癌治療学会総会	2012年10月25日～10月27日	横浜市
乳房部分切除における術前 3D 画像 +4D エコーを用いた切除範囲決定と術中乳腺固定による断端陰性化の工夫	梶谷桂子 船越真人 福田康彦	第 74 回日本臨床外科学会総会	2012年11月29日～12月1日	東京

実績

## 学会発表

### 整形外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折の治療 - 移植骨としての尺骨切除術 -	高田治彦 藤本吉範 山田清貴 橋本貴士 住吉範彦 清水良 高澤篤之	第 55 回日本手外科学会	2012年4月19~20日	横浜
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間腔バキューム内 PMMA 注入療法と保存療法の治療成績の比較検討	山田清貴	第 41 回日本脊椎脊髄病学会	2012年4月19~21日	久留米
頸部脊髄症に対する椎弓形成術後上肢麻痺に関する検討 - 術中運動誘発電位モニタリングを用いて -	中前稔生	第 41 回 日本脊椎脊髄病学会	2012年4月19日~21日	久留米
経頭蓋磁気刺激運動誘発電位測定を用いた頸部脊髄症の定量的評価	中前稔生	第 85 回 日本整形外科学会	2012年5月17日~20日	京都
NOVEL AND MINIMALLY INVASIVE INTERVENTION FOR LOW BACK PAIN ASSOCIATED WITH DEGENERATIVE LUMBAR SCOLIOSIS IN THE ELDERLY	山田清貴	ISSLS (International Society for the Study of the Lumbar Spine)	2012年5月28~6月1日	アムステルダム
Investigation of segmental motor paralysis after cervical laminoplasty using intraoperative spinal cord monitoring with transcranial electric motor evoked potentials	中前稔生	29th CSRS-ES, SpineWeek 2012	May 28~ June 1, 2012	アムステルダム
Motor evoked potentials produced by transcranial magnetic stimulation is useful tool to assess cervical myelopathy patients	中前稔生	Euro Spine, SpineWeek 2012	May 28~ June 1, 2012	アムステルダム
スポーツに伴う急性腰痛に対する治療戦略	藤本吉範 山田清貴 (JA 広島総合病院) 宇治郷諭 (広島大学大学院整形外科学) 奥田晃章 (奥田整形外科皮膚科医院) 石井雅也 (広島東洋カープ) 吉崎健 (サンフレッチェ広島)	第 4 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2012年7月19日~21日	沖縄
プロスポーツ選手の discogenic pain	藤本吉範 中前稔生 山田清貴 (JA 広島総合病院) 石井雅也 (広島東洋カープ) 吉崎健 (サンフレッチェ広島) 寛田司 (寛田クリニック)	第 38 回日本整形外科学スポーツ医学会	2012年9月14日~15日	横浜
腰椎変性側弯に伴う腰痛に対する低侵襲手術	中前稔生 藤本吉範 高田治彦 山田清貴 橋本貴士 高澤篤之 中川寛頭	第 45 回 中国・四国整形外科学会	2012年11月10日~11日	倉敷
Microsurgical Transdural Discectomy with Laminoplasty for Cervical Paracentral Disc Herniation Associated with Spinal Canal Stenosis	藤本吉範	World Network Conference 2012	2012年11月29~12月2日	Ho Chi Minh, Viet Nam

### 形成外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
血流を考慮した下顎再建における血管柄付き遊離腓骨（皮弁）の骨切りについて	長谷川美紗 井上祐佳子 横田和典	第 55 回日本形成外科学会総会・学術集会	2012年4月11~13日	東京都

### 脳神経外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
AVM の 2 症例	黒木一彦 波川正顕 織田祥至 下永皓司	第 26 回中国地方脳神経外科手術研究会	2012年8月25日	広島
小脳脳動静脈奇形の 1 例	織田祥至 黒木一彦 波川正顕 下永皓司	第 65 回広島医学会総会	2012年11月11日	広島
再発を繰り返す hemangioblastoma の家族発症例	黒木一彦 波川正顕 織田祥至 下永皓司	第 74 回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	2012年12月1日	

## 学会発表

## 呼吸器外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
肺切除後におけるネブライザーの必要性の有無について 術後の排痰促進、術後肺炎予防の観点から	佐伯ゆかり 古本直子 玉井良枝 松浦陽介 渡正伸	第 61 回日本農村医学会学術総会	2012年11月1～2日	松江市
シリコンステントを応用した肺癌術後気管支断端瘻の治療経験	渡正伸 黒尾優太	第 21 回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会	2013年2月16日	徳島市

## 心臓血管外科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
重症虚血肢に対する Distal Bypass -当施設での工夫、ターニケットもシャントも不要-	小林平 川本純 前田和樹	日本血管外科学会	2012年5月	長野
人工血管感染に対して人工血管抜去並びに浅大腿動脈を用いてパッチ形成術を施行した 1 例	前田和樹 川本純 小林平	中国四国血管外科学会	2012年7月	

## 皮膚科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における乳房外 Paget 病についての検討	秋本成宏 森川博文 梅田直樹 吉屋直美 木矢絢子 中村史江 臺丸裕	第 131 回 日本皮膚科学会広島地方会	2012年9月9日	広島市
術後再発した化膿性肉芽腫の 1 例	梅田直樹 秋本成宏 吉屋直美 森川博文 山田悟	第 131 回 日本皮膚科学会広島地方会	2012年9月9日	広島市
当院における多様な症状を呈した乳房外 Paget 病についての検討	秋本成宏 森川博文 梅田直樹 吉屋直美 木矢絢子 中村史江 臺丸裕	第 64 回 日本皮膚科学会西部支部学術大会	2012年10月27～28日	広島市
Buried chip skin fraft (別名; 田植え法) の有用性について	梅田直樹 秋本成宏 吉屋直美 森川博文 木矢絢子 中村史江 野田英紀	第 64 回 日本皮膚科学会西部支部学術大会	2012年10月27～28日	広島市
重症嚥下障害を伴った成人皮膚筋炎の消化管穿孔例	秋本成宏 森川博文 梅田直樹 吉屋直美 高路修	第 132 回 日本皮膚科学会広島地方会	2013年3月10日	広島市
臨床的に epidermal cyst (粉瘤) と考えた tailgut cyst の 1 例	梅田直樹 秋本成宏 森川博文 中光篤志	第 132 回 日本皮膚科学会広島地方会	2013年3月10日	広島市

## 泌尿器科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル化学療法の治療成績	高広悠平 川崎真実 丸山聡 小深田義勝	日本泌尿器科学会	2012年4月21～24日	横浜
広島総合病院における 2011 年版 入院手術統計	高広悠平 川崎真実 丸山聡 小深田義勝	日本泌尿器科学会広島地方会	2012年6月9日	広島

## 産婦人科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
ゾレドロン酸が骨転移に有効であった子宮癌の 2 例	濱崎晶 藤本英夫 中前里香子 中西慶喜	第 63 回広島産科婦人科学会	2012年9月2日	広島市
14 年の長期経過後に、局所再発・遠隔転移をきたした子宮頸部腺扁平上皮癌の 1 例	濱崎晶 藤本英夫 佐野祥子 中前里香子 中西慶喜	第 50 回日本癌治療学会	2012年10月25～27日	横浜市
腹腔洗浄細胞診が診断の契機となった子宮内膜癌の 1 例	濱崎晶 藤本英夫 佐々木充 佐野祥子 中前里香子 中西慶喜	第 38 回日本臨床細胞学会広島県支部総会	2013年2月2日	広島市



## 学会発表

## 眼科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
視野が改善した BRAO の一例	井上千絵	第 262 回広島眼科症例検討会	2012年 10月11日	広島市
トリパンプルー前囊染色の角膜内皮細胞への中・長期的影響	井上千絵 二井宏紀	第 71 回広島地方眼科学会	2012年 11月25日	広島市

## 耳鼻咽喉科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
結果として小細胞癌の化学療法が著効した鼻腔メラニン欠乏性黒色腫の 1 例	横江裕幸 水野一志 兼見良典	日本耳鼻咽喉科学会 第 38 回中国四国地方部会連合学会	2012年6月 16~17日	広島市

## 放射線治療科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
乳房温存放射線治療後に経験した肺障害について	竹内有樹 桐生浩司	第 118 回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2012年6月 15~16日	岡山

## 麻酔科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
麻酔自動記録システム paperChart の元データから詳細に検討した術中覚醒の 4 例	西藤幸子 中尾正和 高田菜々子 本多亮子 新澤正秀 松本千香子	第 59 回日本麻酔科学会学術集会	2012年6月 7~9日	神戸
頭頸部手術における BIS モニターの各パラメーターへの影響の検討	大植香菜 中尾正和 新澤正秀 本多亮子 櫻谷正明 吉田研一	第 59 回日本麻酔科学会学術集会	2012年6月 7~9日	神戸
Balloon kyphoplasty(BKP) の麻酔管理	松本千香子 中尾正和 新澤正秀 本多亮子 高田菜々子 西藤幸子	第 59 回日本麻酔科学会学術集会	2012年6月 7~9日	神戸
頸椎手術における歯牙プロテクターの有効性の検討	高田菜々子 中尾正和 松本千香子 新澤正秀 本多亮子 西藤幸子	第 59 回日本麻酔科学会学術集会	2012年6月 7~9日	神戸
ロクロニウム使用時の筋弛緩モニター TOF-watch と薬物動態シミュレーションとの関連性の検討	西藤幸子 中尾正和 梅田絢子 本多亮子 新澤正秀 松本千香子	第 19 回日本静脈麻酔学会学術集会	2012年9月 29日	札幌
汎用喉頭鏡をビデオ喉頭鏡に変身させる小型ビデオカメラ利用の変遷	中尾正和 片岡宏子 梅田絢子 新澤正秀 本田宏子 西藤幸子 松本千香子	第 30 回日本麻酔集中治療テクノロジー学会	2012年 12月8日	鹿児島

## 救急・集中治療科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
遺伝子組み換え型ヒトトロンボモジュリン投与の臨床的検討	吉廣尚大 櫻谷正明 吉田研一	第 15 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会	2012年6月 16~17日	熊本
HFOV (R 100) の初期管理について	櫻谷正明 吉田研一 近藤文博	第 37 回 日本呼吸療法医学会学術総会 (HFOV フォーラム)	2012年7月 14~15日	宜野湾沖繩
HFOV (R 100) の初期管理について 8Hz vs. 10Hz を比べて	櫻谷正明 吉田研一 近藤文博	第 37 回 日本呼吸療法医学会学術総会 (HFOV フォーラム)	2012年7月 14~15日	宜野湾沖繩
当院における SBT (自発呼吸試験) の検討	曾我嘉博 荒田晋二 櫻谷正明 吉田研一	第 37 回 日本呼吸療法医学会学術総会 (HFOV フォーラム)	2012年7月 14~15日	宜野湾沖繩
開心手術症例に SBT を用いた人工呼吸器からの weaning は安全か	荒田晋二 曾我嘉博 櫻谷正明 吉田研一	第 37 回 日本呼吸療法医学会学術総会 (HFOV フォーラム)	2012年7月 14~15日	宜野湾沖繩

## 学会発表

多臓器不全を呈した劇症1型糖尿病の一例	田口慧 吉田研一	櫻谷正明	第40回 日本救急医学会 総会・学術集会	2012年 11月13～ 15日	京都
当院ICUにおける肺炎患者の予後比較 (CAP, NHCAP, HAPに分類して)	櫻谷正明	吉田研一	第40回 日本救急医学会 総会・学術集会	2012年 11月13～ 15日	京都
急性腹症で来院し、CTにて中結腸動脈瘤の破裂を認め、分節性動脈中膜融解(SAM)が疑われた一例	河村夏生 吉田研一	櫻谷正明	第40回 日本救急医学会 総会・学術集会	2012年 11月13～ 15日	京都
High Flow Volume CHDFの有用性	石内直樹 櫻谷正明	河村夏生 吉田研一	第40回 日本救急医学会 総会・学術集会	2012年 11月13～ 15日	京都
オープン型ICUで栄養サポートチーム(NST)活動を開始して	河村夏生 吉田研一	櫻谷正明	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
ICUにおける栄養サポートチーム(NST)の活動を振り返る ～看護師へのアンケート調査より～	小田浩子 河村夏生 吉田研一	妙田奈緒 櫻谷正明	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
SAT(覚醒トライアル)中の注意点	岡田明子 河村夏生 吉田研一	伊藤美奈 櫻谷正明	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
経皮的心肺補助法(PCPS)脱血管が動脈を貫通し静脈に刺入 されていた肺動脈血栓塞栓症の一例	高場章宏 河村夏生 小林平	吉田研一 櫻谷正明	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
人工呼吸管理中に閉塞性黄疸を来たし、無鎮痛無鎮静で管理 した一例	櫻谷正明	吉田研一	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
High Flow Volume CHDFの有用性	曾我嘉博 櫻谷正明	荒田晋二 吉田研一	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
「抜管後の呼吸管理」にNPPV(非侵襲的陽圧換気)をどのように 使うか?	荒田晋二 櫻谷正明	曾我嘉博 吉田研一	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野
遺伝子組み換え型ヒトロンボモジュリンの投与回数について の比較検討	吉廣尚大 吉田 研一	櫻谷正明	第40回 日本集中治療医学 会学術集会	2013年2月 28～ 3月2日	松本 長野

## 健康管理センター

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
食塩摂取量簡易測定器を利用した高血圧予防のための個別支 援の試み	野村恵美 林直子 長田恵美子 東千穂 増本順子 川村洋子 久保知子 碓井裕史	減塩サミット in 呉 2012	2012年5月 26～27日	広島市
当院健康管理センターにおけるフォローシステム構築への取 り組み	川村洋子 野村恵美 林直子 長田恵美子 東千穂 増本順子 久保知子 碓井裕史	第53回日本人間ドック学会	2012年9月 1～2日	東京都
当センターの特定保健指導利用率向上への検討	長田恵美子 野村恵美 林直子 東千穂 増本順子 川村洋子 久保知子 碓井裕史	第61回日本農村医学会学術 総会	2012年11 月1～2日	島根県 松江市

## 病理研究検査科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
小児の舌に発生した胞巣状軟骨肉腫(ASPS)の1例	岡本淳子 上國愛 永田郁子 井町海太 台丸裕	第51回日本臨床細胞学会秋 期大会	2012年11 月9～10日	新潟

## 看護部長室

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
看護基礎教育における避難所運営机上シミュレーションの試 み ～災害看護学の学びの集大成としての有用性の検討～	寺田英子	日本災害看護学会第14回年 次大会	2012年7月 28～29日	名古屋

## 学会発表

## 看護部西 3 階

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
SAT（覚醒トライアル）中の注意点	岡田明子 伊藤美奈	第 40 回日本集中治療医学会 学術集会	2013年2月 28日～3月 2日	長野県 松本市
ICUにおける栄養サポートチーム（NST）の活動を振り返る ～看護師へのアンケート調査より～	小田浩子 妙田奈緒	第 40 回日本集中治療医学会 学術集会	2013年2月 28日～3月 2日	長野県 松本市

## 看護部西 5 階

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
固定チームナーシングにおける受け持ち制を導入しての評価 ～患者満足度調査を実施して～	田部ちひろ 北村優貴 南原みゆき	平成 24 年固定チームナーシ ング全国研修会	2012年9月 30日	兵庫県 神戸市

実績

## 看護部東 4 階

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
リーダー経験 2 年目以上の看護師のリーダー業務におけるス トレス	小西香理 畝小百合	第 43 回日本看護学会学術集 会 看護総合	2012年8月 23～24日	静岡市
看護師の夜勤におけるストレス要因	唐藤純子 西森千華	第 43 回日本看護学会学術集 会 看護管理	2012年10 月2～3日	京都市
小児科病棟における食物負荷試験の検討と課題	岡野明日香 長田昌子	第 61 回日本農村医学学術集 会	2012年11 月1～2日	島根県 松江市

## 看護部東 6 階

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
経尿道的前立腺切除術後のベッド上安静によって起こる腰痛 に対する看護	山下明美 細美夏子	第 38 回広島病院学会	2013年2月 17日	広島市

## 看護部東 7 階

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
肺切除術後におけるネブライザーの必要性の有無 ～術後の排痰促進、術後肺炎予防の観点から～	佐伯ゆかり 古本直子 玉井良枝 松浦陽介 渡正伸	第 61 回日本農村医学会学術総 会	2012年11 月1～2日	松江市

## 薬剤部

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
クロスオーバー試験によるアスパルト 30mix とリスプロ mix25 の臨床的有効性の比較	瀧口幸子 大田博子 秋山朋子 日域邦昭 石田和史	第 55 回日本糖尿病学会年次 学術集会	2012年5月 18日	横浜
遺伝子組み換え型ヒトトロンボモジュリン投与の臨床的検討	吉廣尚大 櫻谷正明 吉田研一 大田博子	第 15 回日本臨床救急医学会 学術集会	2012年6月 16～17日	熊本
MRSA 菌血症に対するリネゾリド（LZD）、バンコマイシン （VCM）初期投与の有効性の検討	中島恵子 稲田淑江 角井碧 正島和美 寺澤千佳子 大田博子	第 61 回日本農村医学会学術 総会	2012年11 月1～2日	松江
病棟における望ましい薬剤師のあり方とは	正島和美 池部晃司 今本紀生	第 28 回日本環境感染学会総 会	2013年3月 1～2日	横浜
抗 EGFR 抗体使用時における皮膚科連携とその効果	埋橋賢吾 藪田ゆみ 白井敦史 中島恵子 只佐正嗣 大田博子	第 2 回日本臨床腫瘍薬学会学 術集会	2013年3月 17～18日	千葉

## 学会発表

## 臨床研究検査科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
膿胸を呈した胸水中に Teratrachomonas.sp を認めた 1 症例	荒瀬美幸 森下未来依 本田愛 山下美香 三舛正志 水野誠士 山田一夫	第 45 回中四国支部医学検査学会	2012年11月3～4日	岡山市
小児マイコプラズマ感染症の診断における遺伝子検査の有用性— LAMP 法を含めて—	池田光泰 丸山恭平 福岡達仁 水野誠士 碓井裕史 山田一夫	第 45 回中四国支部医学検査学会	2012年11月3～4日	岡山市
全自動尿中有形成分分析装置 UF1000i 導入後の運用について	中山沙織 平田奈津美 森下未来依 本田愛 荒瀬美幸 山下美香 三舛正志 水野誠士 山田一夫	第 30 回広島県医学検査学会	2013年3月9～10日	呉市

## 中央放射線科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
Mean Square Error を用いた逐次近似法を応用した画像再構成法の定量評価～ kernel と FOV の影響について～	田丸隆行 山口裕之 高畑明 松村祐輔 重田祐輔 貝原雄也 藤川光一	日本放射線技術学会	2012年4月12～15日	横浜

## 臨床工学科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
呼吸サポートチーム運用開始 1 年を振り返って	荒田晋二 竹内邦夫	広島県臨床工学技士会学術大会	2012年4月29日	広島県
プロトコルを用いた人工呼吸器からの weaning	荒田晋二 竹内邦夫	日本臨床工学技士会学術大会	2012年5月12～13日	富山県
大動脈弁置換術後に維持透析を離脱した 1 例	田中恵子 竹内邦夫	日本透析医学会	2012年6月22～24日	北海道
当院における RST 活動	荒田晋二 竹内邦夫	熊本セッションセミナー	2012年7月3日	熊本県
開心術後の呼吸管理と SBT	荒田晋二 竹内邦夫	日本呼吸療法医学会	2012年7月14～15日	沖縄県
自発呼吸試験 (SBT) の検討	曾我嘉博 竹内邦夫			
当院における集中治療室での臨床工学技士の関わり	荒田晋二 竹内邦夫	広島セッションフォーラム	2012年7月28日	広島県
ASV 管理における臨床工学技士の役割	荒田晋二 竹内邦夫	循環器疾患と睡眠呼吸障害を考える会	2012年11月1日	広島県
ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) が疑われアルゴドロンを用いて経皮的心肺補助 (PCPS) を施工した 1 症例	荒田晋二 竹内邦夫	中四国臨床工学技士会学術大会	2012年11月24～25日	香川県
人工呼吸器装着患者の在宅医療支援 (HST) における臨床工学技士の関わり	田中恵子 竹内邦夫	中四国臨床工学技士会学術大会	2012年11月24～25日	香川県
当院におけるペースメーカー業務の現状と今後	畑ヶ迫真也 竹内邦夫	中四国臨床工学技士会学術大会	2012年11月24～25日	香川県
在宅医療支援チーム HST (Homu medical care Support Team)	田中恵子 竹内邦夫	広島県農村医学会	2013年2月16日	広島県
抜管後の呼吸管理に NPPV (非侵襲的陽圧換気) をどのように使うか	荒田晋二 竹内邦夫	日本集中治療学会学術集会	2013年2月28日	長野県

## 学会発表

## リハビリテーション科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における急性心筋梗塞後心臓リハビリテーションの立ち上げ	下田喜子 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 味村裕美 本間智明 小山明子 井場 和敏 小林平 藤田寿賀 丸澤葉志子 久留島秀治	第18回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2012年7月14～15日	さいたま市
開心術後患者の在宅における心リハ継続阻害因子—理学療法士の視点から—	本間智明 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 味村裕美 小山明子 井場和敏 下田喜子 折手祐一 名井幸香 上田雅美 後藤優佳 小林平	第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2012年7月14～15日	さいたま市
開心術後の嚥下障害合併の要因検討～改善群と残存群の違いは？～	上田雅美 小林平 後藤優佳 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 味村裕美 小山明子 井場和敏 本間智明 飛鷹恵理 下田喜子 折手祐一 名井幸香 前田和樹 川本純	第20回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2012年7月14～15日	さいたま市
開心術後患者の在宅における心リハ継続阻害因子—運動療法継続率から考える—	本間智明 上野忠活 小林平	第26回中国ブロック理学療法士学会	2012年8月25～26日	廿日市市
開心術後の嚥下障害合併の要因検討	上田雅美 小林平 後藤優佳 池永佑佳 上野忠活	第17・18回共催日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会	2012年8月31～9月1日	札幌市

実績

## 栄養科

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
心臓リハビリテーションにおける管理栄養士介入の効果を考える	長曾我部弘子 松下有紀 河本良美 本間智明 小林平	第18回心臓リハビリテーション学会学術集会	2012年7月14～15日	大宮市
24時間尿比例採取器を用いた食事介入は糖尿病合併慢性腎臓病患者の食事を改善するか	三浦満美子 中西弘子 河本良美 荒川哲次 石田和史 坂田良子 平林晃 (医療社団法人スマイル 広島ベイクリニック)	第50回糖尿病学会 中四国地方会	2012年11月16～17日	松江市

## 感染防止対策室

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
POT法を活用したMRSA院内伝播の抑制に向けた取り組み	今本紀生 池部晃司 正島和美	第28回日本環境感染学会	2013年3月1～2日	横浜
広島総合病院・地域連携合同カンファレンスの紹介	今本紀生 今村祐司	第23回佐伯医学会総会	2012年11月3日	広島

## 緩和ケア科・緩和ケアチーム

演題	発表者・協同研修者名	学会名	開催期間	開催都市
A病院におけるエンゼルケア見直しについて	高原さおり 古本直子 岡田恵美子	日本緩和医療学会	2012年9月6～7日	帯広

# 学会での座長

## 循環器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
佐伯地区医師会学術講演会	藤井隆	循環器関係	2012年5月22日	廿日市市
第100回日本循環器学会中国地方会	藤井隆	虚血性心疾患部門	2012年6月22日	広島市
第21回日本心血管インターベンション治療学会・学術集会 (CVIT2012)	藤井隆	GE ランチョンセミナー	2012年7月13日	新潟市
佐伯地区医師会学術講演会	藤井隆	循環器関係	2012年9月27日	廿日市市

## 糖尿病・代謝内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第50回日本糖尿病学会中国四国地方会	石田和史	合併症（神経障害）	2012年11月16日	松江市

## 消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第97回日本消化器病学会中国支部例会	藤本佳史	胆道1	2012年5月26日	広島市
第23回佐伯医学会総会	石田邦夫		2012年11月3日	廿日市市
第109回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	藤本佳史	一般演題：胆道2	2012年12月2日	宇部市

## 小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第49回日本小児アレルギー学会	岡島宏易	喘息疫学	2012年9月15日	大阪

## 脳神経外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
佐伯区医師会学術講演会	黒木一彦		2012年7月24日	広島

## 皮膚科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第64回日本皮膚科学会西部支部学術大会	森川博文	痒疹・紅斑症	2012年10月27～28日	広島市

## 麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第19回日本静脈麻酔学会学術集会	中尾正和	基礎研究	2012年9月29日	札幌

## 薬剤部

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第61回日本農村医学会学術総会	大田博子	ポスター	2012年11月1日～2日	松江

## 中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第8回中四国放射線医療技術フォーラム	小濱千幸	「わかりやすい研究倫理の話」	2012年10月28日	松山

## 臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
中国四国 PMMA-CHDF 技術検討会	曾我嘉博	CHDF 施工中のトラブルと対策	2012年12月1日	愛媛県

## 研究会講演・発表

## 呼吸器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第4回呉心不全・陽圧呼吸セミナー	NIVの可能性と限界について	近藤文博	2013年2月9日 国立病院機構呉医療センター	フィリップス・レスピロニクス合同会社

## 循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第1回WIC	巨大右冠動脈に発症したAMIの一例	久留島秀治	2012年5月18日 アステラス製薬広島大会議室	アステラス製薬
第3回廿日市市薬業研修会学術講演会	慢性心不全の病態と治療	辻山修司	2012年5月24日 宮島コーラルホテル	廿日市市薬剤師会 / 武田薬品
東広島医療センター勉強会学術集会	MDCT関係の講演		2012年6月1日 東広島医療センター(東広島市)	
第49回広島循環器病研究会	化膿性脊椎炎を併発した感染性心内膜炎の一例	新田和宏 政田賢治 佐倉拓朗 久保祐美子 荘川知己 久留島秀治 前田幸治 辻山修司 藤井隆 (循環器科) 前田和樹 小林平 川本純 (心臓血管外科)	2012年6月9日 広島市; エソール歯科医師会館	
高血圧トピックス公開討論セミナー	パネリスト	荘川知己	2012年7月12日 リーガロイヤルホテル広島	ノバルティス
PAD研究会	0.035inchワイヤーで容易に通過し得た左総腸骨動脈完全閉塞の一例	久留島秀治	2012年8月5日 小倉記念病院	
第8回せとうち心臓核医学研究会	Fusion Imageが治療方針に有用であった心筋梗塞の1例	荘川知己	2012年8月25日 広島グランドインテリジェントホテル	日本メジフィジックス
肺高血圧症の治療を考える会	ダナポイント分類3群の肺高血圧症に対する治療経験	荘川知己	2012年9月19日 ホテルグランピア広島	日本新薬株式会社
トルバプタン研究会	Tolvaptanと歩んできた道 ～カテ屋がサムすかと出会ってから～	辻山修司	2012年9月21日 大牟田天領病院福祉センター	大塚製薬
佐伯地区医師会学術講演会	基礎からの肺高血圧症	荘川知己	2012年9月27日 佐伯地区医師会 交流プラザ	アクテリオンファーマシューティカルジャパン
Resolute-Integrity 症例検討会	側枝ワイヤー抜去に難渋したLAD起始部を病変としたACSの一例	久留島秀治	2012年12月14日 オリエンタルホテル広島	日本メドトロニック
第50回広島循環器病研究会	造影CT検査によるAutopsy Imaging (Ai)の有用性 ～JA広島総合病院のER患者の1例～	天野愛純香 藤井隆 久保祐美子 佐倉拓朗 久留島秀治 荘川知己 前田幸治 辻山修司 (循環器科) 河村夏生 吉田研一 (救急部) 田村彰久 太刀掛俊浩 (画像診断部) 下土居一 山口裕之 (中央放射線科(技師))	2012年12月15日 広島市; エソール歯科医師会館	
霞心不全研究会	慢性肺塞栓症性肺高血圧症 (CTEPH) にアンプリゼンタンを使用した1例	荘川知己	2013年2月22日 広島大学循環器内科医局	第一三共株式会社
佐伯地区医師会学術講演会	動脈硬化 vs 脂質異常症 ～beyond LDL～	藤井隆	2013年2月26日 佐伯地区医師会 交流プラザ	塩野義製薬
心不全 水利尿薬 勉強会	Tolvaptanと歩んできた道 ～カテ屋がサムすかと出会ってから～	辻山修司	2013年2月26日 ホテルアソシア豊橋	大塚製薬
アジルバWEB講演会	心不全診療と病診連携	辻山修司	2013年3月7日 武田薬品広島支店/ 各サテライト会場	武田薬品

## 研究会講演・発表

第28回せとうち心臓CT・MR勉強会	巨大冠動脈周囲腫瘍の形成過程を観察し得たIgG4関連疾患の一例	久保祐美子 久留島秀治 荘川知己 辻山修司	藤井隆 佐倉拓朗 前田幸治	2013年3月9日 松山市；コミュニティプラザ・研修センター	
--------------------	---------------------------------	--------------------------------	---------------------	-----------------------------------	--

## 糖尿病・代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第12回 広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病治療薬の上手な併用の方法 ～合剤を含めて～	石田和史	2012年4月11日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・アストラゼネカ
第2回糖尿病薬物療法セミナー	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年4月13日 岡山済生会総合病院（岡山県岡山市）	日本イーライリリー
備後インスリン治療を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年4月20日 福山労働会館みやび（広島県福山市）	日本イーライリリー
埼玉東南部地区糖尿病勉強会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年5月25日 サンシティホール（埼玉県越谷市）	日本イーライリリー
オープンカンファレンス	糖尿病医療連携/パスを用いた広島県西部地区糖尿病医療連携の取り組み ～地域全体の糖尿病診療における質の向上・均一化をめざして～	石田和史	2012年5月31日 市立三次中央病院（広島県三次市）	広島県地域対策協議会、三次地区医師会、市立三次中央病院
糖尿病治療を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年6月14日 JRホテルクレメント高松（香川県高松市）	日本イーライリリー
広島総合病院オープンカンファレンス	GLP-1 作動薬による糖尿病治療	浅生貴子	2012年6月20日 広島総合病院大会議室（広島県廿日市）	広島総合病院
糖尿病インスリン治療勉強会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年6月22日 ホテルニューオータニ（東京都千代田区）	日本イーライリリー
オープンカンファレンス 糖尿病地域連携/パスについて	糖尿病医療連携/パスを用いた広島県西部地区糖尿病医療連携の取り組み ～地域全体の糖尿病診療における質の向上・均一化をめざして～	石田和史	2012年7月13日 安芸太田病院（広島県山県郡安芸太田町）	広島県地域対策協議会、安芸太田病院
東三河インスリン治療学術講演会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年7月21日 ホテルアソシア豊橋（愛知県豊橋市）	日本イーライリリー
安佐地区臨床懇話会	電流知覚閾値検査（CPT）の長期観察研究から見えてきた糖尿病神経障害の臨床	石田和史	2012年7月24日 オリエンタルホテル広島（広島市中区）	塩野義製薬
第13回 広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	急に体調を崩した糖尿病患者への対応 ～その時、見逃してはいけないことは？ 陥りやすい危険とは？～	石田和史	2012年8月8日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ジョソクインドジョソク
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病患者の足病変 ～病態生理から治療まで～	石田和史	2012年8月17日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
ピクトーザ皮下注 18mg 症例検討会	糖尿病専門医からみたピクトーザの処方経験と有用性	石田和史	2012年8月30日 尾道国際ホテル（広島県尾道市）	ノボルディスクファーマ
第2回 Diabetes focus day	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年8月31日 ホテルパークサイド上野（東京都台東区）	日本イーライリリー
インスリンアナログ混合製剤の可能性を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年9月1日 ラヴィール岡山（岡山県岡山市）	日本イーライリリー
インスリンアナログ混合製剤を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年9月21日 京王プラザホテル（東京都新宿区）	日本イーライリリー
府中インスリン治療を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年9月28日 府中市民病院（広島県府中市）	日本イーライリリー



## 研究会講演・発表

インスリンアナログ混合製剤を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2012年10月12日 京王プラザホテル (東京都新宿区)	日本イーライリリー
東広島地区連携の会	インクレチン関連薬による糖尿病治療の新たな展開 ～その使いどころとは？～	石田和史	2012年10月24日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	ノバルティスファーマ
五日市地区糖尿病勉強会	経口血糖降下薬の違いを理解して糖尿病患者の診療・看護に活かしましょう	石田和史	2012年10月26日 五日市記念病院 (広島市佐伯区)	小野薬品工業
広島プライマリケア・セミナー	インクレチン関連薬の使いどころ	石田和史	2012年11月27日 AVAクラウンプラザホテル広島 (広島市中区)	田辺三菱製薬
ジャヌビア錠 発売3周年記念講演会	シタグリプチンの登場が糖尿病臨床にもたらした効果の検証	石田和史	2012年11月30日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	MSD
第2回広島糖尿病療養指導士受験者講習会	療養指導各論～薬物療法～	石田和史	2012年12月9日 広島医師会館 (広島市西区)	広島県糖尿病療養指導士認定機構
第14回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	実践！インスリン治療のケーススタディ～インスリン投与量の調整法、習得をめざして～	石田和史	2012年12月12日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本イーライリリー
山陽女子短期大学 臨床検査学科 臨床病態学Ⅰ 特別講演	進化を続ける糖尿病臨床と臨床検査の関わり	石田和史	2012年12月14日 山陽女子短期大学 (広島県廿日市市)	山陽女子短期大学
大竹市糖尿病懇話会	急に体調を崩した糖尿病患者への対応～その時、見逃してはいけないことは？陥りやすい危険とは？～	石田和史	2013年1月25日 エスポワールおおたけ (広島県大竹市)	MDS
東備糖尿病治療懇話会	日常臨床の経験から見てきたインスリン・インクレチン関連薬の相違 ～糖尿病患者さんにとって、より有益な治療をめざして～	石田和史	2013年1月31日 おさふねサービスエリア (岡山県瀬戸内市)	日本イーライリリー
第57回呉内科会総会・学術講演会	糖尿病医療連携パスを用いた広島県西部地区糖尿病医療連携の取り組み ～地域全体の糖尿病診療における質の向上・均一化をめざす県下初の糖尿病センター設立～	石田和史	2013年2月9日 呉阪急ホテル (広島県呉市)	呉内科会・アステラス製薬
実践糖尿病治療フォーラム	さらに多彩となった経口糖尿病薬治療の実際～DPP-4阻害薬の登場がもたらしたものは？～	石田和史	2013年2月14日 オリエンタルホテル 広島 (広島市中区)	キッセイ薬品工業
屋島地区糖尿病治療を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2013年2月22日 ホテルパールガーデン (香川県高松市)	日本イーライリリー
今治地区糖尿病セミナー	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2013年3月1日 今治国際ホテル (愛媛県今治市)	日本イーライリリー
第46回愛媛糖尿病チーム医療研修会18周年記念オープンセミナー	電流知覚閾値検査(CPT)の長期観察研究から見てきた糖尿病神経障害の臨床	石田和史	2013年3月2日 愛媛県看護協会看護研修センター (愛媛県松山市)	愛媛糖尿病チーム医療研修会
三次市糖尿病症例検討会	さらに多彩となった経口糖尿病薬治療の実際～DPP-4阻害薬の登場がもたらしたものは？～	石田和史	2013年3月8日 三次グランドホテル (広島県三次市)	キッセイ薬品工業
小松島市医師会学術講演会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2013年3月15日 おがわ (徳島県小松島市)	日本イーライリリー
広島プライマリケア・セミナー	糖尿病治療の基本に立ち返る	石田和史	2013年3月28日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	興和創薬

## 研究会講演・発表

## 消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第114回広島消化器病研究会	EUS-FNABが診断に有効であった卵巣癌胃転移の1例	瀧川英彦	2012年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
第114回広島消化器病研究会	膵癌の診療におけるMRIの有用性	藤本佳史	2012年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
第114回広島消化器病研究会	肝細胞癌に対するソラフェニブの使用経験（緩和ケアの介入を含めて）	小松弘尚	2012年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
第5回PBOCH	膵・胆管癌に対するS-1隔日投与の治療経験	瀧川英彦	2012年6月15日 広島市	イーライリリー
第5回Regional Interactive G.I. Doctors' Network	診断に難渋した腸炎2症例	冨永明子	2012年6月27日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
第2回西部地区がん診療オープンカンファレンス	当院における膵癌の診断と治療の現状	藤本佳史	2012年7月6日 廿日市市	大鵬
第450回薬事情報センター定例研修会	膵疾患の診断と治療	藤本佳史	2012年7月14日 広島市	
佐伯クリニシャンズグループ講演会	膵炎と膵癌	藤本佳史	2012年8月29日 広島市	佐伯クリニシャンズグループ
広島西部地区病病・病診連携勉強会	胃ろうの管理とその実践	徳毛宏則	2012年8月31日 広島市	原田病院、武田薬品
西部地区消化器癌をみつめる会	胆道系の癌をみつめる	藤本佳史	2012年10月4日 広島市	武田薬品
平成24年度がん対策サポートドクター養成研修会	広島県の緩和ケア	小松弘尚	2012年11月14日 廿日市市	広島県医師会
大竹・岩国地区胃腸疾患懇話会	症例呈示	宮森純子	2012年11月20日 大竹市	アストラゼネカ
Biliary Top Runners' Meeting in 山口	当院におけるERCPカニューレション	藤本佳史	2012年12月7日 宇部市	ボストンサイエンティフィック
第133回広島市薬剤師会生涯教育研修会	炎症性腸疾患診療の実際	徳毛宏則	2013年2月17日 広島市	広島市薬剤師会
第7回Regional Interactive G.I. Doctors' Network	内科的治療が有用であった肝細胞癌の症例について	野中裕広	2013年2月27日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
第7回Regional Interactive G.I. Doctors' Network	早期食道がんの診断と治療	古土井明	2013年2月27日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
第58回日本消化器画像診断研究会	EUS-FNABが有用であった膵神経鞘腫の1例	藤本佳史	2013年3月1日 那覇市	日本消化器画像診断研究会
第225回佐伯臨床研修会	膵癌の1例ー地域と連携した膵癌診療「膵がん・胆道がん教室のご案内」ー	藤本佳史	2013年3月26日 廿日市市	佐伯地区医師会

## 小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
呉小児科医会	小児アレルギー疾患の診断と治療	岡島宏易	2012年6月29日 呉	グラクソ・スミスクライン
広島小児アレルギー研究会	小児の消化管アレルギー県内調査	岡島宏易	2012年7月5日 広島	広島小児アレルギー研究会
西日本小児アレルギー研究会	J-PAC上コントロール良好であった喘息児の気道可逆性と肺機能の関係	岡島宏易	2012年8月18～19日 福岡	西日本小児アレルギー研究会
広島小児アレルギーフォーラム	広島県下における小児喘息の実態調査ーJPACを用いた2008年との比較ー	岡島宏易	2013年1月10日 広島	小野薬品
プロトピック軟膏小児用発売10周年記念講演会	広島県下小児科における小児アトピー性皮膚炎患者に対するタクロリムス軟膏使用実態調査について	岡島宏易	2013年2月14日 広島	マルホ

## 研究会講演・発表

## 外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第2回 ELPLATFORUM	高齢者進行大腸癌に対するオキサリプラチンベアスの化学療法施行例の検討	香山茂平	2012年6月15日 広島市	
大腸癌 small conference	当院における Bevacizumab の使用経験	香山茂平	2012年9月21日 広島市	
西部地区消化器癌をみつめる会	「肝臓癌をみつめる」	大下彰彦	2012年10月4日 広島市	
第3回 ELPLATFORUM	初回切除不能S状結腸癌同時性肝転移に対し FOLFOX+Cetuximab 療法と門脈塞栓術の併用により肝切除し得た一例	大下彰彦	2012年10月19日 広島市	
第9回佐伯地区医師会外科会総会・懇話会	大腸癌の肝転移の治療戦略	中村浩之	2012年11月8日 廿日市市	
第3回西部地区がん診療オープンカンファレンス	当院外科の大腸癌治療の現状	香山茂平	2012年12月13日 廿日市市	
第7回 RIGID Net	術前診断に難渋した肝原発 Sclerosed hemangioma の一例	大下彰彦	2013年2月25日 廿日市市	

## 整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
骨粗鬆症性椎体骨折を考える会 - 背骨の見立てと新治療法 -	骨粗鬆症性椎体骨折の新しい治療法 - 寝かせて治す時代は終わった -	高田治彦	2012年5月25日 広島	
第77回 西日本脊椎髄研究学会	胸腰椎移行部に高度後側弯変形を来した軟骨無形成症の1例	高澤篤之	2012年6月1日 福岡	
第3回和歌の浦低侵襲脊椎外科セミナー	骨粗鬆症性椎体骨折に対する Percutaneous Vertebral Augmentation	藤本吉範	2012年6月22日～23日 和歌山	招待講演
Taiwan Spine Summit Forum	Novel and minimally invasive intervention for low back pain associated with degenerative lumbar scoliosis in the elderly	藤本吉範	2012年7月28日 Hsinchu, Taiwan	招待講演
第50回広島脊椎髄セミナー	高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間腔バキューム内 PMMA 注入療法と保存療法の比較検討	山田清貴	2012年9月8日 広島	
広島整形外科研究会	胸腰椎・腰椎側弯に対する後方矯正固定術の治療成績	山田清貴	2012年9月15日 広島	
西部地区整形外科懇話会	腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy の手術成績	高澤篤之	2012年11月2日 広島	
第3回骨粗鬆症性椎体骨折研究会	Vertebroplasty と Kyphoplasty の現状 適応、成績、合併症	藤本吉範	2012年11月4日 神戸	招待講演
第78回西日本脊椎研究会	骨セメントを使用した経皮的椎体補強術の究極的課題	藤本吉範	2012年11月16日 福岡	招待講演
第78回 西日本脊椎研究会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績	山田清貴	2012年11月16日 福岡	
第78回 西日本脊椎研究会	骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に伴う遅発性神経障害に対する経皮的椎体形成術	中前稔生	2012年11月16日 福岡	
第78回東海脊椎髄病研究会	高齢者脊椎疾患に対する骨セメントを用いた低侵襲手術 - 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節と腰椎変性側弯症を中心に -	藤本吉範	2012年12月8日 名古屋	招待講演
市民公開講座 in 備後	腰痛 - 薬物療法について -	藤本吉範	2012年12月9日 福山	招待講演
中国地区症例検討会	軟骨無形成症に伴う胸腰椎後弯変形に対して脊椎後方固定術を施行した1例	中前稔生	2013年2月25日 広島	
第3回 OSG セミナー	頸椎椎間板ヘルニアの手術療法 - 後方法の立場から -	中前稔生	2013年3月23日 岡山	
The 2nd asian congress of minimally invasive spine surgery and techniques combined with the 6th MISS summit forum	Percutaneous transpedicular intervertebral vacuum PMMA injection for low back pain with degenerative lumbar scoliosis in the elderly	山田清貴	2013年3月29-30日 犬山	

## 研究会講演・発表

## 脳神経外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	JA 広島総合病院 脳卒中治療の現状	黒木一彦	2012年6月14日 広島	
第4回広島脳外科手術・手技研究会	JA 広島総合病院 脳神経外科の手術器具	黒木一彦	2012年7月11日 広島	武田
大塚製薬 講演会	脳疾患の症状あれこれ ～ちょっと変わった症状を見逃さない専門医の視点から～	黒木一彦	2012年10月5日 広島	
大竹医師会月例会	脳疾患の症状あれこれ ～ちょっと変わった症状を見逃さない専門医の視点から～	黒木一彦	2012年10月12日 大竹	
グラクソ社内講演	脳神経外科領域のけいれん疾患に対する治療経験	黒木一彦	2012年10月15日 広島	
院内カンファレンス	虚血性脳疾患 最近経験した特殊な症例の検討	黒木一彦	2012年11月21日 JA 広島総合病院	
広島地域 脳外科を語る会	脳神経外科領域のけいれん疾患に対する治療経験	黒木一彦	2013年2月6日 広島	
第4回 Hiroshima Epilepsy Conference	第4回 Hiroshima Epilepsy Conference	黒木一彦	2013年3月13日 広島	
医療安全講習	医療裁判を経験して	黒木一彦	2013年3月14日	
HiNTS 2012 春	急性椎骨動脈閉塞の1例	織田祥至	2012年4月20日 広島	サノフィ・アベンシス株式会社

## 心臓・血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第2回血管無侵襲診断セミナー	末梢動脈疾患の診断と治療	小林平	2012年7月28日 広島	日本血管検査法研究会共催

## 泌尿器科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
	Long-term and Low-dose Docetaxel administration for CRPC	高広悠平	2012年6月15日	
前立腺癌 Expert-Meeting	CRPC に対するドセタキセル化学療法の治療成績	丸山聡	2012年7月14日 尾道国際ホテル	武田薬品工業株式会社
前立腺癌 Expert-Meeting	奇妙な経緯をたどった前立腺癌の一例	丸山聡	2012年12月15日 グリーンヒルホテル尾道	武田薬品工業株式会社

## 耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広大 63 年入局耳鼻科医勉強会	当科でのオラペネムの使い方	兼見良典	2013年9月8日 広島市	Meiji Seika ファルマ株式会社
第17回広島上気道感染症研究会	鼻腔クリプトコッカス症の一例	兼見良典	2013年11月23日 広島市	広島上気道感染症研究会、日本耳鼻咽喉科学会広島県地方部会

## 放射線治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第24回広島乳腺疾患研究会	乳房温存放射線治療後に経験した肺障害について	桐生浩司 幸慎太郎 船越真人	2012年4月7日 広島国際会議場(広島)	広島乳腺疾患研究会
第8回広島放射線治療研究会	IMRT を用いて治療した stage I - III 前立腺癌の治療成績	竹内有樹 桐生浩司	2012年9月8日 アークホテル広島(広島)	広島放射線治療研究会

## 研究会講演・発表

第9回広島放射線治療研究会	食道癌根治的 CRT 後、再発腫瘍に対し幾度と再照射を施行した1例	竹内有樹 桐生浩司	2013年3月2日 アークホテル広島(広島)	広島放射線治療研究会
---------------	-----------------------------------	-----------	---------------------------	------------

## 画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第76回広島放射線診断カンファレンス	発熱、咳嗽、呼吸苦を主訴に来院した36歳男性の一例	西亀正代	2012年4月5日 広島大学	
第82回広島放射線診断カンファレンス	HCC 治療後に呼吸苦を来した54歳男性の一例	西亀正代	2012年6月7日 広島大学	
第94回広島放射線診断カンファレンス	頸部痛の一例	太刀掛俊浩	2012年10月4日 広島大学	

## 麻酔科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回脳神経外科ジョイントミーティング	麻酔管理の変遷 麻酔関連薬、投与手法、モニタリングについて	中尾正和	2012年11月12日 広島市	脳神経外科医の会・塩野義製薬

## 健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
JA 広島総合病院オープンカンファレンス	塩分摂取量簡易測定器を使用した高血圧改善のための保健指導	碓井裕史	2012年4月18日 JA広島総合病院 大会議室(広島県廿日市市)	JA 広島総合病院
広島県禁煙ネットワーク研究会	当院の禁煙活動の取り組み	久保知子	2012年10月27日 薬剤師會館(広島県広島市)	広島県禁煙支援ネットワーク

## 看護部西7階

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第9回広島県消化器内視鏡技師研究会	内視鏡的胆管膵管ドレナージ中のテープ固定について	三上理恵	2012年11月18日 RCC文化センター	広島県消化器内視鏡技師会

## 薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第3回廿日市市薬業連携研究会	循環器病棟における薬剤師の関わり	大原由希子	2012年5月24日 コーラルホテル	廿日市市薬剤師会
地域がん診療連携拠点病院医療従事者研修会	大腸癌化学療法における薬剤の特徴と注意点 - 内服フッ化ピリミジン系	埋橋賢吾	2012年6月6日 JA 広島総合病院大会議室	JA 広島総合病院ケモチーム
地域がん診療連携拠点病院医療従事者研修会	明日から出来る疼痛緩和(初級編)	磯貝明彦	2012年7月10日 JA 広島総合病院大会議室	JA 広島総合病院緩和ケアチーム
地域がん診療連携拠点病院医療従事者研修会	明日から出来る疼痛緩和(中級編)	磯貝明彦	2012年8月1日 JA 広島総合病院大会議室	JA 広島総合病院緩和ケアチーム
広島県病院薬剤師会	抗EGFR抗体使用時における皮膚科連携とその効果	埋橋賢吾	2012年8月31日 シェラトンホテル	広島県病院薬剤師会
第4回廿日市市薬業連携研究会	当院における肝炎患者へのアプローチ	大田博子	2012年11月7日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会
アービタックスコアセミナー	抗EGFR抗体使用時における皮膚科連携とその効果	埋橋賢吾	2013年1月31日 リーガロイヤルホテル広島	プリストルマイヤーズ・メルクセローノ

## 研究会講演・発表

## 臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
アークレイ オーション アカデミー 沖縄 2012	円柱の話	山下美香	2012年4月14日 沖縄	アークレイ・マーケティング株式会社
中地区研究会一般部会一 特別企画一	これで安心！関節液検査	山下美香	2012年7月28日 諫早市	(社)長崎県臨床検査技師 会
中地区研究会一般部会一 特別企画一	これで安心！精液検査	山下美香	2012年7月28日 諫早市	(社)長崎県臨床検査技師 会
中地区研究会一般部会一 特別企画一	これで安心！髄液検査	山下美香	2012年7月28日 諫早市	(社)長崎県臨床検査技師 会
幡多地区一般検査研修会	尿検査の基礎から尿沈渣の形態について	山下美香	2012年9月8日 四万十市	(社)高知県臨床検査技師 会
第32回広島感染症研究会	レクチャーセッション「LAMP法」「話題の検査の 現状と展望」	池部晃司	2012年11月10日 広島市	広島感染症研究会・メイ ジセイカファルマ株式会 社
アークレイ オーション アカデミー 2012 広島	一般検査に関する問題と解説	山下美香	2012年11月17日 広島市	アークレイ・マーケティング株式会社
平成24年度認定一般検査 技師研修会	精液検査	山下美香	2012年11月23～ 24日 盛岡市	(一社)日本臨床衛生検査 技師会
アークレイ オーション アカデミー九州 2012	円柱の話	山下美香	2012年12月15日 福岡市	アークレイ・マーケティング株式会社
第284回吉島病院オープン カンファレンス	院内検査・ここまでできる！感染症～LAMP法～	池田光泰	2013年1月10日 広島市	吉島病院
大阪府臨床検査技師会 一般検査部門研修会	一般検査の知識を広げよう！①精液検査について ②関節液検査について	山下美香	2013年1月27日 守口市	(社)大阪府臨床検査技師 会
中国・四国シーメンスヘ マトロジーセミナー	ADVA 情報が貧血原因の推測に役立つ1症例	森下未来依	2013年3月16日 岡山市	シーメンスメディカルソ リューションズ・ダイア グノスティクス株式会社
腎・泌尿器検査研究会 第8回学術集会	尿沈渣が早期診断に寄与した腎盂癌の一例	山下美香	2013年3月17～ 18日 東京	腎・泌尿器検査研究会

## 放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
平成24年度第3回広島県 診療放射線技師会研修会	Mean Square Error を用いた逐次近似法を応用した 画像再構成法の定量評価～最適ブレンド率と線量 低減について～	田丸隆行	2013年1月19日 エソール広島	広島県診療放射線技師会
山口乳腺画像研究会	「完璧ですか？そのポジショニング」	小濱千幸	2013年1月19日 山口大学医学部附属 病院	山口乳腺画像研究会・山 口県日本診療放射線技師 会

## リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第9回広島県言語聴覚士 会学術集会	シンポジウム ライフステージに対応した摂食嚥 下障害リハビリテーションと言語聴覚士急性期に おける摂食・嚥下障害への取り組み～急性期総合 病院における言語聴覚士の役割～	上田雅美	2013年3月10日 三原市	広島県言語聴覚士会
第9回広島県言語聴覚士 会学術集会	当院におけるがんのリハビリテーション～終末期 がん患者に対する言語聴覚士の役割～	後藤優佳	2013年3月11日 三原市	広島県言語聴覚士会

## 栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第12回広島県西部地区糖 尿病医療連携を進める会	西部DM3年間の経過報告「栄養士の立場から」	河本良美	2012年4月11日 廿日市市	広島県医師会糖尿病対策 推進会議
第4回廿日市市薬業連携 研修会	知っておきたい肝臓病と栄養の話	河本良美	2012年11月7日 廿日市市	廿日市市薬師会

## 研究会講演・発表

### 感染防止対策室

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
感染防止研究会	職業感染防止	今本紀生	2012年4月7日 岡山県衛生会館	
広島県院内感染対策研究会	ICNに聞く	今本紀生	2012年6月2日 広島市南区民文化センター	

# 研究会座長

## 循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第49回広島循環器病研究会	藤井隆	一般演題【虚血性心疾患の部】	広島県内循環器医師(複数)	2012年6月9日 広島市; エソール歯科医師会館	
第7西せと循環器研究会	藤井隆	冠動脈イメージングによるプラーク像と多価不飽和脂肪酸・酸化LDLとの関係	上枝正幸先生 (三豊総合病院 循環器内科 主任部長)	2013年2月1日 廿日市市: 安芸グラウンドホテル	

## 糖尿病・代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Diabetes Forum Insulin vs Incretin	石田和史	1) GLP-1 受容体作動薬の有用性 2) 持効溶解型インスリンが糖尿病治療を変える	1) かわむら内科クリニック 河村智一先生 2) 東海大学医学部腎・内分泌・代謝内科学准教授 鈴木大輔先生	2012年4月5日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	サノフィ・アベンティス
生活習慣病治療勉強会	石田和史	インクレチン関連薬の抗動脈硬化作用～ beyond glucose ～	昭和大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 平野勉教授	2012年6月8日 廿日市商工会議所 (広島県廿日市市)	ノバルティスファーマ
広島西部地区ネシーナ錠発売2周年記念学術講演会	石田和史	最近の糖尿病治療薬に関する考え方	東京都済生会中央病院糖尿病・内分泌内科担当部長 島田朗先生	2012年6月28日 広島サンプラザ (広島市西区)	武田薬品工業
広島西部地区トラゼンタ錠発売一周年記念講演会	石田和史	2型糖尿病の新しい治療戦略	久留米大学医学部糖尿病性血管合併症病態・治療学講座 山岸昌一教授	2012年9月10日 廿日市商工会議所 (広島県廿日市市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム

## 消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第114回広島消化器病研究会	藤本佳史	VIII 演題 16.17.		2012年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
第5回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	小松弘尚	炎症性腸疾患の病態に関する最近の話題	上野義隆	2012年6月27日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
第2回西部地区がん診療オープンカンファレンス	徳毛宏則	当院における膵癌の診断と治療の現状	藤本佳史	2012年7月6日 廿日市市	大鵬
第2回西部地区がん診療オープンカンファレンス	徳毛宏則	膵癌の早期診断から非切除治療の進歩	井岡達也	2012年7月6日 廿日市市	大鵬
第6回 PDN セミナー 「PEGがわかる!! ～歴史からトラプシューティングまで～」	徳毛宏則	ワークショップ: 合併症		2012年8月4日 三次市	PDN
第6回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	徳毛宏則	酸関連疾患をとりまく日常診療の落とし穴	伊藤公訓	2012年10月26日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
平成24年度がん対策サポートドクター養成研修会	石田邦夫	たとえがんを扱うことはなくても、がん対策は支援できる!		2012年11月14日 廿日市市	広島県医師会
第9回広島県消化器内視鏡技師研究会	小松弘尚	来年も受けたいくなる上部消化管内視鏡検査の前処置-鎮静とミンクリアの話-	今川敦	2012年11月18日 広島市	広島県消化器内視鏡技師会
第3回西部地区がん診療オープンカンファレンス	小松弘尚	安全確実な大腸 ESD を目指して	田中信治	2012年12月13日 廿日市市	大鵬
第7回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	徳毛宏則	症例検討		2013年2月27日 廿日市市	RIGID Net、アストラ、第一三共
第8回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	胃瘻という選択・あなたならどうする? -胃瘻を正しく理解活用するため-		2013年3月16日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会



## 研究会座長

## 小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島小児アレルギー研究会	岡島宏易	小児の消化管アレルギー県内調査などの一般演題	岡島宏易、他	2012年7月5日 広島	広島小児アレルギー研究会
キプレス細粒発売5周年記念講演会	岡島宏易	小児気管支喘息における臨床的コントロール状況と肺機能、気道過敏性についての検討	辻徹郎	2012年10月30日 広島	杏林製薬

## 脳神経外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部圏域 てんかん研究会	黒木一彦			2012年5月9日 広島	グラクソ
佐伯地区医師会学術講演会	黒木一彦	アルツハイマー型認知症 診断と治療	宮地隆史	2012年10月25日 広島	

## 心臓・血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第1回広島PADフォーラム	小林平	バスキュラーラボの現状と問題点	東幸仁	2012年9月21日 広島	大塚製薬株式会社主催

## 産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部地区産婦人科医学会	中西慶喜	子宮内膜症の謎を探る	前田長正	2012年6月21日 広島サンプラザ	西部地区産婦人科医学会 日本新薬株式会社
広島県西部地区産婦人科医学会	中西慶喜	子宮内膜症を見据えた月経困難症の治療	太田郁子	2012年10月18日 広島サンプラザ	西部地区産婦人科医学会 バイエル薬品株式会社

## 耳鼻咽喉科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第17回広島上気道感染症研究会	兼見良典	「深頸部膿瘍の検討」「キノロン系抗菌薬の連用に起因すると思われる口腔急性偽膜性カンジダ症の一例」「鼻腔クリプトコッカス症の一例」	岡林大渡部泰輔 兼見良典	2012年11月22日 広島市	広島上気道感染症研究会、日本耳鼻咽喉科学会広島県地方部会

## 麻酔科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第11回広島西部救急研究会	中尾正和	総合診療の光と影	金地研二	2012年11月7日 はつかいち文化ホール	広島西部救急研究会

## 薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第3回廿日市市薬業連携研修会	大田博子	慢性心不全の病態と治療	辻山修司	2012年5月24日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会
第4回廿日市市薬業連携研修会	大田博子	癌化学療法時などにおけるB型肝炎ウイルス再活性化問題について	石田邦夫	2012年11月7日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会

## 臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
アークレイ臨床検査セミナー 2012 広島	山下美香	尿沈渣の基本から悪性細胞を見逃さない鏡検テクニック	八木靖二	2012年4月7日 広島市	アークレイ・マーケティング株式会社

## 研究会座長

アークレイ 臨床検査セミナー 2012 広島	山下美香	腎臓からの警鐘、尿は語る	佐々木環	2012年4月7日 広島市	アークレイ・マーケ ティング株式会社
第4回シーメンスセミナー	水野誠士	プロカルシトニンの基礎的検討	倉田哲一	2012年6月16日 広島市	シーメンスメディカ ルソリューション ズ・ダイアグノス ティックス株式会社
第4回シーメンスセミナー	水野誠士	甲状腺疾患と検査について	武市宣雄	2012年6月16日 広島市	シーメンスメディカ ルソリューション ズ・ダイアグノス ティックス株式会社
生物化学部門・標準化委員 会合同研修会	水野誠士	平成23年度広島県内基幹施設・ 参加施設の標準化事業報告1	津川和子	2012年6月30日 広島市	(一社) 広島県臨床 検査技師会
生物化学部門・標準化委員 会合同研修会	水野誠士	平成23年度広島県内基幹施設・ 参加施設の標準化事業報告2	兼丸恵子	2012年6月30日 広島市	(一社) 広島県臨床 検査技師会
生物化学部門・標準化委員 会合同研修会	水野誠士	平成23年度広島県内基幹施設・ 参加施設の標準化事業報告3	塔村亜貴	2012年6月30日 広島市	(一社) 広島県臨床 検査技師会
シスメックスユリナリシス セミナー IN 広島	山下美香	CKD (慢性腎臓病) と CVD (心 血管疾患) ~ CKD における CVD 発 症のメカニズムの一端を考える~	加藤裕一	2012年10月20日 広島市	シスメックス株式会 社
シスメックスユリナリシス セミナー IN 広島	山下美香	糖尿病性腎症発症進展メカニズム の解明と今後の展望	深水圭	2012年10月20日 広島市	シスメックス株式会 社

## 中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第14回CTテクノロジーセ ミナー	田丸隆行	CT基礎	藤村一郎	2013年3月16日 エソール広島	CTテクノロジーセ ミナー・エーザイ株 式会社
第24回乳腺診断フォーラム 広島	小濱千幸	症例検討		2013年6月24日 広仁会館	広島乳腺フォーラ ム・日本化薬

## 地域活動

### 循環器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第5回 市民公開講座	藤井隆 辻山修司	市民一般	2012年6月17日 廿日市市；はつかいち文化ホールさくらびあ	JA 広島総合病院	644人

### 糖尿病・代謝内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
あいプラザまつり「糖尿病テーマパーク～病診連携について～」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2012年11月4日 あいプラザ（廿日市市）	廿日市市	202人
第3回広島いちがたの会	石田和史	1型糖尿病患者&家族、糖尿病医療従事者	2012年12月2日 RCC文化センター（広島市中区）	いがくりの会・広島県健康糖友会・広島もみじの会・日本イーライリリー	90人
JA 広島総合病院第6回市民公開講座	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2013年1月27日 はつかいち文化ホールさくらびあ（広島県廿日市市）	JA 広島総合病院・廿日市市	869人

### 小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
大竹市保健主事研修会	岡島宏易	学校保健主事	2012年6月13日 大竹	大竹市教育委員会	30人
第一回広島県食物アレルギー対策事業検証会議	岡島宏易	県内関係者	2012年9月13日 広島	広島県	20人
大野東中学校校内研修会	岡島宏易	教職員	2012年12月5日 廿日市	大野東中学校	30人
第二回広島県食物アレルギー対策事業検証会議	岡島宏易	県内関係者	2013年2月19日 広島	広島県	20人

### 脳神経外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
平成24年度広島県集団災害医療救護訓練	DMAT		2012年10月28日 広島県庁	広島県	
第11回西部救急研究会 事務局	黒木一彦		2012年11月7日 さくらびあ		115人
山陽女子看護学校講義	黒木一彦		2012年12月19日		
脳卒中チーム医療連携会議	黒木一彦	シンポジスト			
四季が丘防災訓練	DMAT		2013年3月3日		

### 放射線治療科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
(医師を対象にした) 緩和ケア講習会	桐生浩司	医師	2012年5月27日、6月3日 広島総合病院大会議室	広島総合病院	
(医師を対象にした) 緩和ケア講習会	桐生浩司	医師	2012年6月30日、7月1日 三次ロイヤルホテル	市立三次中央病院	
(医療従事者を対象にした) 放射線治療講習会	桐生浩司 河野佐代子	医療従事者	2012年8月28日 広島総合病院大会議室	広島総合病院	

## 地域活動

## 麻酔科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS 講習会 コースディレクター	中尾正和	広島総合病院 新研修医	2012年4月12日 広島総合病院	広島総合病院	12人
院内 AED 研修会	中尾正和	一般職員	2012年9月18、21、 25日 広島総合病院	広島総合病院	45人
広島西 MC 協議会症例研究会	中尾正和	救急隊、医療 関係者	2012年10月13日 佐伯地区医師会館	広島西 MC 協議会	30人
第6回広島西 MC 外傷セミナー	中尾正和	研修医、看護 師、救急隊員	2012年11月17日 廿日市市商工保健会 館	広島西 MC 協議会	20人
自動体外式除細動器 (AED) 救急講習会	中尾正和	診療所、病院 職員	2012年11月26日 佐伯地区医師会館	佐伯地区医師会	28人
救急蘇生法研修会	中尾正和	看護師	2012年12月2日 広島総合病院	広島県看護協会廿日市支部	30人
広島県消防学校救急標準過程想定訓練総合評価	中尾正和	消防署救急隊	2012年12月6日 広島県消防学校	広島県消防学校	30人
Bicarbonate 講演会	中尾正和	麻酔科医	2013年3月8日 山口グランドホテル	味の素製薬	20人
広島西 MC 協議会症例研究会	中尾正和	救急隊、医療 関係者	2013年3月17日 廿日市市消防本部	広島西 MC 協議会	30人

## 健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
転倒事故予防と対策	増本順子	JA 年金受給 者	2012年5月17日 西区民センター	JA 中央会、JA 広島市総 務課	27人
生活習慣病・がんの対処法	碓井裕史	JA 年金受給 者	2012年5月18日 ホテルセンチュリー 21 広島	JA 中央会、JA 広島市総 務課	90人
脳みそ活性化で楽しく認知予防	長田恵美子	JA 組合員	2012年5月23日 JA 安芸船越支店	JA 安芸本店総務課	38人
脳みそ活性化で楽しく認知予防	長田恵美子 森川裕子	JA 組合員	2012年6月20日 JA 安芸上瀬野支店	JA 安芸本店総務課	52人
いつでもどこでもロコモ予防	森川裕子 野 村恵美	JA 組合員	2012年10月9日 JA 安芸中野支店	JA 安芸本店総務課	34人
いつでもどこでもロコモ予防	野村恵美、森 川裕子	JA 組合員	2013年1月17日 JA 佐伯中央深江支 店	JA 佐伯中央ふれあい課	23人
いつでもどこでもロコモ予防	森川裕子	JA 組合員	2013年2月7日 JA 佐伯中央地御前 支店	JA 佐伯中央ふれあい課	35人
痛～い、痛～いの膝・腰・手首	長田恵美子	JA 組合員	2013年2月21日 JA 佐伯中央玖島支 店	JA 佐伯中央ふれあい課	13人

## 看護部長室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
廿日市市佐方地区防災訓練での講演「クラッシュ 症候群とは」	寺田英子	佐方地区住民	2013年2月24日 佐方地区集会所		30人

## リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座 虚血性心疾患の予防～病気になる負けない体 をつくるコツ～＝運動編＝	本間 智明	廿日市市民	2012年6月17日 さくらびあ	JA 広島総合病院	500名

## 地域活動

### 栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第5回 市民公開講座 虚血性心疾患の予防	中西弘子	一般市民	2012年6月17日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院	
ヘルパー研修 訪問介護サービス時の調理について	松下有紀	ヘルパー	2012年9月19日 宮内市民センター	JA 佐伯中央農協訪問介護事業所	25人
NST研修会「当院のNST活動とアマンリハビリテーション病院へ転院となった2症例」	八幡謙吾	アマンリハビリテーション病院職員	2012年10月12日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院 NST	50人
第6回 市民公開講座「私、糖尿病っていわれたんじゃけど…」	河本良美 森田菜津美	一般市民	2013年1月27日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院	
がんサロン 講師	長曽我部弘子	がん患者・医療従事者	2013年1月28日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	

### 感染防止対策室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
佐伯区医師会MRM講演会 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年5月17日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	100人
野島内科医院 施設内研修 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年6月29日 野島内科医院	野島内科医院	20人
アマンリハビリテーション病院 施設内研修 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年10月4日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	60人
JA 佐伯中央 訪問介護事業所 施設内研修 講演	今本紀生	看護師、介護士	2012年10月17日 JA 佐伯中央 訪問介護事業所	JA 佐伯中央 訪問介護事業所	15人
広島グリーンヒル病院 施設内研修 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年10月18日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	80人
友和病院 施設内研修 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年10月26日 友和病院	友和病院	40人
廿日市記念病院 リンクナース研修会 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年11月16日 廿日市記念病院	廿日市記念病院	50人
介護支援専門員連絡協議会 研修会 講演	今本紀生	看護師、介護士	2012年12月18日 あいプラザ	介護支援専門員連絡協議会	30人
佐伯地区医師会 安全・感染研修会 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2012年12月25日 廿日市市商工保健会館	佐伯地区医師会	80人
ナカムラ病院 施設内研修 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年2月8日 ナカムラ病院	ナカムラ病院	80人
広島県西部保健所 結核・ノロ講習会 講演	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年3月7日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	40人

### 緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第4回 がんを診療する医師に対する緩和ケア研修会	小松弘尚 桐生浩司 益村科長 岡田恵美子 高原さおり 古本直子 吉川 正島忠貴 小林恭子	医師	2012年5月28日 JA 広島総合病院	小松弘尚	15人

## 地域活動

第4回 がんを診療する医師に対する緩和ケア研修会	小松弘尚 桐生活司 香山茂平 近藤文博 益村科長 岡田恵美子 高原さおり 磯谷明彦 小林恭子 林理恵	医師	2012年6月4日 JA 広島総合病院	小松弘尚	18
緩和ケア研修会 疼痛緩和・初級編	岡田恵美子 磯谷明彦 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2012年7月11日 JA 広島総合病院	磯谷明彦 古本直子	29
緩和ケア研修会コミュニケーション・せん妄	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2012年8月8日 JA 広島総合病院	古本直子	22
緩和ケア研修会 看取りのケア	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2012年9月12日 JA 広島総合病院	高原さおり	32
緩和ケア研修会 エンゼルケア	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2012年11月14日 JA 広島総合病院	岡田恵美子	51

## 雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

### 腎臓内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
荒川 哲次	CKDについて	FM はつかいち		2012年5月(計2回放送)

### 糖尿病・代謝内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	Lilly Web Conference (インターネット配信)	日本イーライリリー	2012年4月17日
石田和史	糖尿病治療 ～DPP-4阻害薬の位置付けと今後の展望～	Pharma Medica (座談会)	武田薬品・メディカルレビュー	2012年5月10日
石田和史	インスリン治療における混合製剤の有効活用	HART 奈良 (座談会)	日本イーライリリー	2012年6月1日
石田和史	日本人2型糖尿病患者へのアプローチ ～インスリンアナログ混合製剤2回注射法の役割～	HART 西東京 (座談会)	日本イーライリリー	2012年9月1日
石田和史	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異 ～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	Lilly Web Conference (インターネット配信)	日本イーライリリー	2012年9月7日
石田和史	医療最前線…糖尿病最新治療	テレビ派	広島テレビ	2013年2月19日

### 外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
香山茂平	大腸癌のクリニカルパスについて		FM はつかいち	2012年8月8日

### 形成外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
長谷川美紗	形成外科について	医療情報コーナー	FM はつかいち	2012年12月26日

### 皮膚科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
森川博文	あざについて	医療情報コーナー	FM はつかいち	2013年2月6,13日

### 放射線治療科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
桐生浩司	放射線治療とは?	医療情報コーナー	FM はつかいち	2012年6月13日
桐生浩司	放射線治療の最近のトピックス	医療情報コーナー	FM はつかいち	2012年6月20日

### 麻酔科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
中尾正和	筋弛緩作用の拮抗にスガマデクスという第2の選択ができました	佐伯地区医師会報	佐伯地区医師会	2012年7月1日

### 薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
大田 博子	ジェネリック医薬品について	医療情報コーナー	FM はつかいち	2月20日, 2月27日

# 合同カンファレンス

## 循環器内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第22回 循環器病診連携の会	関口善孝 藤井 隆	開業医・勤務医 Ns	2012年5月13日 JA 広島総合病院	ノバルティス・ファーマ製薬
第23回 循環器病診連携の会	関口善孝 藤井 隆	開業医・勤務医 Ns	2012年10月18日 JA 広島総合病院	ノバルティス・ファーマ製薬

## 糖尿病・代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第12回 広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (112名)	2012年4月11日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・アストラゼネカ
Simple Study Deep Dive Session	石田和史 栗林伸一	全国中核病院の糖尿病専門医 約30名によるワークショップ	2012年6月16日 ホテルニューオータニ大阪 (大阪府大阪市)	日本イーライリリー
第13回 広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (113名)	2012年8月8日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ジョソフ・ド・ジョソフ
最新の経口糖尿病薬を語る会～全ては患者様のために	伊藤千賀子	広島県内開業医・勤務医・コメディカル	2012年10月3日 シュラトンホテル広島 (広島市東区)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
第2回実践DM チーム医療勉強会 in 広島	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わるコメディカル (58名)	2012年10月13日 広島県情報プラザ (広島市中区)	日本糖尿病協会広島県支部・日本イーライリリー
平成24年度生活習慣病・糖尿病マネジメントのためのワークショップ	石田和史 (ディレクター)	全国各地の研修医・コメディカル	2012年10月19～21日 農村保健研修センター (長野県佐久市) 27名	全国厚生農業協同組合連合会・日本成人病予防会
第3回広島いちがたの会	片岡伸久朗 中西修平 中村邦彦 神野和彦	1型糖尿病患者&家族、糖尿病医療従事者 (90名)	2012年12月2日 RCC文化センター (広島市中区)	日本イーライリリー
第14回 広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (122名)	2012年12月12日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本イーライリリー
Humalog Mix50 Deep Dive Session	石井均 石田和史	全国の糖尿病専門医 (18名)	2012年3月16日 日本イーライリリー神戸本社 (兵庫県神戸市)	日本イーライリリー

## 脳神経外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
院内カンファレンス	黒木一彦		2012年11月21日	
院内勉強会	織田祥至	HCU 看護師	2012年11月28日 救命センター3階	
院内勉強会	下永皓司	HCU 看護師	2012年12月5日 救命センター3階	



## 合同カンファレンス

### 耳鼻咽喉科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広大 63 年入局耳鼻科医勉強会	兼見良典	63 年広島大学耳鼻咽喉科入局医師	2012 年 9 月 8 日 広島市	Meiji Seika ファルマ株式会社

### 麻酔科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
アーリーバードレクチャー 気道確保の話題 気管挿管が困難なとき		研修医	2012 年 7 月 17 日 広島総合病院	なし

### 感染防止対策室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	今村祐司	連携施設 ICT (7 施設)	2012 年 5 月 30 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	今村祐司	連携施設 ICT (7 施設)	2012 年 7 月 25 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	今村祐司	連携施設 ICT (7 施設)	2012 年 9 月 12 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	今村祐司	連携施設 ICT (7 施設)	2012 年 11 月 29 日 広島総合病院	

### 緩和ケアチーム

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
緩和ケアカンファレンス	小松弘尚	緩和チーム	毎週木曜日 西 8 カンファレンスルーム	なし



# バレー部

## ■メンバー紹介

男子チーム	11名 (OB含む)
女子チーム	12名 (OG含む)
メンバー (職種) :	医師、研修医、看護師、臨床検査技師・放射線技師、事務



## ■活動内容

2010年7月	廿日市支部看護協会バレーボール大会
2011年7月	廿日市支部看護協会バレーボール大会
11月	廿日市地区バレーボール大会
2012年1月	アマンノリハビリテーション病院バレー部練習試合
5月	アマンノリハビリテーション病院バレー部練習試合
6月	廿日市支部看護協会バレーボール大会

## ■概要

2009年9月広島総合病院バレー部が発足しました。活動開始当初は、ボールも無く、練習する体育館を探すのも大変でした。練習日は毎月第2・第4木曜日に行っています。バレー備品も現在では、バレーボールは8個、2011年にはユニホームも揃ってもらいました。2012年から練習試合も計画し行っています。目標は、男女共に廿日市支部バレーボール大会制覇！にむけて練習に励んでいます。



練習日	毎月 第2・第4木曜日 19時～21時
場所	阿品台東小学校 体育館
入部について	バレー経験者でなくても、常時入部希望者募集中

# サッカー部



(試合後のさわやかな風景)

## ■クラブ概要

- 通称：広総ラッツォ
- 創設：19??年
- 部員数：20名
- メンバー（職種）：  
医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、臨床  
工学技士、理学療法士、社会福祉士、事務 など

## ■活動内容・報告

- 練習（場所：廿日市グリーンフィールド）  
毎月第2、水曜日 20：00～21：30  
第4、木曜日 19：00～21：00



(練習風景)

- 練習試合（不定期開催）

廿日市市役所、佐伯中央農協、近隣病院などのサッカー部の方々と、不定期で練習試合を行っています。



(試合に臨む選手たち)

- 2012年度総括

廿日市サッカー協会主催のエンジョイエイトリーグに参加しています。8人制のサッカー（ハーフコート）で1試合15分3本を戦います。

1年間のリーグ戦を行い、2012年度は最終戦まで負けなしでしたが、最終節に負けてしまい惜しくも2位になってしまいました。

- 試合用ユニホーム（2着使用）

- クロアチア代表
- 日本代表



- クラブアピール

- サッカーが好きな人、やっていた人、やってみたい人、運動がしたい人、どんな方でも、いつでも大歓迎です。経験の有無は問いません。一緒に楽しみましょう!!
- 不定期で交流会も開催し、団結を深めています。

- 切実なお願い

- サッカー部では、ここ数年マネージャー（またの名を勝利の女神）が不在で、試合時の飲み物の準備や、ユニフォームの洗濯など、各選手が持ち回りでを行っています。  
選手をサポートしてくださる方を随時募集しています。



## テニス部

広島総合病院テニス部は、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・事務職・社会福祉士等 25 名で活動しています。

活動場所は広島市佐伯区五日市町にある佐伯運動公園のテニスコートで、清しい汗をかいています。

時期は3月～11月（寒い時期は休部）の第2・4週に出没します。

競技レベルは、初級～中級で仲良くワイワイと楽しく練習および試合をしています。

年3回、大きなイベント（テニス大会）があり試合前には日頃の運動不足と奮闘しています。

### ■ 2012 年度活動

#### ◎広島医療メイト杯

広島県全土より医療従事者の参加があり全47チームが参加し当院より2チームエントリーしました

平成24年8月26日（日）

びんご運動公園テニスコート（尾道市）

#### 【結果】

Cブロック：広島総合病院 A チーム・・・3 位

Dブロック：広島総合病院 B チーム・・・4 位

#### ◎第26回 厚生連親睦球技大会（テニスの部）

尾道総合病院 A・B、吉田総合病院、本所、広島総合病院の5チームがエントリーし、参考競技ながら白熱した試合で大いに盛り上がりました

平成24年11月10日（土）

白竜湖スポーツ村（三原市）

#### 【結果】

1 位：尾道 A

2 位：広島

3 位：吉田

4 位：本所

5 位：尾道 B

#### ◎佐伯地区医師会・佐伯区医師会合同テニス大会

佐伯地区医師会と佐伯区医師会の会員（家族）および従業員による親睦大会

平成24年10月28日（日）

リョーコーテニスクラブ（広島市西区）

ミックスダブルスの部

・大下彰彦&正嶋和美

・正嶋忠貴&豊田愛（佐伯地区医師会）

～平成24年7月12日の練習日より～



■ Annual Report 2012 2012年(平成24年)度 年報 ■

---

資 料

# 診療科別外来患者数

平成24年度 月別外来患者数(4~7月)

科 別	4月(診療日数20日)				5月(診療日数21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	4,597	562	5,159	258.0	4,729	623	5,352	254.9
(呼吸器内科)	631	101	732	36.6	653	128	781	37.2
(循環器内科)	1,016	145	1,161	58.1	960	158	1,118	53.2
(腎臓内科)	623	31	654	32.7	579	47	626	29.8
(糖尿病内科)	1,089	76	1,165	58.3	1,185	55	1,240	59.0
(消化器内科)	1,190	204	1,394	69.7	1,302	227	1,529	72.8
(神経内科)	43	5	48	2.4	45	8	53	2.5
(緩和ケア科)	5	0	5	0.3	5	0	5	0.2
精神科・心療内科	66	16	82	4.1	77	26	103	4.9
小 児 科	836	147	983	49.2	815	162	977	46.5
外 科	1,395	143	1,538	76.9	1,395	150	1,545	73.6
整形 外科	864	176	1,040	52.0	947	212	1,159	55.2
形成 外科	6	12	18	0.9	59	22	81	3.9
脳神経外科	1,228	195	1,423	71.2	1,199	161	1,360	64.8
呼吸器外科	192	16	208	10.4	207	23	230	11.0
心臓・血管外科	348	29	377	18.9	394	49	443	21.1
皮膚科	1,528	228	1,756	87.8	1,473	291	1,764	84.0
泌尿器科	1,444	129	1,573	78.7	1,621	128	1,749	83.3
産婦人科	918	130	1,048	52.4	973	125	1,098	52.3
眼 科	704	92	796	39.8	803	98	901	42.9
耳鼻咽喉科	726	204	930	46.5	701	249	950	45.2
放射線治療科	868	20	888	44.4	682	18	700	33.3
麻酔科	143	278	421	21.1	137	322	459	21.9
画像診断部	1,104	507	1,611	80.6	1,203	426	1,629	77.6
歯科口腔外科	303	131	434	21.7	343	139	482	23.0
計	17,270	3,015	20,285	1,014.3	17,758	3,224	20,982	999.1
栗谷診療所	77	4	81	4.1	61	2	63	3.0
合 計	17,347	3,019	20,366	1,018.3	17,819	3,226	21,045	1,002.1

科 別	6月(診療日数21日)				7月(診療日数21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	4,652	660	5,312	253.0	5,129	659	5,788	275.6
(呼吸器内科)	649	120	769	36.6	729	127	856	40.8
(循環器内科)	937	163	1,100	52.4	1,036	161	1,197	57.0
(腎臓内科)	507	51	558	26.6	578	46	624	29.7
(糖尿病内科)	1,185	83	1,268	60.4	1,235	63	1,298	61.8
(消化器内科)	1,323	236	1,559	74.2	1,471	257	1,728	82.3
(神経内科)	40	6	46	2.2	64	5	69	3.3
(緩和ケア科)	11	1	12	0.6	16	0	16	0.8
精神科・心療内科	89	19	108	5.1	85	20	105	5.0
小 児 科	704	154	858	40.9	809	115	924	44.0
外 科	1,589	145	1,734	82.6	1,680	147	1,827	87.0
整形 外科	958	176	1,134	54.0	1,144	208	1,352	64.4
形成 外科	67	12	79	3.8	86	23	109	5.2
脳神経外科	1,171	161	1,332	63.4	1,157	176	1,333	63.5
呼吸器外科	203	18	221	10.5	206	23	229	10.9
心臓・血管外科	527	37	564	26.9	382	39	421	20.0
皮膚科	1,554	243	1,797	85.6	1,505	257	1,762	83.9
泌尿器科	1,531	213	1,744	83.0	1,665	148	1,813	86.3
産婦人科	946	138	1,084	51.6	1,007	136	1,143	54.4
眼 科	794	101	895	42.6	855	100	955	45.5
耳鼻咽喉科	761	201	962	45.8	750	206	956	45.5
放射線治療科	759	29	788	37.5	954	24	978	46.6
麻酔科	137	324	461	22.0	145	342	487	23.2
画像診断部	1,163	480	1,643	78.2	657	243	900	42.9
歯科口腔外科	361	154	515	24.5	359	143	502	23.9
計	17,966	3,265	21,231	1,011.0	18,575	3,009	21,584	1,027.8
栗谷診療所	77	0	77	3.7	80	1	81	3.9
合 計	18,043	3,265	21,308	1,014.7	18,655	3,010	21,665	1,031.7

## 平成24年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数22日)				9月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,063	659	5,722	260.1	4,959	616	5,575	293.4
(呼吸器内科)	830	124	954	43.4	741	102	843	44.4
(循環器内科)	948	144	1,092	49.6	929	167	1,096	57.7
(腎臓内科)	588	53	641	29.1	523	35	558	29.4
(糖尿病内科)	1,219	79	1,298	59.0	1,184	69	1,253	65.9
(消化器内科)	1,411	252	1,663	75.6	1,525	238	1,763	92.8
(神経内科)	58	7	65	3.0	47	5	52	2.7
(緩和ケア科)	9	0	9	0.4	10	0	10	0.5
精神科・心療内科	100	23	123	5.6	92	10	102	5.4
小 児 科	832	188	1,020	46.4	691	101	792	41.7
外 科	1,499	151	1,650	75.0	1,473	204	1,677	88.3
整形 外科	1,365	237	1,602	72.8	1,099	168	1,267	66.7
形成 外科	56	17	73	3.3	47	27	74	3.9
脳神経 外科	1,533	179	1,712	77.8	1,259	154	1,413	74.4
呼吸器 外科	197	39	236	10.7	203	32	235	12.4
心臓・血管 外科	439	39	478	21.7	490	39	529	27.8
皮膚 科	1,491	272	1,763	80.1	1,317	212	1,529	80.5
泌尿器 科	1,679	145	1,824	82.9	1,655	136	1,791	94.3
産婦人 科	1,021	136	1,157	52.6	964	100	1,064	56.0
眼 科	827	114	941	42.8	733	88	821	43.2
耳鼻咽喉 科	772	238	1,010	45.9	703	228	931	49.0
放射線 治療科	845	16	861	39.1	717	17	734	38.6
麻 酔 科	134	346	480	21.8	152	340	492	25.9
画像 診断部	88	56	144	6.5	99	79	178	9.4
歯科 口腔 外科	324	151	475	21.6	287	134	421	22.2
計	18,265	3,006	21,271	966.9	16,940	2,685	19,625	1,032.9
栗谷 診療所	71	4	75	3.4	69	1	70	3.7
合 計	18,336	3,010	21,346	970.3	17,009	2,686	19,695	1,036.6

科 別	10月(診療日数22日)				11月(診療日数21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,443	700	6,143	279.2	5,270	666	5,936	282.7
(呼吸器内科)	797	117	914	41.5	776	106	882	42.0
(循環器内科)	1,116	185	1,301	59.1	1,046	199	1,245	59.3
(腎臓内科)	571	39	610	27.7	526	38	564	26.9
(糖尿病内科)	1,266	51	1,317	59.9	1,249	70	1,319	62.8
(消化器内科)	1,624	296	1,920	87.3	1,585	238	1,823	86.8
(神経内科)	58	12	70	3.2	76	15	91	4.3
(緩和ケア科)	11	0	11	0.5	12	0	12	0.6
精神科・心療内科	103	30	133	6.0	81	20	101	4.8
小 児 科	786	134	920	41.8	789	124	913	43.5
外 科	1,698	176	1,874	85.2	1,634	149	1,783	84.9
整形 外科	1,140	218	1,358	61.7	1,234	177	1,411	67.2
形成 外科	63	32	95	4.3	81	34	115	5.5
脳神経 外科	1,422	205	1,627	74.0	1,263	174	1,437	68.4
呼吸器 外科	239	25	264	12.0	243	39	282	13.4
心臓・血管 外科	489	28	517	23.5	445	62	507	24.1
皮膚 科	1,544	271	1,815	82.5	1,500	221	1,721	82.0
泌尿器 科	1,739	146	1,885	85.7	1,651	154	1,805	86.0
産婦人 科	1,030	128	1,158	52.6	1,062	135	1,197	57.0
眼 科	841	99	940	42.7	762	88	850	40.5
耳鼻咽喉 科	810	235	1,045	47.5	730	254	984	46.9
放射線 治療科	824	23	847	38.5	673	19	692	33.0
麻 酔 科	159	395	554	25.2	165	361	526	25.0
画像 診断部	116	108	224	10.2	104	88	192	9.1
歯科 口腔 外科	394	134	528	24.0	465	143	608	29.0
計	18,840	3,087	21,927	996.7	18,152	2,908	21,060	1,002.9
栗谷 診療所	71	1	72	3.3	80	1	81	3.9
合 計	18,911	3,088	21,999	1,000.0	18,232	2,909	21,141	1,006.7



## 平成24年度 月別外来患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数 19日)				1月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	4,909	612	5,521	290.6	5,008	681	5,689	299.4
(呼吸器内科)	692	106	798	42.0	678	91	769	40.5
(循環器内科)	990	176	1,166	61.4	1,042	193	1,235	65.0
(腎臓内科)	502	36	538	28.3	522	33	555	29.2
(糖尿病内科)	1,108	54	1,162	61.2	1,255	85	1,340	70.5
(消化器内科)	1,534	238	1,772	93.3	1,422	274	1,696	89.3
(神経内科)	68	2	70	3.7	67	5	72	3.8
(緩和ケア科)	15	0	15	0.8	22	0	22	1.2
精神科・心療内科	49	12	61	3.2	60	20	80	4.2
小 児 科	870	117	987	51.9	713	129	842	44.3
外 科	1,581	147	1,728	90.9	1,597	140	1,737	91.4
整形 外科	987	139	1,126	59.3	1,030	198	1,228	64.6
形成 外科	95	19	114	6.0	87	24	111	5.8
脳神経外科	1,342	143	1,485	78.2	1,295	204	1,499	78.9
呼吸器外科	268	15	283	14.9	225	26	251	13.2
心臓・血管外科	356	21	377	19.8	402	32	434	22.8
皮膚科	1,385	186	1,571	82.7	1,338	218	1,556	81.9
泌尿器科	1,757	104	1,861	97.9	1,685	132	1,817	95.6
産婦人科	967	114	1,081	56.9	963	135	1,098	57.8
眼 科	799	90	889	46.8	747	94	841	44.3
耳鼻咽喉科	807	216	1,023	53.8	795	222	1,017	53.5
放射線治療科	610	28	638	33.6	822	30	852	44.8
麻酔科	190	288	478	25.2	170	351	521	27.4
画像診断部	79	68	147	7.7	81	75	156	8.2
歯科口腔外科	433	111	544	28.6	423	131	554	29.2
計	17,484	2,430	19,914	1,048.1	17,441	2,842	20,283	1,067.5
栗谷診療所	72	2	74	3.9	69	1	70	3.7
合 計	17,556	2,432	19,988	1,052.0	17,510	2,843	20,353	1,071.2

科 別	2月(診療日数 19日)				3月(診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	4,935	683	5,618	295.7	5,042	631	5,673	283.7
(呼吸器内科)	721	96	817	43.0	705	107	812	40.6
(循環器内科)	980	154	1,134	59.7	1,010	164	1,174	58.7
(腎臓内科)	475	38	513	27.0	487	34	521	26.1
(糖尿病内科)	1,191	135	1,326	69.8	1,183	95	1,278	63.9
(消化器内科)	1,478	260	1,738	91.5	1,556	231	1,787	89.4
(神経内科)	69	0	69	3.6	79	0	79	4.0
(緩和ケア科)	21	0	21	1.1	22	0	22	1.1
精神科・心療内科	72	20	92	4.8	41	17	58	2.9
小 児 科	827	131	958	50.4	903	167	1,070	53.5
外 科	1,513	128	1,641	86.4	1,562	98	1,660	83.0
整形 外科	1,164	194	1,358	71.5	1,086	194	1,280	64.0
形成 外科	61	8	69	3.6	71	20	91	4.6
脳神経外科	1,156	144	1,300	68.4	1,344	165	1,509	75.5
呼吸器外科	181	47	228	12.0	225	23	248	12.4
心臓・血管外科	375	37	412	21.7	453	38	491	24.6
皮膚科	1,333	224	1,557	81.9	1,431	276	1,707	85.4
泌尿器科	1,573	117	1,690	88.9	1,781	132	1,913	95.7
産婦人科	953	118	1,071	56.4	1,029	167	1,196	59.8
眼 科	777	81	858	45.2	861	100	961	48.1
耳鼻咽喉科	752	203	955	50.3	862	244	1,106	55.3
放射線治療科	867	17	884	46.5	746	26	772	38.6
麻酔科	110	322	432	22.7	181	322	503	25.2
画像診断部	89	80	169	8.9	91	74	165	8.3
歯科口腔外科	411	165	576	30.3	432	145	577	28.9
計	17,149	2,719	19,868	1,045.7	18,141	2,839	20,980	1,049.0
栗谷診療所	63	1	64	3.4	76	5	81	4.1
合 計	17,212	2,720	19,932	1,049.1	18,217	2,844	21,061	1,053.1

## 診療科別入院患者数

平成24年度 月別入院患者数 (4~7月)

科 別	4月 (診療日数 30日)				5月 (診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	247	258	3,981	132.7	263	266	4,382	141.4
(呼吸器内科)	44	60	692	23.1	43	54	707	22.8
(循環器内科)	64	69	955	31.8	86	81	1,084	35.0
(腎臓内科)	13	18	436	14.5	21	18	570	18.4
(糖尿病内科)	10	18	257	8.6	10	12	187	6.0
(消化器内科)	116	93	1,641	54.7	103	101	1,834	59.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	94	102	607	20.2	74	77	518	16.7
外 科	116	103	1,703	56.8	116	123	1,824	58.8
整形外科	87	88	1,317	43.9	92	98	1,418	45.7
形成外科	5	4	16	0.5	6	7	34	1.1
脳神経外科	40	50	1,212	40.4	45	51	1,209	39.0
呼吸器外科	31	26	485	16.2	24	33	458	14.8
心臓・血管外科	25	38	752	25.1	27	30	514	16.6
皮膚科	7	9	128	4.3	14	11	141	4.5
泌尿器科	64	71	556	18.5	90	82	640	20.6
産婦人科	100	104	830	27.7	105	111	871	28.1
眼科	37	39	95	3.2	42	35	104	3.4
耳鼻咽喉科	41	38	412	13.7	41	47	433	14.0
放射線治療科	3	3	60	2.0	7	3	118	3.8
麻酔科	96	47	469	15.6	105	51	506	16.3
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	11	10	118	3.9	6	7	45	1.5
合 計	1,004	990	12,741	424.7	1,057	1,032	13,215	426.3

科 別	6月 (診療日数 30日)				7月 (診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	242	286	4,247	141.6	254	278	4,044	130.5
(呼吸器内科)	40	40	791	26.4	33	45	697	22.5
(循環器内科)	71	89	977	32.6	75	77	915	29.5
(腎臓内科)	22	25	683	22.8	18	28	601	19.4
(糖尿病内科)	8	9	90	3.0	10	8	109	3.5
(消化器内科)	101	123	1,706	56.9	118	120	1,722	55.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	52	54	330	11.0	75	72	521	16.8
外 科	113	127	1,814	60.5	110	105	1,642	53.0
整形外科	96	94	1,359	45.3	100	99	1,519	49.0
形成外科	1	2	24	0.8	5	6	20	0.6
脳神経外科	39	57	1,095	36.5	50	52	977	31.5
呼吸器外科	20	25	331	11.0	23	18	401	12.9
心臓・血管外科	28	23	568	18.9	32	33	699	22.5
皮膚科	11	11	178	5.9	13	17	181	5.8
泌尿器科	72	84	652	21.7	77	73	643	20.7
産婦人科	63	74	509	17.0	96	95	608	19.6
眼科	40	47	124	4.1	45	38	142	4.6
耳鼻咽喉科	41	45	456	15.2	38	37	637	20.5
放射線治療科	1	4	87	2.9	10	5	178	5.7
麻酔科	91	48	390	13.0	124	55	399	12.9
画像診断部	1	1	8	0.3	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	6	4	67	2.2	6	5	84	2.7
合 計	917	986	12,239	408.0	1,058	988	12,695	409.5

## 平成24年度 月別入院患者数(8~11月)

科 別	8月(診療日数31日)				9月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	260	264	4,425	142.7	267	305	4,123	137.4
(呼吸器内科)	52	52	934	30.1	46	53	774	25.8
(循環器内科)	60	64	927	29.9	79	81	881	29.4
(腎臓内科)	20	21	412	13.3	20	16	528	17.6
(糖尿病内科)	15	16	161	5.2	10	8	125	4.2
(消化器内科)	113	111	1,991	64.2	112	147	1,815	60.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	82	73	522	16.8	65	78	512	17.1
外 科	111	115	1,931	62.3	117	128	1,898	63.3
整形外科	124	127	1,550	50.0	90	99	1,478	49.3
形成外科	3	2	16	0.5	5	5	45	1.5
脳神経外科	38	50	970	31.3	49	54	1,031	34.4
呼吸器外科	14	22	416	13.4	21	25	350	11.7
心臓・血管外科	22	23	611	19.7	27	27	639	21.3
皮膚科	19	22	213	6.9	14	16	216	7.2
泌尿器科	83	92	738	23.8	55	61	653	21.8
産婦人科	87	75	626	20.2	86	95	677	22.6
眼 科	41	44	94	3.0	35	39	75	2.5
耳鼻咽喉科	51	51	709	22.9	36	41	548	18.3
放射線治療科	7	4	271	8.7	7	12	252	8.4
麻 酔 科	92	44	503	16.2	92	38	288	9.6
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	11	13	157	5.1	7	7	124	4.1
合 計	1,045	1,021	13,752	443.6	973	1,030	12,909	430.3

科 別	10月(診療日数31日)				11月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	314	340	4,693	151.4	291	304	4,347	144.9
(呼吸器内科)	61	65	1,112	35.9	64	70	899	30.0
(循環器内科)	88	97	1,096	35.4	69	75	1,146	38.2
(腎臓内科)	17	25	513	16.5	21	18	538	17.9
(糖尿病内科)	12	13	234	7.5	9	8	99	3.3
(消化器内科)	136	140	1,738	56.1	128	133	1,665	55.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	66	64	474	15.3	66	62	405	13.5
外 科	128	125	1,974	63.7	101	135	1,721	57.4
整形外科	109	129	1,519	49.0	102	108	1,336	44.5
形成外科	3	3	31	1.0	2	3	8	0.3
脳神経外科	56	56	1,163	37.5	46	50	1,178	39.3
呼吸器外科	28	24	435	14.0	25	23	347	11.6
心臓・血管外科	26	30	714	23.0	30	30	690	23.0
皮膚科	12	9	172	5.5	20	20	239	8.0
泌尿器科	70	70	716	23.1	83	94	699	23.3
産婦人科	76	76	549	17.7	79	76	543	18.1
眼 科	46	42	117	3.8	35	38	82	2.7
耳鼻咽喉科	42	45	483	15.6	44	44	516	17.2
放射線治療科	5	9	175	5.6	6	6	160	5.3
麻 酔 科	123	56	272	8.8	96	32	225	7.5
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	5	7	82	2.6	10	8	113	3.8
合 計	1,109	1,085	13,596	437.7	1,036	1,033	12,609	420.3

## 平成24年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	278	351	4,700	151.6	286	283	4,640	149.7
(呼吸器内科)	48	72	879	28.4	44	42	873	28.2
(循環器内科)	74	88	1,181	38.1	93	86	1,247	40.2
(腎臓内科)	15	18	567	18.3	18	21	596	19.2
(糖尿病内科)	13	14	219	7.1	7	7	165	5.3
(消化器内科)	128	159	1,854	59.8	123	125	1,743	56.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	1	2	16	0.5
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	70	76	449	14.5	63	59	352	11.4
外 科	80	101	1,506	48.6	102	93	1,500	48.4
整 形 外 科	84	101	1,290	41.6	100	88	1,374	44.3
形 成 外 科	5	5	18	0.6	5	5	15	0.5
脳神経外科	55	67	1,119	36.1	49	51	1,347	43.5
呼吸器外科	24	26	485	15.6	23	23	424	13.7
心臓・血管外科	31	37	798	25.7	22	21	657	21.2
皮膚科	14	16	170	5.5	13	13	268	8.6
泌尿器科	65	85	661	21.3	80	68	582	18.8
産婦人科	77	91	491	15.8	92	74	561	18.1
眼科	42	43	123	4.0	36	26	75	2.4
耳鼻咽喉科	42	53	473	15.3	46	36	465	15.0
放射線治療科	0	5	65	2.1	11	5	174	5.6
麻酔科	107	48	304	9.8	141	51	398	12.8
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	9	12	107	3.5	11	4	112	3.6
合 計	983	1,117	12,759	411.6	1,080	900	12,944	417.5

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	280	317	4,490	160.4	276	325	4,906	158.3
(呼吸器内科)	55	68	952	34.0	54	68	1,009	32.5
(循環器内科)	66	82	1,052	37.6	67	78	1,117	36.0
(腎臓内科)	20	21	710	25.4	20	31	628	20.3
(糖尿病内科)	14	13	190	6.8	17	15	150	4.8
(消化器内科)	124	133	1,564	55.9	117	131	1,910	61.6
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	0	22	0.8	1	2	92	3.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	78	77	495	17.7	82	78	503	16.2
外 科	113	123	1,444	51.6	106	122	1,681	54.2
整 形 外 科	97	105	1,376	49.1	78	94	1,359	43.8
形 成 外 科	2	2	8	0.3	3	3	10	0.3
脳神経外科	43	49	1,075	38.4	53	57	1,267	40.9
呼吸器外科	18	24	414	14.8	19	20	377	12.2
心臓・血管外科	35	26	806	28.8	31	44	982	31.7
皮膚科	13	15	160	5.7	12	14	170	5.5
泌尿器科	68	63	652	23.3	65	74	720	23.2
産婦人科	93	97	754	26.9	78	88	643	20.7
眼科	42	43	114	4.1	39	47	111	3.6
耳鼻咽喉科	34	38	483	17.3	43	40	611	19.7
放射線治療科	7	7	191	6.8	6	9	195	6.3
麻酔科	90	39	363	13.0	136	48	355	11.5
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	11	11	165	5.9	12	15	203	6.5
合 計	1,024	1,036	12,990	463.9	1,039	1,078	14,093	454.6

## 患者数の推移

### 年度別外来患者数

年 度	平成 21 年度（診療日数 243 日）				平成 22 年度（診療日数 244 日）				平成 23 年度（診療日数 244 日）				平成 24 年度（診療日数 244 日）			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	69,014	7,557	76,571	315.1	65,594	7,724	73,318	300.5	52,920	7,513	60,433	247.7	59,736	7,752	67,488	276.6
精神科・心療内科	1,365	231	1,596	6.6	1,022	195	1,217	5.0	1,052	256	1,308	5.4	915	233	1,148	4.7
小 児 科	9,531	1,719	11,250	46.3	9,358	1,626	10,984	45.0	8,761	1,707	10,468	42.9	9,575	1,669	11,244	46.1
外 科	16,473	1,597	18,070	74.3	16,600	1,673	18,273	74.9	17,175	1,598	18,773	76.9	18,616	1,778	20,394	83.6
整形 外科	9,716	1,942	11,658	48.0	9,547	2,055	11,602	47.5	10,071	2,158	12,229	50.1	13,018	2,297	15,315	62.8
形成 外科													779	250	1,029	4.2
脳神経外科	13,406	1,977	15,383	63.3	13,058	1,975	15,033	61.6	14,645	2,109	16,754	68.7	15,369	2,061	17,430	71.4
呼吸器外科	1,881	222	2,103	8.7	2,227	242	2,469	10.1	2,523	222	2,745	11.3	2,589	326	2,915	11.9
心臓・血管外科	3,422	439	3,861	15.9	4,112	401	4,513	18.5	4,366	408	4,774	19.6	5,100	450	5,550	22.7
皮 膚 科	22,089	2,959	25,048	103.1	20,468	2,861	23,329	95.6	19,582	2,820	22,402	91.8	17,399	2,899	20,298	83.2
泌尿器科	17,275	1,567	18,842	77.5	16,612	1,536	18,148	74.4	17,428	1,481	18,909	77.5	19,781	1,684	21,465	88.0
産 婦 人 科	12,353	1,897	14,250	58.6	12,991	1,845	14,836	60.8	12,300	1,583	13,883	56.9	11,833	1,562	13,395	54.9
眼 科	8,792	1,268	10,060	41.4	8,907	1,168	10,075	41.3	9,087	1,071	10,158	41.6	9,503	1,145	10,648	43.6
耳鼻咽喉科	7,785	2,617	10,402	42.8	8,429	2,607	11,036	45.2	8,777	2,652	11,429	46.8	9,169	2,700	11,869	48.6
放射線治療科	8,971	282	9,253	38.1	10,654	311	10,965	44.9	9,365	268	9,633	39.5	9,367	267	9,634	39.5
麻 酔 科	1,296	3,189	4,485	18.5	1,285	3,185	4,470	18.3	1,320	3,330	4,650	19.1	1,823	3,991	5,814	23.8
画像診断部	14,281	5,667	19,948	82.1	14,429	5,553	19,982	81.9	14,471	5,318	19,789	81.1	14,874	2,284	17,158	29.3
歯科口腔外科	4,278	1,826	6,104	25.1	3,019	1,666	4,685	19.2	4,360	1,641	6,001	24.6	4,535	1,681	6,216	25.5
計	221,928	36,956	258,884	1,065.4	218,312	36,623	254,935	1,044.8	208,203	36,135	244,338	1,001.4	213,981	35,029	249,010	1,020.5
栗谷診療所	915	30	945	3.9	949	16	965	4.0	915	23	938	3.8	866	23	889	3.6
合 計	222,843	36,986	259,829	1,069.3	219,261	36,639	255,900	1,048.8	209,118	36,158	245,276	1,005.2	214,847	35,052	249,899	1,024.2

### 年度別入院患者数

年 度	平成 21 年度（診療日数 365 日）				平成 22 年度（診療日数 365 日）				平成 23 年度（診療日数 366 日）				平成 24 年度（診療日数 365 日）			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,745	3,746	55,652	152.5	3,527	3,465	54,391	149.0	3,493	3,562	53,293	145.6	3,258	3,577	52,978	144.7
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	975	974	6,254	17.1	888	880	5,708	15.6	915	913	5,854	16.0	867	872	5,688	15.5
外 科	1,329	1,327	18,779	51.5	1,366	1,428	20,458	56.0	1,399	1,390	20,334	55.6	1,313	1,400	20,638	56.4
整形 外科	1,010	1,011	16,819	46.1	998	1,023	15,243	41.8	1,012	1,063	15,598	42.6	1,159	1,230	16,895	46.2
形成 外科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	45	47	245	0.7
脳神経外科	479	473	9,429	25.8	502	526	11,584	31.7	475	556	13,414	36.7	563	644	13,643	37.3
呼吸器外科	291	292	5,634	15.4	327	320	5,633	15.4	273	276	3,970	10.8	270	289	4,923	13.5
心臓・血管外科	282	281	8,291	22.7	309	331	9,894	27.1	317	337	8,721	23.8	336	362	8,430	23.0
皮 膚 科	254	251	2,636	7.2	182	187	2,101	5.8	199	208	2,319	6.3	162	173	2,236	6.1
泌尿器科	807	802	7,385	20.2	723	726	5,947	16.3	808	833	6,558	17.9	872	917	7,912	21.6
産 婦 人 科	1,171	1,178	9,712	26.6	1,162	1,170	8,819	24.2	1,108	1,099	8,648	23.6	1,032	1,056	7,662	20.9
眼 科	456	458	1,801	4.9	450	446	1,340	3.7	481	485	1,326	3.6	480	481	1,256	3.4
耳鼻咽喉科	483	480	4,888	13.4	528	529	5,914	16.2	518	538	5,743	15.7	499	515	6,226	17.0
放射線治療科	84	82	2,503	6.9	72	82	2,164	5.9	54	60	1,410	3.9	70	72	1,926	5.3
麻 酔 科	286	290	2,173	6.0	304	220	2,578	7.1	988	633	6,371	17.4	1,293	557	4,472	12.2
画像診断部	10	10	191	0.5	3	3	28	0.1	3	3	30	0.1	1	1	8	0.0
歯科口腔外科	123	122	1,780	4.9	111	109	1,730	4.7	101	105	1,333	3.6	105	103	1,377	3.8
計	11,785	11,777	153,927	421.7	11,452	11,445	153,532	420.6	12,044	12,061	154,922	423.3	12,325	12,296	156,515	428.8
合 計	11,785	11,777	153,927	421.7	11,452	11,445	153,532	420.6	12,044	12,061	154,922	423.3	12,325	12,296	156,515	428.8

# 平均在院日数

平成 24 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		15.5	15.5	15.2	14.3	16.1	13.1	13.7	13.9	14.3	15.4	14.8	16.1
小児科		5.9	6.5	5.5	6.7	6.5	6.7	6.7	6.4	6.1	5.8	6.4	6.4
外科		14.7	15.1	14.6	14.7	16.0	14.6	14.8	14.1	15.5	13.8	11.2	13.3
整形外科		15.1	14.9	14.6	15.8	12.3	16.2	13.0	13.3	14.3	15.2	14.2	15.4
形成外科		3.4	6.0	10.0	3.6	6.4	9.0	14.5	3.2	3.5	3.0	4.0	3.3
脳神経外科		26.0	23.8	20.8	19.5	20.9	18.3	18.8	22.2	17.6	28.0	23.2	23.5
産婦人科		11.4	9.8	9.4	7.4	9.1	8.8	8.5	8.5	7.0	8.0	9.3	9.6
皮膚科		13.3	11.2	16.2	12.0	10.3	15.3	13.4	10.5	11.7	20.6	12.2	13.3
泌尿器科		8.2	7.3	8.3	8.4	8.1	10.9	9.6	7.8	8.9	7.5	9.5	9.9
眼科		2.5	2.7	2.9	3.5	2.2	2.1	2.7	2.3	2.9	2.4	2.7	2.5
耳鼻咽喉科		10.5	9.6	10.4	17.0	13.9	13.6	10.9	11.0	10.0	11.3	13.6	14.6
歯科口腔外科		11.2	6.9	13.4	15.3	13.1	13.4	10.5	12.6	10.2	13.4	16.2	14.8
麻酔科		6.6	6.1	4.9	4.0	6.6	3.9	3.2	3.1	3.2	3.5	5.6	3.9
放射線治療科		20.0	23.6	34.8	23.7	44.7	23.4	20.6	21.7	26.0	21.8	27.3	26.0
画像診断部				8.0									
呼吸器外科		17.0	16.1	14.8	20.0	23.3	15.8	17.3	15.1	19.0	18.0	19.9	19.3
心臓血管外科		22.5	16.5	20.9	20.0	26.0	21.0	24.0	21.5	22.3	28.9	22.6	25.0
精神科・心療内科													
計		12.9	12.4	12.5	12.3	13.0	12.3	12.0	12.0	12.0	12.8	12.6	13.3

平成 24 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	9.8	9.6	8.8	8.0	9.9	8.6	8.9	8.2	7.7	8.4	9.3	9.4
	5 F	14.7	14.6	14.5	15.4	12.7	16.3	13.1	13.1	14.2	14.6	14.5	14.8
	6 F	18.7	20.4	17.3	17.0	16.9	17.2	17.1	14.2	16.4	15.0	12.0	15.6
	7 F	18.4	17.4	15.3	14.0	17.6	13.1	11.6	13.0	12.8	14.6	12.6	14.4
	8 F	11.7	15.1	20.4	17.5	24.8	17.5	17.7	15.7	17.9	18.4	18.3	19.1
	3 F	18.5	23.5	17.1	18.2	34.9	12.6	14.5	15.3	14.1	18.2	21.2	18.9
	救命	2.0	1.8	2.1	1.9	2.4	1.9	1.7	1.6	1.6	1.8	2.1	1.7
東 病 棟	3 F	16.0	13.9	12.4	10.7	15.8	10.3	12.2	15.2	16.5	16.0	17.0	15.5
	4 F	6.1	6.2	6.2	9.1	7.5	7.4	6.6	7.1	6.5	7.3	6.7	8.0
	5 F	25.1	22.9	21.0	18.7	17.7	18.0	19.8	20.2	17.8	27.3	23.4	23.9
	6 F	10.2	8.7	9.8	8.8	9.0	11.3	11.0	9.9	9.3	9.5	9.7	10.1
	7 F	19.4	14.7	14.4	16.9	15.9	15.6	16.6	13.5	14.5	15.2	15.8	19.7
8 F	19.5	20.4	23.0	20.7	15.9	21.8	20.0	19.2	22.9	23.3	19.4	18.2	
計		12.9	12.4	12.5	12.6	13.0	12.3	12.0	12.0	12.0	12.8	12.6	13.3

# 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 24 年度  
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	90.9%
5月	84.6%
6月	84.7%
7月	88.7%
8月	85.2%
9月	85.4%
10月	87.6%
11月	86.0%
12月	91.1%
1月	87.9%
2月	86.2%
3月	90.7%
合 計	87.3%

平成 24 年度  
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	64.3%
5月	59.0%
6月	59.5%
7月	56.8%
8月	58.3%
9月	61.6%
10月	62.0%
11月	60.4%
12月	66.6%
1月	57.7%
2月	65.3%
3月	67.7%
合 計	61.5%

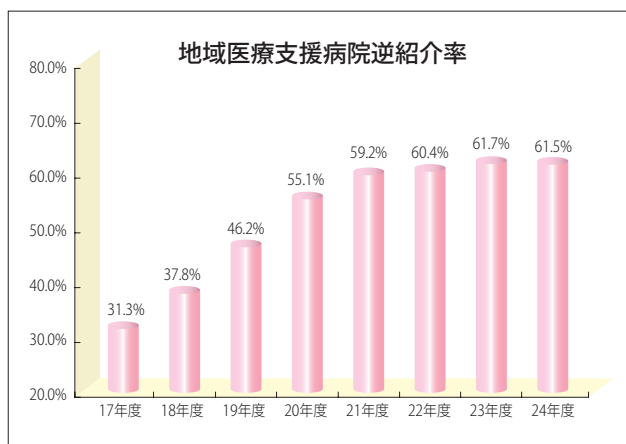
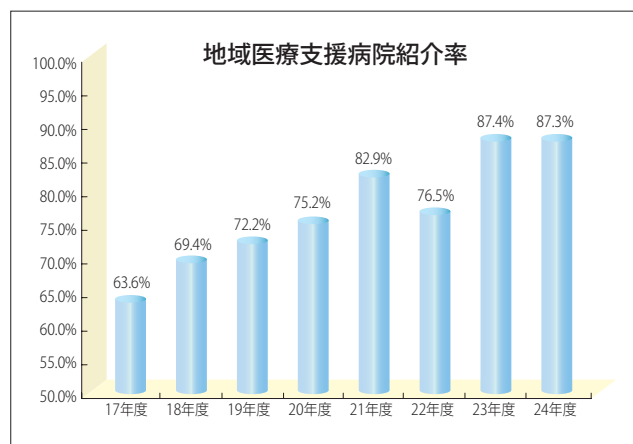
平成 24 年度  
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	94.0%
小 児 科	97.0%
外 科	93.1%
整 形 外 科	122.7%
脳 神 経 外 科	92.7%
産 婦 人 科	82.4%
皮 膚 科	72.4%
泌 尿 器 科	77.9%
眼 科	68.3%
耳 鼻 咽 喉 科	70.7%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	47.9%
麻 酔 科	89.5%
放 射 線 治 療 科	102.9%
画 像 診 断 部	99.2%
心 臓 ・ 血 管 外 科	99.3%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	126.7%
形 成 外 科	92.6%
合 計	87.3%

平成 24 年度  
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	94.3%
小 児 科	10.7%
外 科	41.7%
整 形 外 科	110.4%
脳 神 経 外 科	69.4%
産 婦 人 科	18.5%
皮 膚 科	10.2%
泌 尿 器 科	35.0%
眼 科	69.2%
耳 鼻 咽 喉 科	28.1%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	62.4%
麻 酔 科	37.2%
放 射 線 治 療 科	34.8%
画 像 診 断 部	123.4%
心 臓 ・ 血 管 外 科	30.2%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	▲ 150.0%
呼 吸 器 外 科	61.1%
形 成 外 科	35.8%
合 計	61.5%

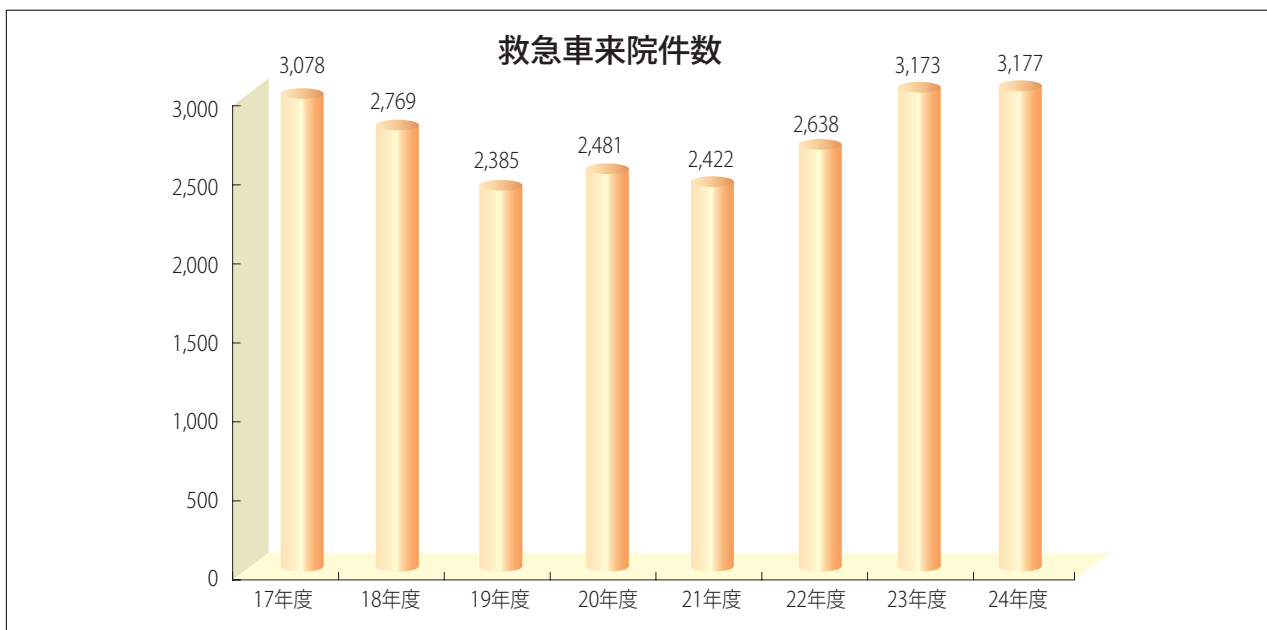
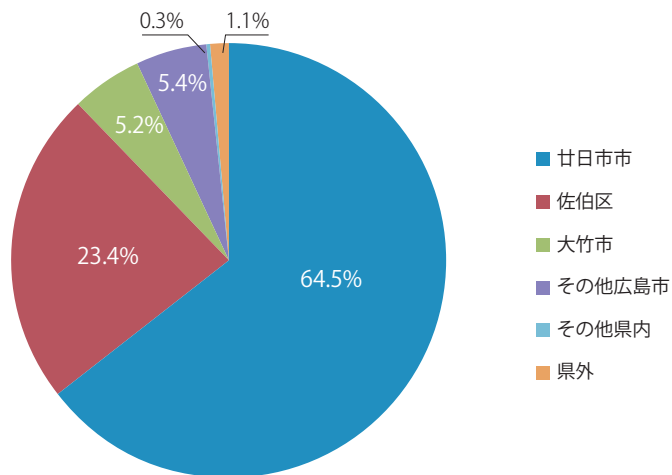
資 料



# 救急車来院件数

平成 24 年度  
救急車来院件数（管轄別）

平成 24 年度	
廿日市市	2,050
佐伯区	745
大竹市	165
その他広島市	171
その他県内	10
県外	36
合計	3,177





## 医療行為統計表

平成 24 年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科 心 療 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	93	100	96	89	99	98	114	91	74	82	82	85	1,103
整 形 外 科	81	96	97	104	124	97	122	103	95	101	109	87	1,216
形 成 外 科	5	10	6	8	7	10	9	6	9	9	3	5	87
脳 神 経 外 科	13	11	9	18	13	13	17	13	16	14	15	13	165
産 婦 人 科	32	44	33	40	47	46	39	36	35	35	46	31	464
眼 科	45	49	47	50	50	37	53	36	42	45	46	46	546
耳 鼻 咽 喉 科	21	24	20	23	23	13	21	25	18	20	17	22	247
皮 膚 科	24	25	28	24	22	20	21	16	16	19	17	22	254
泌 尿 器 科	32	37	37	32	30	21	34	33	30	29	27	29	371
歯 科 口 腔 外 科	8	3	5	2	15	9	2	9	7	9	9	8	86
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
放 射 線 治 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科	31	23	34	34	30	33	33	32	30	34	38	41	393
呼 吸 器 外 科	18	21	9	8	8	14	15	12	12	13	8	10	148
計	403	443	422	432	468	411	480	412	384	410	418	399	5,082
手 術 ( 外 来 件 数 )	44	44	48	41	39	37	50	22	26	34	36	32	
( 口 腔 外 科 )	(41)	(52)	(58)	(58)	(40)	(45)	(43)	(42)	(40)	(38)	(38)	(38)	(533)
内 視 鏡 下 手 術 ( V P P )	67	76	68	67	69	68	85	70	63	64	62	78	837
全 身 麻 酔 件 数	267	294	252	278	316	283	316	296	251	270	274	271	3,368

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	4,324	4,835	4,546	4,733	4,901	4,512	5,226	4,776	4,471	4,751	4,775	4,581	56,431
パ ン ト モ	91	95	128	99	100	87	110	109	93	120	105	112	1,249
骨 密 度 測 定	36	57	58	64	76	66	72	67	55	43	50	52	696
造 影 透 視 撮 影	204	227	226	246	272	224	253	237	237	224	240	256	2,846
上 部 消 化 管	126	131	178	182	168	160	180	181	150	145	142	68	1,811
注 射	8	13	7	7	8	9	9	9	5	8	6	11	100
血 管 連 続 撮 影	25	14	16	16	18	19	22	19	18	20	26	21	234
心 臓 血 管 連 続 撮 影	63	62	75	72	55	60	69	58	60	65	58	56	753
C T 各 科	357	430	422	499	566	522	657	570	575	587	560	625	6,370
C T 画 診	1,053	1,090	1,070	1,026	969	985	1,088	1,006	940	953	940	995	12,115
M R I	464	458	462	628	648	541	622	600	527	563	553	584	6,650
R I	80	79	84	78	95	63	87	89	86	83	69	61	954
リニアック(件数)	735	551	536	727	626	485	587	491	391	562	697	524	6,912
リニアック(門数)	2,607	2,050	2,133	2,975	2,232	1,943	2,239	1,857	1,538	2,349	2,498	2,133	26,554

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,813	2,056	2,021	2,032	2,009	1,957	2,137	2,122	1,997	2,159	2,042	1,932	24,277
ト レ ッ ド ミ ル	5	8	6	3	3	3	3	4	2	5	2	2	46
ホ ル タ ー 型	35	54	36	24	16	29	37	39	32	42	24	31	399
心 臓 エ コ ー	522	625	593	514	548	475	650	594	528	650	549	567	6,815
脳 波	57	41	34	40	70	45	53	39	47	39	42	54	561
肺 機 能 検 査	275	316	328	342	405	321	383	376	328	361	376	335	4,146
神 経 伝 達 速 度、電 流 知 覚 閾 値 測 定	177	176	145	133	163	168	186	167	124	137	145	165	1,886
重 心 動 揺 検 査	16	30	20	24	18	27	24	18	14	21	18	24	254
サ ー モ グ ラ フ ィ ー 検 査	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
脈 波 図・心 電 図・ポ リ グ ラ フ 検 査	185	194	208	247	224	227	218	179	176	218	241	240	2,557
体 液 量 測 定	170	174	147	134	160	169	189	162	136	136	146	165	1,888
病 理 組 織 検 査	1,033	1,167	1,216	1,125	1,114	1,095	1,323	1,162	1,065	1,127	1,070	1,070	13,567
解 剖 件 数	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	4

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来 処 方 箋 枚 数	9,904	10,294	9,987	10,295	10,428	9,368	10,706	10,438	10,150	10,146	9,878	10,341	121,935
外 来 剤 数(件数)	30,007	30,729	29,465	30,308	30,794	27,489	31,909	31,595	30,580	30,346	28,987	30,117	362,326
外 来 延 べ 剤 数	866,921	899,217	848,769	885,350	885,024	817,561	932,836	908,605	924,095	891,031	826,419	863,240	10,549,068
入 院 処 方 箋 枚 数	7,257	7,923	7,288	7,524	8,050	7,172	8,423	7,744	7,195	7,689	7,702	8,111	92,078
入 院 剤 数(件数)	13,043	13,810	13,124	12,957	14,526	12,148	15,026	13,683	13,269	13,585	13,667	15,192	164,030
入 院 延 べ 剤 数	77,386	80,737	77,294	73,301	93,872	69,773	84,760	76,454	90,443	76,906	80,991	134,958	1,016,875
入 院 服 薬 指 導 件 数	1,081	1,164	1,066	1,124	1,153	964	1,176	1,069	1,006	1,135	1,068	1,046	13,052

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	75	80	74	74	85	81	88	92	93	102	103	117	1,064
分娩	58	60	33	50	43	46	46	46	45	47	49	43	566
その他分娩	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
腎尿管結石破碎	2	8	13	18	20	14	14	10	4	10	7	15	135
化学療法件数(外来)	305	344	326	409	387	344	432	424	382	411	397	307	4,468
化学療法件数(入院)	107	124	152	196	211	144	200	165	137	199	237	204	2,076
(超音波内訳)													
内科	238	238	234	265	235	212	243	245	237	204	208	231	2,790
小児科	5	6	5	6	5	4	6	4	3	5	6	7	62
精神科心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	239	221	278	272	262	255	305	257	233	232	210	179	2,943
整形外科	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
脳神経外科	1	3	0	4	1	4	5	6	3	0	0	2	29
産婦人科	201	194	192	201	219	181	209	257	202	195	201	255	2,507
眼科	0	0	0	3	2	1	0	0	1	2	2	1	12
耳鼻咽喉科	24	32	26	29	24	26	32	30	27	24	23	33	330
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
泌尿器科	191	194	216	220	210	219	215	238	225	218	200	223	2,569
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	41	57	47	66	75	72	93	53	89	75	62	84	814
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	1	0	1	0	2	3	1	3	2	1	3	1	18
呼吸器外科	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	0	6
健康管理課	117	164	212	255	246	240	279	281	228	229	239	115	2,605
超音波診断計	1,608	1,726	1,809	2,068	2,028	1,847	2,172	2,114	1,912	1,954	1,158	1,131	21,527

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	224	234	220	249	233	273	276	259	270	260	258	272	3,028
胃ファイバー検査 ドック	65	126	147	163	146	150	160	182	149	149	163	117	1,717
気管支ファイバー検査	10	7	10	9	10	12	12	14	8	2	8	6	108
大腸ファイバー検査	96	85	104	109	119	134	131	132	114	94	109	123	1,350
上部止血(消化管止血術)	12	8	14	12	14	12	19	13	32	13	10	17	176
EVL(食道静脈瘤血漿術)	6	2	8	4	7	2	4	5	3	4	3	5	53
PEG(胃瘻造設術)	13	10	9	5	4	5	9	3	11	3	6	7	85
上部EMR(粘膜切除)、ESD	8	8	3	2	6	1	4	9	5	9	8	6	69
下部ポリペク(ポリープ切除)	15	16	19	21	14	30	33	36	26	26	33	35	304
下部EMR(粘膜切除)	16	19	25	25	18	23	29	34	20	27	36	31	303
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	25	17	17	18	21	17	24	29	30	24	25	28	275
EST(乳頭切開術)	11	19	20	19	24	17	10	21	19	21	13	22	216

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動リハビリテーション	475	558	562	678	596	480	558	544	443	431	479	457	6,261
脳血管疾患リハビリテーション	1,703	1,939	1,908	1,565	2,070	1,796	2,177	2,040	1,925	2,027	1,780	1,928	22,858
呼吸リハビリテーション	10	21	25	18	39	31	24	12	28	27	20	32	287
疾患対象外	112	136	139	133	186	141	156	171	132	148	169	139	1,762
心大血管疾患リハビリテーション	276	260	256	286	198	173	310	333	340	275	376	406	3,489
A D L加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早期リハ加算	1,687	1,859	1,932	1,733	1,951	1,637	2,183	1,948	1,935	1,782	1,818	1,909	22,374
リハビリテーション総合実施計画書	46	40	28	42	30	23	38	37	35	35	37	36	427
退院時リハビリ指導	37	67	66	63	74	57	77	77	74	51	65	64	772

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,698	5,384	5,081	5,486	6,022	5,840	5,816	4,801	4,510	4,683	5,532	5,405	63,258
全粥	11,022	12,032	11,679	11,927	13,755	11,704	12,551	11,797	11,581	12,541	11,684	13,022	145,295
五分	310	344	210	435	200	307	346	294	279	326	587	530	4,168
三分	259	253	219	195	247	263	302	318	236	199	220	182	2,893
重湯	256	447	373	269	373	364	424	497	367	322	312	438	4,442
特別食	13,407	13,868	12,832	12,860	12,958	13,346	14,168	13,806	15,118	13,674	14,152	15,788	165,977
計	29,952	32,328	30,394	31,172	33,555	31,824	33,607	31,513	32,091	31,745	32,487	35,365	386,033

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	112	117	120	155	129	125	129	159	135	138	149	192	1,660
入院栄養指導	56	65	66	62	49	52	46	51	58	42	60	65	672
集団栄養指導	17	17	16	13	8	15	13	11	10	9	13	13	155

# 医師科別人員／職員数の推移

平成 24 年度 医師科別人員

部署名		平成 24 年 4 月	備考
内科	呼吸器内科	5	
	腎臓内科	4	
	糖尿病代謝内科	3	
	消化器内科	9	
	循環器内科	7	
合計		28	
小児科	5		
外科	14		
整形外科	7		
脳神経外科	4		
心臓血管外科	3		
産婦人科	5		
眼科	2		
耳鼻科	3		
皮膚科	4	常勤3、非常勤1	
泌尿器科	3		
歯科	2		
放射線治療科	2		
画像診断部	3		
麻酔科	10		
精神科	1	非常勤	
形成外科	1		
呼吸器外科	2		
健康管理課	1		
病理研究検査科	1		
臨床専門研修医	0		
臨床研修医2年次	8		
臨床研修医1年次	9		
合計	118		

職員数の推移

区 分	H23 年 4 月	H24 年 4 月
医師	92	98
歯科医師	3	3
臨床研修医	14	17
専修医	—	—
医師部門計	109	118
助産師	29	30
保健師	87	95
看護師	410	417
准看護師	9	7
看護部門計	535	549
薬剤師	30	29
放射線技師	25	26
臨床検査技師	41	40
臨床工学技士	12	11
理学療法士	9	11
マッサージ師	—	—
作業療法士	2	3
管理栄養士	9	10
歯科衛生士	2	2
歯科技工士	—	—
視能訓練士	2	3
言語聴覚士	2	3
臨床心理士	—	—
社会福祉士	4	4
介護福祉士	—	—
医療技術部門計	138	142
事務	45	47
事務部門計	45	47
ボイラ技師	2	2
電気技師	1	1
運転手	—	—
調理師	—	—
保清員	1	1
保育士	—	—
看護助手	1	2
介護員	—	—
技術助手	2	2
労務部門計	7	8
出向	0	0
合計	834	864

# 学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本胸部外科学会(認定医)指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST 実施施設」
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設画像認定
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
P E G ・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
日本呼吸学会教育関連病院
優良二日ドック施設
腹部ステントグラフト実施施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技術専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設

# 編集後記

2012年度のJA 広島総合病院“Annual Report”が完成しました。

今回は診療科・臨床支援部門各部署の活動をより知っていただくため、各部署に割り当てられるページ数を増やし記載内容を充実しています。さらに院内の福利厚生にもスポットを当てる一端としてクラブ活動も取り上げています。当院の職場の雰囲気を知る一端になればと思います。

さて振り返ってみますと2012年度は「東北大震災」や「福島第一原発事故」で幕を開けた2011年と比べると2013年は5月の東京スカイツリー開業、ロンドンオリンピックでの日本選手団の活躍は久しぶりの明るいニュースがいくつかありました。ロンドンオリンピックのメダリストの銀座パレードに50万人の人も人が集まったことは明るいニュースをいかに待ち望んでいたかの現れと思われました。一方では関越自動車道でのバス事故、中央自動車道笹子トンネルの天井板落下事故、福山でのホテル火災等悲惨な事故もあり、また最新鋭で安全であったはずのボーイング787型機の相次ぐトラブルもあり、改めて安全とは何かということを考えさせられました。前年の福島原発事故と合わせて今まで当然と思っていた「安全」が大きく揺らいでいる日本の現状を突きつけられた気がいたしました。

医療の現場においても治療効果と共に安全性確保大きなテーマになると考えます。我々は治療効果を上げると共に安全に医療行為を行う様スタッフ全員であたらなければならないと改めて考えさせられました。

本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2014年3月  
年報編集委員長  
辻山 修司

## 年報編集委員会

小林 平	渋川 正顕	香山 茂平	古土井 明	新澤 正秀
近藤 丈博	山田 清貴	下地 清史	高畑 明	坂尻 明美
石崎 淳子	佐藤 澄香	小松 浩基	上田 雅美	寺澤千佳子
久保 和子	佃 真由美	荒田 晋二	砂田 朋子	山根 保博
橋本 智子	嘉屋 祥昭	飯田美智子		

**JA広島総合病院 年報 2012年度**

平成 26 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会  
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープリントメディア



JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital